

UFOと宇宙哲学の研究誌

GAPニューズレター

No. **72**

特集・80年度日本GAP総会



「光陰矢の如し」といひ、How time flies. という。いずれも年月の経過の早いことを表現した日英のことわざである。ひとくちに二十年といつても個人により思ひはさまざまだが主観的には二面がある。アツという間に過ぎた一面と、大変だったという苦難に満ちた一面である。前者を主に考えれば三十六年前の終戦の日に天皇の玉音放送を軍隊で聴いてから数日後に掃蕩したのがつい昨日のこととて、一夜明けた今日この巻頭言の原稿を書いているという感覚が抜けきれないし、後者のフイーリングからいえば宿命的な何かを感じさせるものがある。

いづれにせよ人間の一生ほど奇妙なものはない。というよりも人間という生物の存在すること自体が宇宙で最大のミステリーである。したがって人間のあいだで発生するあらゆる論争は群盲象をなでる式の妄論にすぎないといえるだろう。なぜなら人間が人間自体を理解しないのに、外界の事象に対して絶対公正な判断がくだせるわけがないからだ。

地球は「迷える魂の惑星」だという。これは詩人の言葉ではなく偉大な進化をとげた惑星の人々の憐れみと同情の表現であるらしい。むべなるかな、「貴殿の人生の目的は？」と尋ねても「別にない。マイホームを持って安穩な生涯をすごしたいと思うだけだ」と大抵の人は答えるのである。人間とは何か、ワレとは何かを考へる余裕は全く生じないらしい。またそのような事を考へても現実の生活に何らの利益をもたらさないし人生や世渡りとは無関係だと思つてゐる。こうして

七、八十年の生涯を飲んで食つて過ごし最後はボロ雑巾のような老体を病床に横たえて、何のために生きてきたのかと生命なるものに漠然と思考をめぐらせばまじまじなほうだろうが、大半の人はそのような哲学的思惟を起すこともなく、心身ともに疲勞困憊の極に達して、た息が絶えるだけなのだろう。いま自分の実体が別な新生児の美しい肉体へ移行して新たな人生の課程に入るのだと意識しながら去る人は四十億の人間の中で〇・〇〇〇一パーセントぐらいのものである。まさにこの世界は「迷える魂の惑星」である。一生を終えてからの行先

〈巻頭言〉
時間と進歩



を認識すらできないのだ。

しかし二十数年間の研鑽や努力をもつてしてもさほどの進歩はなかつたというのが編者のいつわらざる個人的反省である。ということとは実際には研鑽や努力を積まなかつたということになるのだろう。多年にわたつて繰り返した無数の失敗とへまはいつになつたら無縁となるのか。試行錯誤というようなキレイごとではなく、ドロドロとした醜惡な不可視の実体にとりつかれて、もがいては逃げもがいては逃げするだけの行動の連続の二十年であつたということになれば、最重要で最も恐るべきは年月の経過の迅速さ

である。こればかりは容赦なく万人に公平に襲いかかる。持つたなしに人間を老死せしめるので、気がついたら全く無意味な生活を送つて愚痴放出機と化した自分の種白ではなく現実の一般個人の心情的表現であり、無目的に地球で生涯を終える者のきまり文句である。

しかし宇宙の法則を知る私たちがこのような戯言の独白で最後の眼を閉じることなく、むしろ「この世界に生まれてよかつた！」と歡喜と希望に満ちたまま次なる肉体への移行に渾身の期待をこめて去り行くべきである。だれもがいつかは現在の肉体と訣別しなければならぬのだ。まだ若いから先が長いと思つてはいけない。昨日の若き美男美女は今日は老醜をさらす枯木として風に揺れているのだ。繰り返すが恐るべきは光速にも似たすさまじい年月の経過である。

してみると我々の進歩は刻一刻を争うべき問題であり、明日やあさつてのことではない。現在の「一瞬一瞬に自己のすべてが凝縮されカルマが秘められている。具体的に言えば、一瞬ごとに自己の想念を観察し、不純なる非宇宙的な低劣想念が押し寄せれば断固これを撃退して、常住坐臥、不断に宇宙の意識を意識する必要がある。これを意識的意識という。我々は死者の棺をかつく死人の妄動に同調してはならないが孤立化も避けねばならぬ。死人とはセンスマインドの死せる者を意味するのであつて、だれしも意識までは死滅してはいない。意識が死滅すればもはや転生の機会はなく、大宇宙の

意識の大海へ吸収されるだけである。センスマインドは死人のそれで、魂(意識)のみが肉体を支えているのが一般地球人であつてみれば、これを無下に排除するわけにはゆかない。できれば死せるマインドを生き返らせるように何らかの援助をなすべきだろう。

しかし何よりもまず自己のマインドを生き返らせよう。怠惰かつ傲慢な四つの感覚器官を叱咤激励し、宇宙の方向へ向かわせよう。周囲から死人がやつてきてあやしげな哲学やドソ・キホーテの狂言に惑わされるなど、したり顔で忠告しても頑やかに拒絶し、無言と微笑をもつて成えよう。

万物に創造パワーが宿り、それが宇宙の英知であり意識であることは絶対に否定できぬ事実である。この絶対次元を認識してその上に立つた絶対人間こそ我々の到達すべき目標である。これは単なる觀念論ではないし理論の遊戯でもない。実際にそのようなフイーリングを全身に起こすことによつて、自己の健康状態やカルマを奇跡的に大変化せしめ得るのである。

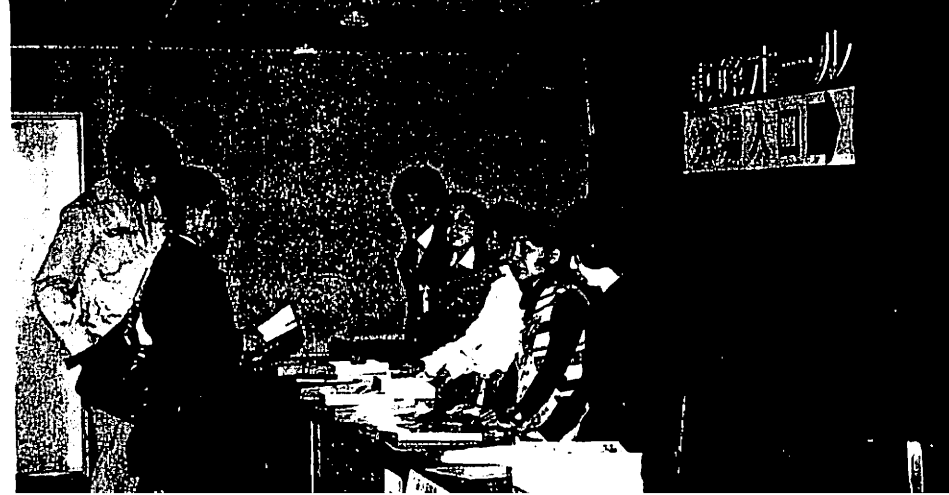
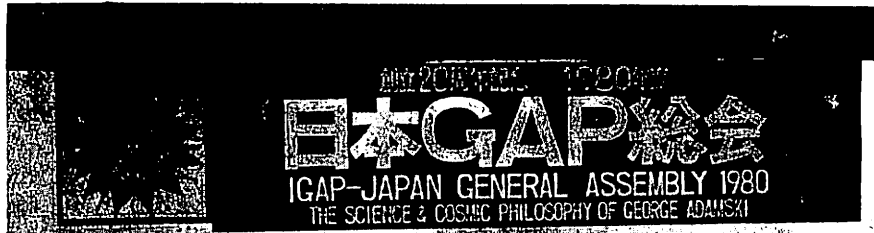
いかにすればそのフイーリングがわき起こるか？ 起爆剤となるのは「自分は絶対だ！」というミラクルワードの反覆である。これを四六時中唱え続けることによつて強烈なフイーリングがわき起こり、次いで大変化が生じるのである。人間個人に何の変化も生ぜしめぬ哲学は死人の思想にすぎない。我々は自己を変化させる宇宙哲学を学習中である。これを生かさぬということはない。

創 立
20周年
記 念

80日本GAP総会

大盛況!!

高次元の雰囲気と感動の一日が終了



創立20周年 記念総会頌

齋藤泰文

菊薫る十一月九日。朝方は重くたれこめていた雲も受付けの始まる午前九時ごろにはすっかり姿を消し、青空が目に見える。会場の東條会館一階大ホールも午前九時五十分頃にはほぼ満員。演壇上方に掲げられた金星のシンボルマークとアダムスキーの大きな笑顔がコバルトブルーのカクテル光線にくっきりと浮かびあがり、創立二十周年をむかえた日本GAPを祝福しているかのようである。

午前十時、大阪支部代表の平塚和義氏と同支部の渡辺優美子女史のなごやかな司会で記念すべき大総会の幕が切って落とされた。当日の第一講演者は松山支部代表の伊藤達夫氏。演題は「宇宙的生活

・司会の平塚和義氏と
渡辺優美子さん。



の基本」。氏が現に宇宙的生活を实践された体験談がたんたんと語られてゆく。特に氏は、日本に古くからある葬式あるいは墓まいりは非宇宙的因習の最たるもので、今すぐにも廃止すべきであると強調されていたことが印象に残る。

次の講演は仙台支部代表の立原弘可氏の「生活の中のアダムスキー哲学」。氏は機智に富んだ巧みなユーモアをまじえて会場の雰囲気をやわらげながら、職場での苦勞話を例に、生活の中でいかに、「信念」が重要であるかを話される。その話の中で「真剣」と「深刻」とはちがうという例話は味わい深い。

午前中最後の講演は静岡支部代表の野口敏治氏による「実践二十四時間」。氏は突生活の中で「感謝」の気持ちがいかに大切であることを体験を通して話される。中でも特に円盤との出会いの話や、夕焼雲による地震予知の話は非常に興味をひかれる。

昼食休憩をはさみ、会は午後一時から東京本部の遠藤昭則氏による「アダムスキー哲学と私の歩み」へと進行する。氏の本当に必要な書物というものは少ないという話や、宇宙的な生き方は明日からでは遅いのであり、今すぐ実行すべきであるという話は、身につまされる思いである。

その次は東京本部の志田真人氏の「宇宙哲学との出会いと実践活動の今後」。氏は今夏に行われた「アメリカ南米宇宙考古学の旅」の副団長としてビスタにおもむき、そこで受けたスズ、ホ氏、イ夫人からのティーチングをもとに実践活動

の今後について話される。「シンプリシテイの重要性」、「テレビシーの送受を行うには完全にリラックスした状態である必要があること」、「一日のうち必ず自分を高揚させる時間を作れ」、「英知なき知識は無意味である」等々の重要なティーチングの紹介は深い感銘を覚える。

大講演の最後は久保田会長による「アダムスキー問題の本質」。会長はアメリカ大統領の文藝など最新の国際情勢の變動の話からはじめて、地球物理学的のみならず、我々の住む地球が危険にさらされている事実を示唆される。特に、「ポール・シフト(極の移動)」が現に起こっており、異常気象や大地震の頻発は、これが原因ではないかとの見地から現在トプレベルの学者が研究しているという話是非常に興味をひく。そして実はこの極移動の話は何年も前にアダムスキーによってもたらされており、核爆発がまたこの極移動の引金となっている事実を指摘した。しかしこれらの衝撃的な事実に対しても少しも恐怖心をいだく必要はないのであり「宇宙からの訪問者」百七十四頁のフアーコンのことはある通り冷静に対処すべきである旨を強調されていたことは印象深い。

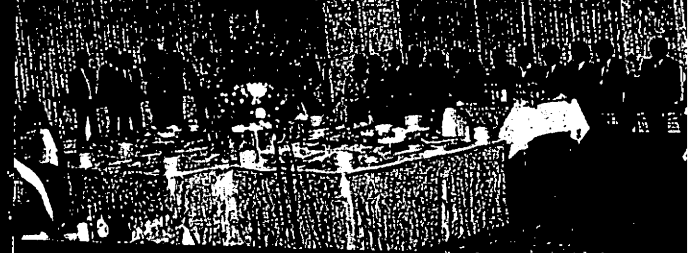
午後三時過ぎ、十分余りの休憩のあと菊地喜之氏撮影の映画「アメリカ南米宇宙考古学の旅」が久保田会長の解説付きで約一時間四十分上映された。ビスタでの素晴らしい日米合同夕食会の様子、デザートセンターのコンタクト地点付近の光景、不思議な南米の道跡群のたえずまい等々と参加したGAP会員の姿がダイ

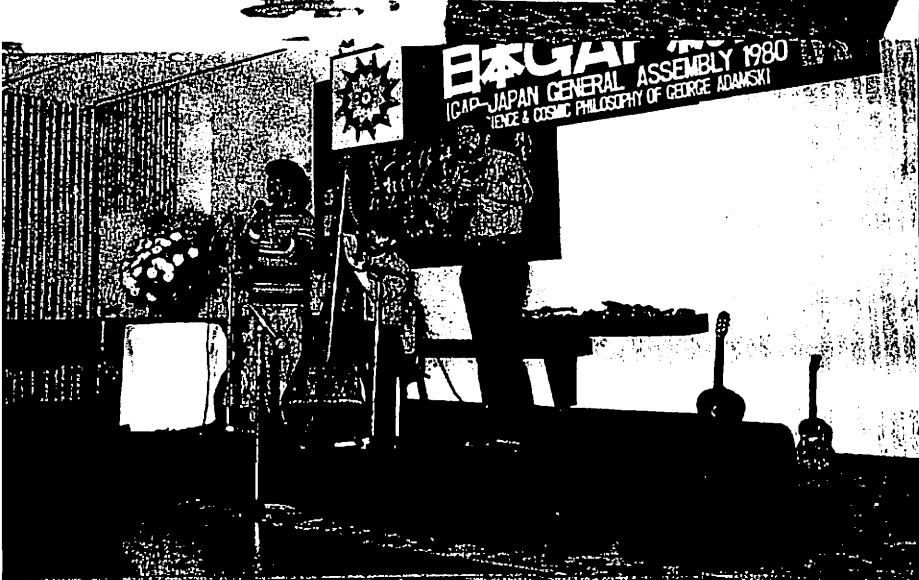
ナミックに描かれ、現に今旅行しているかのよう。
大講演会および映写会は予定通り午後五時に終了し、続いて五時半から五階スタの間での記念大パーティーにうつる。久保田会長の「乾杯」の音頭と共に日本人六名からなるロス・パコス楽団の華やかな演奏が始まる。全員の記念写真撮影のあと外人三名で構成されたロス・トロピカルレス楽団が素晴らしい中南米音楽の生演奏をきかせる。演奏に油が乗ってくるにつれて会場をうずめつくした百余名の参加者たちが手拍子にあわせて踊り出す。途中、久保田会長も楽団に加わってマラカスを演奏したり、ダンスの模範を示したりする楽しいハプニングも出てしまいは会場全体が一体となって音と人との大渦巻。司会者の声も轟々たる大歓声にかき消され、ほとんど聞きとれない。結局予定の時間を三十分もオーバーして午後八時三十分、熱狂的なまでに盛り上がった記念大パーティーはようやく終了した。

このあと二次会あるいは三次会へ流れた人も数多く、総会の余韻が深更までも続き東京の空を焦がすかのよう。大講演会といひ映写会といひ記念大パーティーといひ、全く創立二十周年を記念するにふさわしい素晴らしい総会だった。

総会を主催された久保田会長および参事会者全員の方々には心から感謝したい。







宇宙的 生活の 基本

〈松山支部代表〉 伊藤達夫

皆さんこんにちは。ただ今ご紹介いた
だきました松山支部の伊藤でございます。

本日は日本GAPの創立20周年の記念
すべき総会でありまして、ここに全国から
おいでになった皆さんとお目にかかるこ
とが出来まして大変嬉しく存じます。私
は総会出席は今度が初めてであります。初
めてでありながら講演をさせて頂いただ
くということで大変恐縮いたしておりま
す。全国から来られた会員の皆さんと一
度お目にかかりたいと、かねがね思っ
ておりましたが、今回その機会を得まし
てお目にかかることが出来まして嬉しい気
持ちでございます。

今日は、私がお話をする立場と皆さん
がそれを聞くという立場の違いはありま
しても二十周年を祝うということにつ
きましては同じことでありまして、とも



この記念すべき総会をお祝いしたいと思
う次第でございます。

会長はよくやってくれた

二十年前に久保田先生がジョージ・ア
ダムスキー氏からの直接の依頼によって
日本GAPを設立された頃はどのような時
代であったかと申しますと、当時は米國
とソ連の人工衛星が初めて地上から打ち
上げられることによって世界の住民が自
分の生活の中の狭いカラの中にとじこ
めて毎日の生活を送っていた、自分のこ
とや自分の周囲のことだけを考えて生き
ていたのが、急速に住民の目を宇宙に向
けはじめた、そういう宇宙時代の幕明け
にあたっていたのです。そういう時期に
先生が日本GAPを設立されたというこ
とは何か意味のあることだと思ってお
ります。

当時は、宇宙時代の幕明けの時期では
ありましたが、他の惑星に偉大な住民が
いて、地球へひそかにやって来て私達を
援助している、という様なことを言おう
ものならちょっとバカが気遣い扱いされ
て非難や嘲笑を受けた時代なんです。そ
ういう時代に先生は、非難や嘲笑をも
ともせず強い信念と内部の宇宙の意識
に対する絶大な信頼を基礎にされて、
アダムスキー氏との友情をきずなとされ

てこの道ひと筋に活動して来られたわけ
です。これは口で言うのはやさしいこと
ですがなかなか大変なことでありまして
そのお蔭で私達は現在GAP哲学を知る
ことが出来たというわけなんです。

他の惑星からこの地球を援助するため
に転生して来て、そうしてこの日本で生
まれて日本GAPを設立された宇宙的な
カルミクな指導者が私達の面前にいら
っしゃること、その方が開設された日本
GAPという「宇宙の学校」の私達は生
徒として、この宇宙の教えを学んでいる
ということなんです。これは本当に素
晴らしいことです。この偉大な方から私達
が学ぶことが出来ることはどんなにしあ
わせなことでしょうか。

よく人間の運命というのは、ある人と
の出会いによって決まると言われており
ます。まさに私達が久保田先生という偉
大な指導者との出会いによって現実に運
命が変わりつつあります。今まで知るこ
とのなかったアダムスキー哲学にふれて
それを実践することによって運命が急速
に転回しつつある人がいかに多いこと
あるかということをお考えください。
もし皆さん、この日本という国に久保田
先生という方がいらっしやらなかつたら
一体どういうことになっていったか、とい
うことをお考えになってみて下さい。私
達は未だに自分の内部に宇宙の意識が存
在しているマインドをそれに従わせるこ
とも知らなかつただろうし、「生命の科
学」や「テレパシー」の本を正しい翻訳
をして下さることによって正しく理解し
て実践することもなかつたであろうし、

結局マインドに振り回されて、マインド
のみの生活をすこすこことによって試行錯
誤を繰り返して暗やみの世界の中で生き
続けていたであろうことを考えた時に、
先生がいて下さったということ、そして
私達を指導して下さいっているというこ
とをどれ程感謝しても感謝しすぎることは
ないと思う次第でございます。

私はどのようにして

アダムスキーを知ったか

私をはじめアダムスキー哲学にふれ
たのは中学二年の時でした。私は本屋さ
んへ行つて立ち読みをする常習犯でして
よく近くの本屋さんで立ち読みをしてい
たんです。私がおまりに立ち読みばかり
して本を買わないものだから本屋さん
がはたきではたきにくるんです。「早く
帰れ」と言つてはたきにくるんです。それ
で辛抱強く本屋さんへ行つていたお蔭で、
「空飛ぶ円盤同乗記」という本に巡り合
う事が出来たのです。「同乗記」の本に
巡り合う丁度一週間前のことですが、や
はり同じ本屋さんで立ち読みしていまし
たらある雑誌に「アメリカ人で、アダム
スキーという人が砂漠で着陸した円盤か
ら降りて来た金星人らしい人と会見た」
という記事に接したんです。それで「こ
れは大変な事だ。これだけでは事実が判
らないから何とかして真相を知りたい」
と思つたのです。そうしましたら、たま
たま一週間程して同じ本屋さんへ行きま
したところ、書棚に「空飛ぶ円盤同乗記」
という本がありまして、よく見ると「ジ
ョージ・アダムスキー著、久保田八郎訳」

と書いてある。これは自分が一週間程前に知りたかと思つていたことを記してある本そのものじゃないか、というわけで早速買って帰りました。夜が寝られなくなりまして、朝学校へ行くでもがーとした顔をしていて授業中も先生の話を耳に入らないんです。窓の外ばかり見ていて夜読んだ本の内容のことばかり考えているんですから先生からよく注意されました。「勉強する気があるのかないのか」と。何分中学生の頃は非常に純粋な心なものですからその本の内容を純粋に信じたんです。「この本に書いてあることは本当の事だ。間違いない。この内容を自分は一生、生きる糧にして目標にして生きてゆこう」と思いました。そしてヒマあることに繰り返して繰り返して五十回位は読んだでしょうか。内容の全てが素晴らしいかったです。これが最も私の心に影響を与えたのは惑星人が「地球人は成長するまでにかかりの年月を要するが老化は早く来る。これは古い因習やしきたりのためであつて、惑星人は自分の生活の中に教訓のたまものを持ち込むからであり、無益と思ふものは全て捨ててからこのように若々しくなるのです」と述べている個所に非常に心を打たれました。以後、中学生の純粋な心で「よし、この生き方を自分は小さいけれどなんとか生きてゆこう」と思いました。

因習にとらわれなかった

それで自分の周囲の生活の状況を見つ

めてみますと色々なものがわしく古めかしい非宇宙的な習慣が存在しているところが判つて来たのです。それでメクラ蛇におじず式で気の付いた事からなるべく若々しい生き方をしてゆこうと思ひ実行しました。例えば日の吉凶、大安とか仏滅とかいう日の良し悪しなど宇宙にある筈がないのだから今後一切考えない事にし、自分の誕生日もご馳走して買つて祝つていたのも自分が生まれたことを祝うよりも、もう一つ年を取るような気がする、ロウソクの数が12本から13本になるのだから、その方に強い印象がゆくのでも止め、今に至るも誕生祝いはしてやりません。又仏壇に手を合わせることをやめました。それまではおじずさんやおばあさんの影響で敬虔に手を合わせていましたが、これを止め、お墓参りなども人間は死んで生まれ変わっているのだから墓へ行く必要はないというのでこれもやめました。「同乗配」の中でアダムスキー氏が金星の母船の中でタバコを出して吸おうとすると金星人のカルナという女性が「お好きなら吸つてもかまいません。灰を受ける物を持って来ましょう。ただこんな奇妙な習慣は地球人だけでですよ」といわれてタバコをまたポケットにしまいこんだという個所がありました。これに強い印象を受け「そう言えば大人というのには不思議なことをするものだ。口から長いものを出して先に火をつける。そして口の中からもうと煙を吐き出す。こんな奇妙な行為はよそう。どうもおかしいというので未だにタバコは吸いません。いわばメクラ蛇におじずでやっ

て来られた所で、私が社会に出て色々な経験を積んだ後でこの書物に触れていたから、これ程までに純粋に実行できたかどうかは疑問です。それと今から考えて見ますと私のこうした生き方に対して、私の両親は良い意味で変わつていたといいますが、小さい私がそのような生き方をしても何にも言わなかったのです。全く干渉しませんでした。最近になってそれがわかつたんです。自分の親のことを話すと感謝しております。私が新しい生き方をしようとしてもし親が干渉していたら、これ程まで実行できたかどうかかわりません。とにかく非常に物わかりの良い両親であつたと思ひます。

古い習慣を打破しよう

そういう風にして若々しい生き方をした来たものですから、先日久保田先生がビスタの本部へ研修旅行に行かれた時に本部の方から「宇宙的な生き方というのはテレパシー能力を高めることは勿論だが、それだけではなくて実際の生活の中にある古い生き方を打ち破つてとらわれないうようにする事が大切である」ということを強調しておられた事を聞いて「自分の生き方というのはそれほど間違つてはいなかった」という自信が湧いて来まして非常に共感を覚えました。

先日松山支部月例会で、ある主婦の方が体験を話しておられました。この方がお里は九州の熊本市でして、ご主人のお父さんが重態なので看病をしなけれ

ばならないことになり、熊本からしばらく山の中に入ったある町で約一か月間看病されて帰つて来られておっしゃっていました。「田舎の因習の強いにはうんざりして、へきえきしました」と。

その方はご主人の会社の都合で転勤がありますので年寄りの方とは一緒に暮らしておられませんが、今回はたまたま看病に行つた為にお年寄りと同居することになったのです。どういふことにへきえきしたかといふと、「よそからお見舞をもらったが何をお返しすれば恥をかかずにすむか」とか「お寺のお坊さんにお布施を包むのはいくら入れたらよいか」とか、「近々寄り合いがあるが誰を上座に座らせて、二番目、三番目に誰をもつてくればよい」とか、この様な事を考へて一日中朝から晩まで費やしている。そうして毎日を送っているといふことなんです。何ら建設的な考え方を全くしない。過去の人が敷いた古い習慣というレールの上に乗つてただ生きていくだけのもので死体のような人間なんです。自分で考へて自分で行動することがないんです。いわば過去の人です。

考へてみますとこうした現象は何も熊本の本山の中のみでなく日本中到处で見られる現象ですね。今日ここににお集まりの皆さんもしゅちゅう家庭の内外で経験しておられると思ひます。恐らく日本の中で他人に干渉されない自由な生き方が出来るのは東京ぐらいのものだと思ひます。大阪になるとちよつと古くなつてきまして、名古屋になるともう一つ古くなるといふ具合で大なり小なり古い

生き方をしていると思うのです。

特に日本人は、本来ならば大変醜い因習を美しくして芸術化して儀式化していますので、子供の頃からしきたりに慣れ親しんでいて、しかも美しいものですから、それに陶酔する傾向があるようです。生活の中で何が宇宙的な生き方であり、何が非宇宙的な生き方であるかの区別がなかなかつきにくいわけなんです。それに私達の生活の中には宇宙的なものとは非宇宙的なものが複雑に織り合わされていて区別がつきにくい状態になっています。例えばどのように美しいかと申しますと、葬式を例にとりますと、人が死ぬとみんな黒い喪服を着て集まります。それが制服みたいなものです。その黒と対象的にお坊さんは金糸銀糸の美しい法衣をまとうてありがたいお経を唱える。蓋前は綺麗な花輪で飾られています。終われば田舎の道をのぼりや旗をなびかせて行列がしらずしらずと行く。まあ一服の絵です。一種のお祭りです。そういう風に因習を美意識でとらえるものですからどうしても古い習慣に没り込むことになり

私が体験したある一例

しかし私達は美しいからといって、古く習慣に振り廻されてはなりません。やはり知恵をみかいて、それが宇宙的な生き方である人間を非宇宙的にさせて後退させるニセモノの生き方であるかをチェックする必要があると思います。それをしてしないとよくわからないことになって

まいます。ブラザーズは宗教を一切相手にしないということですが、これは当然のことだと思えます。人間を非宇宙的にさせる組織や団体にブラザーズが味方したり加担したりするはずはありません。そして宗教的な行事というのが私達の生活の中で因習と密接につながってしまっています。一大張本人であるといえると思えます。本来、宗教は、人間を苦しみや悩みから解放して自由でのびのびとした生活を過ごすための指針を与えることが本来の目的であるはずですが、実際にはそうではなくて、人間を古いしがらみの中に縛りつけるために大きな役割りを果たしているわけで、だからブラザーズが相手にしないのも道理であると思うわけなんです。

私達は新しい生き方と古い生き方の二つに同時に仕えることは出来ません。どちらかの生き方をしなければなりません。敷居をまたいだ格好で前足を新しい生き方に置き、後ろ足を古い生き方に置いた状態というのは意味がありません。どちらの生き方を選ぶか決断を迫られる時が必ずやってくると思うのです。そのように決断を迫られる体験を最近、私自身がありましたので、その時の体験をお話してみたいと思います。

今年の三月二十三日に松山支部大会が久保田先生をお迎えして開かれました。その時に私は、大会の司会と前後の運営全般の責任を負っていました。明日は久保田先生がおいでになるといわれて張り切っていました。すると大会の前日に

「いま母が死んだ。明日葬式をしなければならぬが、親類が少ないので困っているからすぐ手伝いに来てほしい」といって来たのです。それを聞いた時に私は目の前が一瞬真っ暗になりました。この従兄弟が自分の兄弟よりも親しくして心の通い合った相手だったので。父親は早く死んでしまっておらず、母親と兄弟三人が暮らしていたのが、今度は母親が死んでしまった。もうみなしご同然になったのです。三人とも結婚しておらず独身なんです。頼る相手といえば私とかあとは数えるほどの人しかいないのです。そんなわけで一瞬私も迷いました。

考えて見ますと、この地球上で最も古い生き方の典型的な象徴である葬式という儀式と、この地球上で最も宇宙的な生き方の会合である日本GAP松山支部大会。こうした新しい生き方と古い生き方のどちらを取るかという状態に私は追い込まれたのです。どちらかに決めなければなりません。その時にいさぎよく新しい生き方を取りました。もう従兄弟に一生涯恨まれてもいい、親類付き合いを断られてもいい。従兄弟から嫌われたならばそれだけで済むけれども、自分ももしGAP松山大会に行かなかつたら一生大きな傷をつくることになる。ダイヤモンドどころではなく、それよりも遙かに偉大な何物かを今生で失うことがはつきりわかっていました。それならばいさぎよく宇宙的な生き方を取ろうと思つて葬式の世話を断りまして、東京の兄に電話して「至急帰ってこないだろうか」とかうと「よしわかった。代わりをしようじ

やないか」ということで兄に葬式に行ってもらつて私は支部大会に出席したのでした。そして三日間、久保田先生のおそばで色々とお話をお聞きし、ご指導していただきました。それと全国から来て下さった会員の皆さんと交流して友情を深めることが出来たのです。そのことがあつてから私は、GAP活動にまい進する力がわいて来たんですね。このGAP活動を今生の糧として、目標として生きてゆこうという強い決心がついたので。

もし私があの時「従兄弟の葬式はこれ一回限りだし自分ないから可哀そうだから手伝いに行つてあげよう。GAPの大会は今度だけじゃなくて、これから何回もチャンスはあるから、今度は誰かに司会と運営はやつてもらおう」などと考えて、大会に出席しなかつたら、今日の私は存在しなかつたと思います。それははつきりと断言出来ます。

親切さの重要な意義

そんなわけで、たまたま私自身が古い生き方を取るか、新しい宇宙的な生き方を取るかというギリギリの決断に迫られるという体験をしたのですが、新しい生き方がいかに大切なものであり、古い生き方が人間が宇宙的に生きようとする足をいかに引つ張っているかがよく理解出来ましたので、今後はなるべく古い考え方にとらわれない生活をしようと思つております。宇宙的な生活の基本は、これまでお話ししましたように新しい生き方をするにはありますが、もう一つは

「報いを求めないで周囲に親切な行為は思いやりのある態度を示してゆくこと」にあります。この事は久保田先生がニューズレターや月例会等で度々述べておられます。特に目新しくはありませんが、ビスタの本部の方々も久保田先生に「アダムスキー氏はGAPに関係のない人にも温かい思いやりある態度で接した。私達もそうしている。だからあなたもそうしなさい」と言っておられました。私達が集団に気がねをしないで新しい生き方をやる事自体は立派な行為です。しかしあまりにも周囲の気持を無視してかかりますと、周囲からは「あの人は言っている事は立派だが、どうも礼儀を知らないし、無作法だ。他人の気持ちにくみ取ろうとしない。自分勝手に自分だけ良い子になろうとする利己主義者だ」というような見方をされるとあまりよくないですね。私達はこの世に生まれた以上は自己共に調和し合ってお互いに励まし合って助け合うことで、この世の中を少しでも住み良い世界にしてゆくという使命があると思います。そのことを自覚しないために世の中が混とんとして混乱ばかり起こることになると思うのです。このGAP哲学は宇宙的な生き方をすると共に、周囲に親切な行為をすることが必須条件になると思います。私はここ二、三日間親切な行為というのはなぜ必要であるかと考えてみました。それでわかったのは、親切な行為はエゴの心ではないですね。古い因習にとらわれている心がエゴの心なんです。自分は新しい生き方を実行しようとするけれど、出来ない人が多い

です。これは内部のエゴの心が妨害しているんです。「そんな新しい生き方をしたら周囲から嫌われやしないだろうか」あるいは「そんな事をしたら田舎のことだから、あの人は協調性がない付き合いの悪い人間だと思われて村八分になるのではないか」というふうな恐怖心が出て来て妨害するんですね。私達GAP会員はエゴの心やエゴの心から派生した恐怖心に自分のマインドを支配させてはならないと思います。しっかりとした信念を持ち、自分がこの新しい生き方をしようとするのは自己の内部の宇宙の意識の呼びかけであること、衝動が起こってきていることを自覚して、それに従うことは正しい行為なんだという強い信念を持って行動することによって宇宙的な生活は成就すると思うのであります。

それで親切な行為は自分の内部からの意識の発現ですから、それに従って相手に親切にすれば、相手の内部の意識が表面に呼びさまされて来て共鳴作用を起こすのです。親切にされた相手は「自分は大変困っていた時にあの人は親切に相談にのってくれてアドバイスしてくれた。そのお蔭で道が開けてきた。自分は本当に嬉しかった。この世の中は冷たい人ばかりで実もフタもない世界だと思っていたけれども、あの人が親切にしてくれたお蔭でどれほど自分の心に喜びを与えてくれたかわからない。この受けた喜びを今度は自分が他の人が困っていたら返してあげよう。励ましてあげて相談にのってあげよう」という気持が起こってくるのです。これがその人の内部の意識

が発現してきたわけなんです。ただ、親切な行為と申しましても、知恵を働かせてある人に親切にするのがよいか、そつとしてあげる方がよいかどうかは内部からのフィーリングにしたがう必要がありますが、基本的には、今申し上げたように、自分と他人の両方の内部の宇宙の意識を発現させることが親切な行為だと思います。

中国の論語の中に「君子は和して同ぜず」ということわざがあるのを皆さん、ご存知だと思います。この「君子」という意味を私は「知恵のある人」、または「英知ある人」と考えております。このことわざは、他人と調和していても日頃の行動は同調しないという生き方こそ宇宙的な生活の基本を最も象徴的に表現した言葉だと思っております。日頃は周囲とは生き方が違いますが、自分は新しい生き方をしており、周囲は古い生き方をしている。この世界はお互いに各人の生き方を選ぶ自由がありますから、それに干渉する事は出来ません。他人がたとえ古い生き方をしているに干渉すべきではありません。しかし相手が困っている時には、行って手を差し伸べて援助してあげることによって表面的ではなく、真の意味の和解、人間関係の調和が現れてくると思うのです。これが真の意味での「和」であって、行動を同じくすることとが「和」ではありません。行動は別々でも心の奥底でお互いに調和して尊敬し合っていることが本当の和解であって、これが本当の民主主義の基本だと思わ

けでございます。そんなわけで、因習にとらわれない新しい生き方と他人への親切な行為という二つが相まってはじめて宇宙的な生活の基本が成り立つと思うわけでございます。

若さが最も大切

話は変わりますが、皆さん宮内温夫さんをご存知ですね。日本GAPの会員で大変有名な方です。アメリカへ渡られてニューヨークのブッシュビーン・スタジオで指導者に認められて、「タイム」という有名な雑誌の表紙のイラストを二度も描いて、一躍有名になった方です。この宮内さんは、実は松山の出身なんです。GAPの先輩であると同時に私は非常な親近感を覚えるのです。まだお目にかかったことはありませんが、ぜひ一度お会いしたいと思っております。この方がおっしゃっていました、「日本GAPの会員は若い方が多いが、アダムスキー哲学を頭では理解しているのだが、どうも信念がもう一つ弱いのではないか。このことを皆さんに伝えてほしい」と久保田先生に話しておられたことを聞きまして、私は信念が弱いというよりも、若い会員の皆さんがこの世における若者の役割りを認識しておられないからではないかと考えました。この会場に来ておられる方々も若い人が大半で、よほどのお年寄りはいないですね。若い方ばかりです。それで、あえて皆さんに申し上げたいことがあります。それは、この世の中を表面的にはともかく、真の意味で改革して

ゆくのは若い人であることを知っていた。決して老人ではありませぬ。老人というのは過去の人が敷いた古い習慣やしきたりを、ただ守り続けてゆくだけの存在にしかすぎないのです。決して新しい生き方を生み出したり、世の中を宇宙的に前進させたりする力は全くありません。この力は若者にしかないのです。これは私が自分の考えだけで申しているわけではありません。歴史的な事実なんです。例えば日本の歴史を振り返ってみますと、昔からゆくと、「大化の改新」があります。これは若い藤原鎌足や、中大兄皇子といった二十代、三十代の若人が新しい時代を開きました。中世では鎌倉時代の創設があります。これは源頼朝が三十代の若さで、当時の平安貴族の怠惰を打ち破って鎌倉に清新な政府を樹立しました。最近では明治維新があります。吉田松陰、坂本龍馬、桂小五郎といった人達が、「よし活動しよう」と思いついたのは二十代、三十代ですからね。当時、その人達は今のGAPの皆さんと同じように日本人の意識レベルをはるかに越えていたんです。坂本龍馬などは当時、すでに「地球」という言葉をたびたび志士との対話の中で使っています。あの時期は幕藩体制がくずれて、日本国民がようやく一つの藩のカマを破って、日本を一つの国としてとらえようとしていた時期だったのです。そのような時に龍馬はすでに地球という観点でこの世界を一つの世界としてとらえていたのですから、彼の考え方がいかに宇宙的であり進歩的であったかがわかります。

龍馬が生きた時代は政治的な時代でした。私たちの今の時代は、政治的な時代ではありません。しかし、本質は変わっていない筈です。とにかく当時の若者たちが、老人の支配を打破して活躍したからこそ、前達が出来たのです。ですから老人がいばつて居る時代は暗黒の時代であり、若者が活躍する時代は、光明に満ちた前進の時代です。今の日本は老人が支配しているから、あまり良くないですね。

とにかく、「若い」ということを皆さんにもっと自覚していただきたいのです。若いからこそ、この新しい宇宙的な生き方が出来るのだということを。私はこの会場にお年寄りが来ていたら、こんな事は言いません。若い方々ばかりだから申し上げるのです。若いからこそ、世の中を改革出来るのです。たとえそれが政治的な表だった華やかな活動であれ、逆に私たちのように地味で目立たない活動であれ、それは一切関係ありません。真に世の中を変えてゆくのは若者であること。そして強い信念と自信をもって堂々と世の中を生きていっていただきたいと思えます。私たちには、宇宙哲学という素晴らしい哲学がありますからまさに鬼に金棒です。この哲学を基礎にして若者の役割を認識して生きて行っていただければ不可能なことはないと確信しております。

えるだけの二十年間でした。「この生き方をしなさい」と、決して強制はなさらないかったですね。ただ、「皆さん、こういう生き方がありますよ。この生き方は素晴らしいから実践してゆきましょう」とアドバイスや示唆はなさいましたが、強制はされませんでした。ただ私たちに与えるだけの二十年間でした。しかしこれからの二十二年間は、先生が私たちに何を与えて下さるか、を期待するのではなく、私たちが先生にどんなことをしてあげられるか、どんな協力出来るか、ということが課題だと思っております。

皆さん、これからも手を取り合って日本GAPという「宇宙の学校」の中で、ともに学習に励んでゆくようではありませぬか。

生活の中の アダムスキー哲学

〈仙台支部代表〉 笠原弘可

皆さん、こんにちは。私は仙台支部の笠原です。この二十周年記念の総会に際しまして心から喜びの意を表したいと思います。ひと口に二十年といいますが、並大抵のことではありません。特にGAPは政治、宗教等と全く関係なく、会員制といっても資金は機関紙代だけで、全くの個人的奉仕活動なのです。この活動に対する絶大な信念があれば、必ず途中で消滅していたに違いないです。さまざまな障害を乗り越えて、こんにちまで私達を御指導下さいました日本GAP会長久保田八郎先生、本当にありがとうございます。今後とも益々の御活躍を期待しております。私達もできる限りの協力を続けていこうと決意を新たにしているところです。

GAPの総会といえますと、私は三年前のことを思い出します。丁度フレッド・スタックリング氏の講演のあった時です。私のすぐ後にいた二人がこういう会話を交わしているんですね。「GAPって何の略なんだい、ジョージ・アダムスキーPR活動かい」と言っているんです。



このアダムスキー哲学は永遠の若さの象徴です。この哲学を生活に生かして生きる人は老いることはないでしょう。常にその人には若さがあることでしょう。この哲学を基礎にして宇宙的志向に生きる人には、生命は永遠であることでしょう。そうして永遠に宇宙を旅する若き旅人になろうではありませんか。

これで私の講演を終わらせていただきます。どうもありがとうございます。

私はおかしくて吹き出しそうになりました。もしかしたら冗談でいっていたのかも知れません。もう一人が「グット・アールコール・プログラムだ」と答えたかどうかは記憶していませんが、まあ、これは笑い話です。

さて、この記念すべき総会におきまして、講演の御依頼がありました時、正直いまして非常に驚いたのです。もとよりこの演壇に立つて皆様に話せる何ものもない私です。しかし、これも良きレッスンを与えられたものと思い、全力を尽くしたいと思えます。

私は人前で話すのが苦手でした、今年の山形・仙台合同支部大会でも挨拶をしましたが、いざ皆さんの前に出ますと、考えていたことをすっかり忘れてしまったのです。結局、どういつたかと申しますと、「今、山形支部の山口氏が、私の言いたいことをすべて言っ下さったので、私は何も言うことはございません」とやっただけです。これは非常に便利ですが、今日は以下同文という得意の手を使えませんでした。



各自のレッスン

アダムスキー哲学につきましましては、皆さん、くわしく研究されていると思えますので、その哲学を生活の中で実践する際の私の考え方、あるいは実践している方法などをお話ししたいと思います。

アダムスキー哲学あるいは宇宙哲学など私たちによく口にしますが、簡単に考えますと、これは宇宙のどこにいても通用し、なおかつ、有意義な生活を送れる方法ということができると思えます。つまり、この哲学は普遍的なものでも、決して個人的なものでもありません。しかしながら、これを身につける方法にはある程度個人差があります。むしろ、統一化した方法で行うことの方がこわい気がします。精神道場などといって、集団で同じ行動をし、同じ行法をして教えを説いているところもあるようです。一人一人の学ぶべきことが異なるのに、これに本当に進歩できるのでしょうか。他人にこちそうを食べてもらっても自分がおなか一杯にならないように、他人から押しつけられた方法によって向上できるとは私には思えません。あくまでも一人一人が、実生活の中でレッスンしていくもので、その際、方法に個人差がでてくるのは、やむを得ないことだと思います。

私の考え方は、かなり独断と偏見に満ちているかも知れませんが、皆さんの賢明なる判断力をもってお聞き願えれば幸いです。

人生は楽しむためにある

アダムスキー氏の書物を研究しますと、センスマインドのコントロール、想念の観察、宇宙の意識との一体化の方法などが述べられています。よく読んでみますと、私達が実生活でどのように具体的な問題に対処し、解決していけばよいかはほとんど書かれていないことに気づきます。実際一つ一つの例をあげて書きますと、何万ページの本でも足りないと思えますが、とにかくアダムスキー哲学を生活にどのように生かすかは、私達の手に任せられているわけです。

私はときどき自分に問いかけることがあります。なぜ、人間は生きるのか、生きねばならないのか。この答えは、きつと言葉では言えないと思いますが、いえますことは、総ての生物が生きようとする意思を持つている、ということですが、人間の存在の深い意義について語ることはとても私にはできません。しかし、幸福を求めて生きている、とは万人にあてはまることだと思っております。「幸福」という言葉もあいまいです。わかりやすく考えますと、人生を楽しむ、楽しく人生をすごす、ということだと思っております。

「宇宙からの訪問者」の中に、こんなところがあります。母船内でのアダムスキー氏と金星の女性カルナとの会話の場面です。カルナが地球の現状について話したあとの文です。

「このようなことを語るにつれて、カルナの表情にたたえられていた自然の快活

さすべてが憂愁で消されていった。すると彼女は、低いテーブルからグラスをとりあげて、それを一口飲むと、また微笑した。グラスを置いて彼女はいう。「こんな悲しいことをお話しするのはたいそう残念です。しかもこのような苦惱が宇宙のどこかにまだ存在するなんて、いっそう悲しいことです。他の惑星に住む私達はそのようではありません。とてもよく笑うのです」。この簡単な話の言葉に私はすっかり感動してしまつた。彼らは各自の惑星において楽しいのだ」とあります。

そうです。まず何より、楽しく明るくあることが、アダムスキー哲学を生活に生かす上での根本ではないでしょうか。逆にいうと、喜ばしい生き生きとした人生を送るために、アダムスキー哲学が存在するとも言えるでしょう。

そんな哲学も思想も必要ない、我々は充分人生を楽しんでいる、とある人は言うかも知れませんが。人生とは苦しいものだと思ひ込んでいる考え方は良いかも知れません。しかし、ここにおられるGAP会員の皆さんはこれでは満足されないでしょう。私達は何となく人間を知りたいのです。万物を知りたいのです。そして生命を感じたいのです。そのような宇宙的な生き方をしようという、どうしようもない衝動をもち、そのような生き方に、最大の喜びを感じる人々の集まり、これがGAPなのかも知れません。

笑いは幸福の源泉

最近、GAPのある女性会員の方から素晴らしいお手紙をいただきました。別にラブレターではございませんが、その中にこんな文章がありました。

「いつも明るい楽しい想念状態にいるための一つの方法を考えました。それは常にどんな時でも「ニコッ」「ニヤリ」と笑うことなんです。今は意識して無理に笑っていますが、いつの日か必ず無意識のうちに美しい微笑ができることを信じて努力していきたいと思います。無理にでも笑おうと必然に楽しい気分になってくるから不思議です」

大変素晴らしい方法だと思います。ある本で読みましたが「笑おう会」という会があるそうです。指圧で有名な渡越徳次郎氏が笑裁だそうなんです。あの「指圧の心は母心」という名文句で知られた人です。毎月例会がありまして、笑いのたねを持ち寄ってはみんなで笑いまくるということなんです。テレビで紹介されたのを見たことがあります、みんな笑うために参加しているものだから、その笑いはすごいんですね。あるお年寄などは、入れ歯をとばして笑っているんです。ハッハッハッ、カバツという感じですよ。その場面をもう一度スローモーションでやりましたが、最初はハッハッハッという声ですが、途中から突然フッフッフフッという声に変わるのです。

この笑おう会顧問の医学博士宮入氏はこう言っています。

「動物で笑えるのは人間だけで、笑いは人間の特権である。笑いのない人生は歌を忘れたカナリヤのごとく人生の砂漠

である。微笑みは血圧を下げる最大のくすりにして微笑みにまざる化粧法なし。大笑いは横隔膜の上下運動をおこして胸中のうぶぶんを去り、腹中のこりを除いて消化を活発にし、不眠症の最大の療法である」

まあ訳もなく町の中を笑って歩けば間違えられますが、冗談の一つも聞けば笑える、という柔軟で明るい精神状態は、アダムスキー哲学を实践する上での基本と申すのです。

アダムスキー氏は「テレバシー」の中でも「生命の科学」の中でも、自然を観察する事を教えています。明るい精神状態です。彼ら自然界の囁きを聞けると申すのです。逆に、自然界をながめて、心が暗れ暗れしてくることもあるでしょう。

ここで重要なのは信念です。沈んだ気持ちを持ち直らせる力は信念です。信念はどういうふうにも応用できます。

例えば、金こそすべて、財産こそすべてだ、という考えの人は、金を絶対もっていてやる、という信念を自分の中に強くもつこととなります。あまり、こういう信念はもちたくありませんが――。

信念が重要

私達は否応なく現実の中にいます。他人に「世間は甘くない」などと説教されないまでも、みずからきびしい問題に直面することもあってしょう。そんなときでもなお堂々たる精神を保てる、あるいは、いつとき落ち込んでもまた明るい希

望に満ちた状態によみがえるためには強い信念が必要です。

私は国鉄に勤務しておりますが、前にいました駅は組合活動が非常に盛んな所でした。組合一色の駅なのです。別の組合員であつたり組合に入っていないかたりますと、露骨にいやがらせを受けます。九割以上が某組合員ですので、私のように組合に入らない職員への風当たりは相当のものでした。ちなみに、国鉄はオープン・ショップ制といひまして組合に入ってもいいし、入らなくてもいいのです。何人か集まって新しい組合を作ってもよいのです。現在知られているだけで六つか七つの組合があるそうです。

対立する人間の間では、挨拶もしない口もきかないということが普通に行われているようなどうしようもない駅でした。入社して三カ月後、私は辞表を出し、転職を考えました。しかし母の異常なシロツクをまああたりにしたのです。最後の最後は、どんなに説得しても家族が自分の考え方に反対の場合は、家を出るしかないと思つたのですが、極力家族や周囲との調和を保ちたいと考えていましたから、その時は辞表を撤回しないわけにはいきました。

その当時に私にとって一番きつい時期でした。そしてそんな時、私を支えてくれたのは、やはりアダムスキー氏の言葉でした。生命の科学の中にこんな言葉があります。

「たとえば、一独裁者が人民を支配しようとするとき、他人に対するみせしめとして自分に反抗する者を殺します。こ

んな野蛮な方法で実例が示されるのに、我々が世間に対してすくれた実例を示せないことはありません」

強い意志を示しながら相手に悪感情を持たないということは非常に難しいことです。

組合への加入を勧められれば、はつきりと断りました。しかし挨拶することも普通の態度で接することもやめまいと思ひました。このころほど「つまらない想念に混乱すること程つまらないことはない」と痛感したことはありませんでした。そして職場から帰る途中、山の頭上に広がる空に向かって、「自分は自由なんだ。宇宙の大生命力と一体なんだ」と毎日のように繰り返したことを忘れることはありません。

今から二年半前に転職しまして、思い出多いその駅を後にしましたが、そういつた組合の幹部から「色々あったけど個人的には……」と言葉をにこしながらも個別をいただいた時は印象的でした。あとでビールのギフト券を持っていたので少し損しましたが――。

まあ、私の体験など全く苦勞の苦の字にもならないものと思ひます。もちろん苦勞などない方がいいと思うのです。そういういい方も人生を歩むにつれて、いろいろな事が起こります。

ですが、私達を創造し、生かしている宇宙の意識が私達を苦しめようとしていてしょうか。ましてや宇宙の法則のもとに生きようとしている人達に対しては必ず何らかの良き方向へいく道が示されると私は信じます。

「神様は、私に何もしてくれなかった。あの時、あんなに折ったのに」などという人がいます。宇宙の意識は「情」では動きません。その力は信念によってのみ動くと思うのです。人間のマインドは、時としてたやすく裏切りますが、宇宙の意識は決して裏切りません。

意識は絶えず、よりよき方向に人を導いていくと教えられています。言い換えれば「さあ、使ってください」と英知と力が、いつも待っているということです。私たち人間も、自分を本当に信頼してくれる人に対しては、全力で応えようとするものです。応えようとしても、うまくいかなくて相手に申し訳なく思ったりすることもあります。宇宙のパワーは、信頼されればされるほど、間違いない、その英知と力を、私たちに与えてくれます。

根気よく自分に呼びかけよう

昔、大きな釣鐘のある寺で弁慶と義経が力くらべをしたという話があります。力自慢の弁慶が全身の力を振りしぼって大きな釣鐘を押したそうです。それでも釣鐘はびくともしなかつたのです。今度義経が挑んだのですが、体力的に数段おちる義経が見事にこの大釣鐘を動かしたのです。それはどうしたのかと聞いてみると、義経はじっくりと時間をかけ、釣鐘をぐっと押しは力を弱め、また押しは力を弱め、をリズムミカルに繰り返し返したのです。多分に作り話めいたところがあるのですが、なかなか面白い話です。根気よく自分自身に呼びかけつつけるこ

とが重要で、一時の燃えたつような想いでうまくいかなかったといって失望するのは考え違いだと思います。

宇宙的な生き方に絶望感や悲壮感を感じねばならないものです。時として沈んだ感情におそわれることもあるかも知れません。そんな時こそ喜ばしい生活を送るために、今じっくり考えているのであって、決して悩むために悩んでいるのではないんだ、と心に言い聞かせる必要があると思います。

素晴らしい宇宙的な人々が確かに存在しますが、彼らもまた一歩一歩進んで今になったのです。そしてそれは各々の生活の中で、自分自身の足で歩んだのであって、誰かに背負ってもらったわけではないのです。進歩とは、今突然、金星人や土星人のようになることではなく、各人のいる場所から一ミリでも一センチでも進むことをいうのだと思います。

このように胸を張って堂々と宇宙の法則によって生きようとした時、すでにその人は宇宙的人間の仲間入りをしたと言えるかも知れません。やたら、難しいことを考えても、自分の足で歩こうとしたければなんにもなりません。

重荷を心からはずしてやっつて、背空でもながめて、にっこり笑えれば準備OKです。感じる態勢完了です。

これが単純なようで、なかなかむずかしいのです。よし、背空に向かってにっこり笑おうと思ったら急に雨が降ってきたりして——。

これは冗談ですが——。

想念通過法を考案

哲学、それも宇宙哲学などというところにも難解な感じがします。確かにアダムスキー哲学は深遠な事柄を数多く含んでいます。難解なものではないはずですが、彼の哲学は難しくなく、難しいのはその実践である、とよく言われます。

生き生きと明るく、愛と奉仕の気持ちにあふれ、創造主のもとに万物や万人が調和して生きるべきだ、とアダムスキー氏は説いています。その実践が難しいのですから、いかに人間が重苦しく、危険で、分裂の中に生きてきたかが、逆にわかるような気がします。

私達地球人は、長い複雑な歴史の中で体内に宿る宇宙の力に封印をしてしまつたのです。因習的な社会の中で見失つたその力を私達は生活の中でみつけようとしています。だからこそ、理想社会を現実にする他の惑星の人々の言葉に耳を傾けなければいけないといえるでしょう。彼らは気苦労を感じることなく、ゆつたりと、しかも各人が人生を楽しんでいるのです。

私達はテレバシーの能力に大変関心を持っています。もちろん私もその例にもれません。「求めよ、さらば与えられん」という言葉通り、何事も求めることが大事なのでしょうが、テレバシー能力については、あまり求めすぎではダメなようです。「感じよう、感じよう」という想いが壁をつくったり、細胞を緊張させたりますのです。さらに悪いことには、そ

のはやる気持ちで勝手にイメージをつくって、それをテレバシー的な印象だと感違いしてしまうことです。

予知夢というものがあります。私もあの先輩に、「飲みにいこう」と誘われる夢を見まして、次の日、お互いに宮城県の人なのに、どういうわけか上野駅でばったり会い、結局飲みに行こうと誘われたという経験がありますが、夢が未来や過去などを、かなり正確に映すのは、細胞がゆつたりして求め過ぎないからだと思います。もちろん全く求めないのではなく、適度に求めてゆつたり待つのがいいと思います。

自然界をながめ、リラククスした精神状態。ここからすべてが始まるような気がします。

毎日の生活の中で、星空でもいいし、樹木でもいいのですが、自然を観察する時間を持つことは必要です。

前の勤め先の駅でのことですが、どうにも重苦しい心境でいました時、線路端に小さなタンポポが咲いているのを見てはっと目がさめたような気になったことをおぼえています。自分がこんな気分でも、生命力は万物をこんなにも生き生きと美しく生かしていきけるんだなあ、その力が今、自分の中にもあるんだと思つたら、非常に元気が湧いてきたのです。

真剣さというものは、何事をするにも重要なことです。深剣さは真剣さとは別のもので、私もこの深刻になり過ぎのいわば深刻病に何度か陥つたことがあります。この病気の症状といえますと、頭

は無表情、視線はうつむき加減、冗談など一つも言わない、絶えず、自分なんか駄目だ駄目だという想念が心を暗くします。約五年位前になると、それが、その頃の私はまさにその症状でした。

そこで、なんとかせねばと考え出し、非常に効果のあったのが、想念の通過法という方法です。もちろん私が独自に考えた方法ではなく、想念観察法の応用といえるものです。

深刻病にかかりますと、ちよつとこのことが気にかかるものです。つまらぬ想念を捕えて離さなくなるのです。そこで、片っ端からそういった想念を通過させるわけです。私は今、特急列車は皆通過する小さな駅に勤務していますが、マインドでもこれをやるのです。「次の想念は通過します。白線までお下がりにください」という具合です。最初は習慣細胞が邪魔しましてなかなかうまくいきません。

習慣細胞というのは習慣想念の線路のようなものと言えてでしょう。習慣想念はその線路を使ってわがもの頭に走り回ります。習慣細胞には駅まであって、駅前にはエゴ町という町ができています。列車が到着すると、悪人が大勢降りてきて、降りた町の善良な宇宙的細胞まで荒らそうとねらってきます。

このへんの考え方はいろいろできるでしょう。私はいちおうこのように考えて極力、習慣想念を体内にとどめないで通過させるようにしたのです。これは歯をくいしばって「出てゆけ」などとやっつては逆効果のようです。さりげなく流す方

がよいのです。そして、常に反復想念を用いて、習慣細胞の質を変えるようにしました。反復想念のときの言葉は肯定的な言い回しの方が良いと思います。

例えば、イライラして困る時に「私はイライラしない」というよりも、「私はゆつたりと落ちついていく」といった肯定的な言葉の方が効果がありました。

だんだんやっついていくうちパツと眼を見開き、背筋を伸ばして、同時に明るい表情をつくりながら行くと、つまらない想念がすーっと通過していくようになりました。

おかげで少々忘れっぽくなりましたが忘れっぽいのは前からじゃないか、とある人に言われ、すかさずその意見も通過させました。

私達の一つ一つの細胞にも絶大なる英知が宿り、活動しています。自然界はその姿を千にも万にも変え、私達に囁きかけてくれます。何より、私達は生命の連続について少なからず知っています。加えてこのように素晴らしい友人達がいてくれます。喜ばないわけにはいきません。

楽しくないはずはありません。そして強い信念を持ち続けることができます。いつか、きらめくような想念の輝きを心底から実感できるようにあります。目覚めは突然やっってきますが、目覚める準備は突然にはできません。私達は暗闇にじつと手を握りしめて奇跡を待っています。いけないと思えます。まず生活の中を明るく喜ばしい想念で満たすことが必要ではないでしょうか。失敗もまた楽しいものです。私達に新しい方法を教えてくれ

るのですから――。

地球社会はいろいろな制約を人間に押しつけてきますが、少なくとも自分の想念は自由でありたいものです。そのためには、強い信念が必要です。私も未熟者ですから、毎日何かしら積極的想念を全身細胞に呼びかけていこうと思えます。宇宙は広大で、時間もまた永遠です。今日のこのGAP總會のことを、遠い遠いはるかなる記憶として、なつかしく思い出すときがくるかも知れません。その時、この地球から何億光年もかたの一面星に居るかも知れません。私達はまだまだ知らない事を無数に持っています。だからこそ、旅を続けるのです。つまらない事に絶望したり、ちよつとこの事で焦ったりしては、私達を創造してくれた大宇宙に申し訳ないと思えます。

人間は自分の信ずるようになんか生きるものですか。それが明らかに誤りであっても、他人にはどうすることもできない場合もあります。

苦しみや悲しみは、あるいは宇宙の英知の警告なのかも知れません。生き生きとした喜びの感情が厳然としてあるのです。そして、そういう状態を快く感じるように私たちは創られています。さらに快適に生き、本来の姿に復活するためのアダムスキー哲学というものにめぐり会えました。今までの生き方に汲々としていた必要は全くなくなつたと思ふのです。

今後とも明るい気持ちで困難に挑み、時に失敗しても、明るい気持ちで立ち直り、さらに力強く堂々と生活の中でアダムスキー哲学を実践し続けようと思っています。

私を常に励ましてくれる言葉にこういふものがあります。「私を生んだ“父”に確固たる信念を持ち、私のあらん限りの力をもって“父”の目的に奉仕する限り“父”は私を見捨て給うことはない」。G・アダムスキー皆さん、ともに頑張ろうではありませんか。

実践二十四時間

〈静岡支部代表〉野口敏治

みなさん、こんにちは。本日日本GAPが発足しまして二十周年という記念すべき大会にこのような席からお話しさせていただく機会を与えて下さいました久保田先生に心より感謝申し上げます。

この二十周年という記念すべき大会に

日本全国より朝早くからこのように大勢の皆様方が参加されましたことは、この大会を機会として今まで以上に一段と強力にアダムスキー哲学の実践に踏み出してゆこうとする固い決意と大きな期待をもって参加されたことと思われまふ。

私がアダムスキー哲学と出会い、日々



学んできまして、人間の良き運命そして宇宙的人間の形成には実践以外にはないという結論に達しまして今日までいろいろと感じたことや気が付いた事など、限られた時間ではありますがすこしお話しさせていたいただきたいと思えます。どうぞ気軽に聞き下さい。

何よりも実践

私達のこの宇宙はひとつの規則正しいリズムによって動いています。春には、美しい花が咲き、秋には紅葉するという四季の変化があります。そしてまた夜空に輝く星ひとつを見ても一瞬の休みもなく整然と運行し、その道を外れることはありません。このように宇宙には人間の力ではどうすることもできない力、大自然によって定められた力、つまり宇宙のパワーが歴然と存在していることはもう皆様方ご承知のとおりであります。この宇宙のパワーつまり宇宙の英知あるいは宇宙の意識と呼んでいます。これが存在

をすなおに信じ、認めることが宇宙哲学の実践の第一歩つまり原点であります。皆様方もアダムスキー氏の体験とその哲学に接しこれこそ自分の生きる道であると強い感銘を受けられたことと思えます。アダムスキー氏は、私達に次のような大切な教訓を与えてくれています。「アイデアや決意をもったならば、どんな事があっても迷わず、それは必ず実現するのだという強力な信念をもって進むべきであり、またそれを実現させるだけの実践をしなければならぬ」ということとあります。

しかしながら決意をもち実践に踏み切っても、しばらくして自分の決意に対してこれでいいのかと心が動揺し、なかなか永続できません。宇宙哲学の実践というものは、今日一日実践をしたからその翌日に、また一カ月実践をしたからその結果が出るかと考えておられる方も、なかにはあるかと思えますが、宇宙哲学の実践というものは、自動販売機のように百円玉を入れればすぐ結果が出てくるというものではありません。

実践というものは人間の人格の本質を変えようというのが根本となっております。今まで生きてきた長い年月での曲がった考え方や、今までの古い習慣というものに打ち勝って少しでも宇宙的生き方のできる人間に変えてゆこうとするのですから、それこそ長い間の根気よい実践というものがどうしても必要となります。これを休みなく確実に実践してゆけば、どんな人でも必ず進歩した素晴らしい人間を作り上げることが保障されて

いるのであります。

私達は、日々の実践によって宇宙的な人間を作り上げるという目標を持つと同時に、この地球全体の宇宙的な向上そして太陽系の進歩という広大な理想つまりスペースプログラムに直結しているということを心の片隅にとめておく必要があります。今日の私達の個々の実践というものが必ずスペースプログラムのつながっているという信念を持つほど大切なものではないのであります。

実践して何がなんでもすぐ実現させようと焦ってはなりません。焦りは必ず心に不満とか不安というものが生じてきます。人間の心は誰でも完全ではないからです。私達の心に少しでもそのようなマインナ思想が生まれてくると実践にも身が入らず、宇宙的人間の形成という本来の目標からは、どんどん遠ざかってゆくばかりです。そしてもとの自分にもどるには多くの時間と努力を費やすという結果になってしまいます。

今日の実践の結果がすぐに現れなくても心配することはありません。その実践してきた分だけ宇宙の銀行に預金しているのだと、大きな気持ちをもってコツコツと実践し、そして来世で大輪を咲かそうではありませんか。焦ることはなにもありません。必要なのは、不屈の信念と明るい希望というものを持ち続けることとあります。

かの幕末の志士坂本龍馬は、日本の会議を中心とした平等社会の実現は、自分の時代に来なくとも五十年百年後には必ず実現するという強力な信念を持ちつつ

けていたからこそ、あのような情熱的な素晴らしい活躍ができたのであります。自分の進むべき道をきめ、それを信じてこそ、すべからぬ実践の基礎となるのではないのでしょうか。

私達は、宇宙哲学、アダムスキー哲学と、哲学という文字を見ると何か非常に難しいものを学んでいるという先入観があり、またまわりから「哲学とは難しいものだ」と言われるとそのように思い込んでしまふ。つまり「哲学とは難しいものだ」と言う言葉の暗示にかかってしまっているのではないのでしょうか。

アダムスキー哲学を実践してゆくということは、特別な場所や特別なものを学ぶというものではありません。大自然の姿のように自分のありのままの姿、つまり日常の生活のなかで自分の内部に宿る宇宙の意識からの印象のままに行動すればよいわけです。自然界の動物、植物がその生き方を示していますので、私達もそれを見習えばよいのですが、人間には心というものが、これが宇宙の意識からの印象を聞くのをいろいろと妨げています。この心を上手に訓練することができます。この心を手で訓練することができるといってしまふ。どのようにならんと接しようが常に自分の心は乱れることなく、宇宙の意識からの印象を聞く準備ができていのだという人が宇宙的人間であるといえると思えます。学校や職場で毎日あらゆる人々と接する機会がありますので、その時、その場所がもう自分の実践の場であり、つまり私達が目覚めたその瞬間から、

そして寝るまでの間、実践するチャンスが与えられているわけです。ときには寝ている間でもいろいろな夢を見たりします。これらの夢の内容も分析すると私達の生活になんらかの影響を与えていますので人間二十四時間が実践の場であると言えるかと思えます。

このように人間の行動するありとあらゆる場所が実践の場となりますので、この地球全体も一つの道場であるといえます。地球での学びが終わるとまた次の道場が待っています。人間は永遠に学び続けそして自分をより宇宙的に進歩向上させてゆこうと生まれてきたにちがいないのです。これが人間の本来の生きる姿ではないでしょうか。

印象をすぐに行動に移すこと

宇宙の意識からの印象を聞きとる心の準備ができたならばその印象に従って行動に移せばよいわけです。しかしながら心を静めても、それが宇宙の意識からの印象なのか、なかなかわかりませんが、これは実際に行動に移してからでないとその結果はできませんが「生命の科学」のなかで「心の意志は意識の意志に従う必要があります。意識の意志は自らを押しつけません。意識の意志の表現は、親切で豊かで美しいのです。意識の意志は恐怖を知りません。自然界の万物は宇宙の法則の意志によって働いています」とあり、これが重要なヒントになっています。

私達には毎日数多くの印象がやってき

ます。その印象のなかで一番最初にあつた印象に従ってすぐ行動に移せば、それは宇宙の意識からの印象にまず間違いないと思えます。これは何回かの体験からそう感じました。一番最初にやってくる印象には、自分の我というものが入っていない純粋な心の状態の時であるからです。二番目の印象からは、一番目の印象に対して心があれこれ詮索し始めて我というものが入り込んできてもう純粋ではなくなくなってしまいます。この宇宙の意識からの印象には、日常の仕事のこと、生活のこと、遠からず起こる身のまわりの変化、予知的なものと様々なものがあります。これらの印象があつた時は、絶好のチャンスとみてすぐ行動に移すようにすることが大切です。すなおに行動しない場合は、宇宙の意識に対して「我」を張っているということにもなりかねません。人間は宇宙の意識によって生かされているのですから、こうした印象は、大宇宙から自分に与えられた特権であるところがありたく感謝して、すなおに行動してゆくことが大切だと思います。

いろいろな印象のなかでも、現在直面し努力している事と関係のある印象であれば、すぐ行動に移す気持は起りますすが、さしあたり今すぐ関心となつていないことについて印象があつた場合、これは良い印象だと自分では感心しながらも、まあ、そのうちに行動に移そうと自分で自分に妥協しているうちに、つい忘れてしまうことが多くあります。こうした印象はすぐ行動に移さないまでも、忘れていうちに手帳などに記録し、あと

で実行するように心掛けておかないと次に来る印象に対して正確な判断ができません。印象があつたらすぐに次々と行動してゆく人は、それだけ自分の体に宇宙の意識を取り入れ、その流れをスムーズにしているわけですから、ますます多くの印象を感じるといふことになりません。

せつかく大切な印象があつても、まああとでゆっくりやればよいというような気持ちでいると素晴らしい印象であつてもやがて忘れてしまい、そういうことが重なると、ますます印象の感受が難しくなつてしまいます。

私事で恐縮ですが、私の妻は会員ではありませんが、日頃アダムスキー哲学をおりを見てはすこしずつ話しています。先日、子供が学校に出掛ける時「お母さん、咳止めの薬買つて」とたのまれたそうです。そして家事で忙しいこともあって午前中が過ぎ、午後もすこし過ぎたころ、やつと落ち着いて本を読んでいるとき、「咳止めの薬」と印象があり、薬局に行かねばと、窓を開けて外を見るとドシャぶりの雨が降っていて、行くのをためらったが子供との約束もあり、しぶしぶ傘を持ち玄関の戸を開けると、先程までのドシャぶりの雨がパラパラ程度にやんでいて急いで薬を買い、家に帰ってきたら又降り出し、結局濡れないで行つてこれたと喜んでいました。そして「宇宙の意識は素晴らしい。忘れていた薬のことを教えてくれてしかも雨に濡れないで行つてくれる時間までも教えてくれた。人間は心であれこれ考えることは

何もないのね」と私に話してくれました。宇宙の意識からの印象があつたらすぐに行動するということは、私達に大きな信念と希望をもたらしてくれそうです。

印象をメモする

また私の場合、手帳を用意して想念の観察だけでなく、あらゆる印象をメモしています。たとえば仕事にある人の名前がフツと浮かんだ時、その名前をメモし、夢を見たときも覚えていた限りメモします。また地震予知に少し関心があるものから、その日の夕焼けや雲の状態がすこしでも異常とみうけられたらメモしておきます。

先日、次のような夢を見てメモしておいたことがあります。ある学校での休み時間、教室のなかに私と三、四人の生徒そして受付の先生がいました。その先生は久保田先生でした。先生を囲んで話をしている時、突然地震があり、かなり左右に揺れ、その建物は木造の二階建の校舎で、となりの校舎を見ると同なりになつて大きく左右に揺れています。先生と顔を合わせ「よく揺れますねえ」と笑いながら話していました。そして大きく揺れる割には窓ガラスが割れることもなく、屋根のカワラも落ちませんでした。夢のなかで自分の身には危険が無いと安心したのを覚えています。この夢を見たその日の夕方、こんどは南の方向に夕焼けと雲に異常がみられ、これはかなり大きな地震があるかも知れないという予感がしました。夢といい、夕焼けといいこ

これは近いうちに大きな地震があるが場所はどこなのかと、夢を振り返ってみると私と久保田先生は無事だったことから静岡と東京ではないので、これは外国だろうと思ひ、それからのニュースに注意していたところ、二日後にアルジェリアでマグニチュード七・五の大地震がありました。

このように印象があつたらすぐメモしておくようにしていますが、その時は、その印象に対してあまり詮索しないようにしています。といいますのは、印象が来るといふことは自分の状態が最高に良い時ですから、そのような時には次から次と印象が来るかも知れないからです。ですから「この印象は一体何を意味しているのだろうか」と強い関心を起こすと次にくる印象がもう感受できなくなりますので、あまり極端に心を乱さないように冷静に受けとめています。

このような事を毎日続けてゆくうちに印象に対しての判断が自然とすこしずつ出来るようになってきます。そして自分の感受する印象の傾向もわかってきますので自分自身を知る材料にもなります。ほんとうの自分というものを知るには、このように記録を残して始めて知ることができるのであります。メモしてきまして、今までいかに多くの印象を無視してきたか、いかに心に振り廻されてきたかがわかり、改めて心を冷静に保つことの重要さが思ひ知らされました。

感謝も重要

また私達の一日は感謝で始まり感謝で終わるといふことがいえると思ひます。

毎朝私達は宇宙の意識によって目覚めさせてもらっています。毎日の自分の行動一つ一つを取り上げてみても、また肉体の内部の一つ一つの働きをみても、これらは自分が行っているのではなく、すべて宇宙の意識の援助によるものです。毎日なにげなく吸っている空気が、そして水も太陽も、宇宙のあらゆるものは人間にすべて「ただ」で与えられています。そして永遠に与え続けてくれます。これに対して私達は感謝しても感謝しつくせるものではないでしょう。

私の一日は、目覚めると「今日も生かされている」と感じますので「ありがとうございませう」とまず感謝します。そして朝の空気を胸一杯吸い込んで、その空気が頭から足の爪先までのすべての細胞にゆきわたってゆく光景を描きます。そしてゆきわたったところで全身の細胞に「今日も頑張ろう」と呼びかけます。オと大合唱する光景を描いています。

この大合唱の時のイメージの描き方をもうすこし詳しくお話ししますと、自分の細胞の一個一個が自分の体と同じ姿をしていて、つまり自分の体の中に小さくなたた自分が頭から足の爪先まで何十兆と存在していて、それが号令とともに大声で右手を上げてエイ、エイ、オと大合唱するのであります。すると自分の身も心も二倍にも三倍にも大きくなったように感じます。そしてまた起きて顔を洗うときは水道の蛇口をひねる時「おねがいします」

締める時「ありがとうございました」、顔をふきかガミに写った自分を見つめ、「若い若い、いつまでも二十八才」と呼びかけています。食事をする時も感謝、仕事場へ歩いてゆくととき右足を出して、「ありがとうございます」、左足を出して「ありがとうございます」と歩を選びます。仕事は、写真製版の仕事をしてい

ますので電気のスイッチを入れたり切ったりすることが多いので、その度「おねがいします」、「ありがとうございました」と声をかけています。また車を運転する時は「お願いします」と声をかけてからエンジン動かし、自分と車とは友達であり「これから出掛ける間はすべて安全に行つてくれる」と話しかけています。また今度生まれ変わった時は、タイヤの付いていない、そして公害をまったく出さない乗物に乗るのだと、そして今運転しているのがその車であるという気持ちでハンドルを握っています。また寝る時も「今日一日ありがとうございました」と感謝してから寝ます。その時も枕元に手帳とペンを用意しておきます。寝入る直前は頭の中が空っぽになるので良い印象が多くなるからであります。

このようにして一日が終わつたら感謝して寝るといふことは、次の日もこの気持ちを引き継がれて好結果が続けることができます。これと同じように人間が一生涯を終わる瞬間「ありがとうございました」と感謝の気持ちを起こすことは来世に非常に大きな影響をもたらします。

このように感謝しながら一日を過ごすことは自分を客観視していることにもな

り、またあらゆるものとテレパシーで話し、愛の放射線を送っていることになり、このことはとりもなおさず宇宙の意識とともに行動していることにもつながっています。なに事も感謝の気持ちで実践してゆけばトラブルは起こりません。そればかりか人間として生かされているというほんとうの喜びというものが内部から湧き起こってきます。

また実践には入学があつて卒業がないといわれています。実践は誰でも始めることができそうですが、その道程はどれだけ実践すればよいという基準のようなものはありません。実践すればするほど奥深いものが見えてきて、ますますその道を究めてゆくものであります。人間が永遠に宇宙を旅するのと同じように、やはり実践も永遠に行つてゆくものなのでしょう。ですから毎日の生活のなかで、あれもこれもと難しいものを選んで実践に踏切つても長続きしません。誰でもやれるような簡単なものを選んでそれを毎日コツコツと実践してゆくのが長続きさせるコツでもあります。秋には各地で運動会が盛んに行われましたが、ケガ人もかなり出たそうです。これは普段あまり体を動かしていない人が急にハッスルすぎた結果であると思ひます。普段からジョギングにしろ他のトレーニングにしろ、軽い運動でもいいからとにかく毎日根気よく続けてゆかないと基礎体力は作れません。かなりハードな運動を週に二、三回程度やつて、他の日はテレビを見てゴロゴロしていたのではトレーニングの効果も帳消しになってしまいます。これと

同じことをプロボクシングのチャンピオンも言っていました。

「難しいテクニックを練習しても基礎ができていなければ十五ラウンド戦うことができないし、チャンピオンベルトも保持することは出来ない。日頃誰でもできるようなランニングとか縄飛びなどを、それこそ毎日毎日同じ事を繰り返してゆくうちにプロとしての気力が土壇場でもの言うのだ」と。私達も毎日コツコツと実践しアダムスキー哲学のプロの実践者となりましょう。そしてどんな事があってもそれを乗り切ってゆけるだけの気力と信念を身につけておきたいものです。

また月例会が実践の本番ではなく実生活が本番であるといわれています。月例会で素晴らしい話を聞き、なるほど良く理解できたと思っただけではあまり効果がありません。毎日の生活のなかで日々実行してゆくことにより、みがかれてゆくのです。月例会に参加するのほひとつの実践といえますが、やはり毎日の生活のなかでひとつひとつ体験してゆくのが実践の本番であるといえます。

ある不思議な体験

月例会で思い出したのですが、GAP ニューズレターの表紙にはUFOと宇宙哲学の研究誌と印刷されています。UFOつまり未確認飛行物体のことですが、私も不思議なものだなおも思っています。七月一日の午後一時半頃、場所は静岡市

民文化会館の第一会議室です。ここは静岡支部の月例会場として使用していましたが。その日の月例会が始まり、久保田先生の「生命の科学」の解説テープを聞いている時でした。机の上の本から目を離してすこし顔を上げたところ、あずきの豆位の大きさのオレンジ色に輝くものが右側から現れ二十センチ位水平に移動し私の目の前でこんどは下に移動しそしてまた上に移動し、それはアルファベットのVまたはUという文字を描くように動き、また水平に移動し、左の方へ消えてゆきました。音もなくニオイもないこの物は何んであったのか、どうして月例会場に現れたのか、不思議な体験でした。

イメージを描くこと

またアダムスキー哲学のなかにイメージを描いて物事を実現させる方法というのがあります。今年の五月に静岡支部大会が開催されましたが、この大会も大成功でありますようにと前々からイメージを描いていました。イメージは大勢の会員のみなさんが参加しているなかで久保田先生がマイク片手に熱弁している光景を大きな画面にアップで描いていました。そして大会の何日か前トコヤに行き、散髪中も久保田先生がマイク片手の光景を描いていたのですが、どういう訳か途中からイメージを描くのをやめてしまいました。すると、大会の当日は久保田先生は急病のため出席できませんでした。私が最初描いていたイメージは実現しなかつたわけです。イメージを描いてい

ても、そのイメージどおりにすべてが実現するというものではないということがわかりました。そこで今回描いていた光景を思い出しみると、その画面のなかにいつもよりすこし違った変化があったのに気がつきました。このような変化が現れた時は、いくらイメージを描き続けたとしてもその物事は実現しないのではないかと考えるようになりました。

その変化とは、描いていた久保田先生のマイク片手の画面がいつもより全体に緑色がかつたように見えました。そして画面のまわりが霧がかかたようにぼやけていました。この状態は、子供向けのテレビ番組で夢を見ている画面を現す時画面のまわりをぼかすのがありますが、それと似ています。イメージを描いていて実現しないものは、どれもこれもすべてこれと同じような変化が現れるとは限りませんが、皆様がたもすこし実験していただきその結果をお知らせできればと思います。

イメージを描く場合大切なことは、なるべく細かい部分までも、そして大きな画面に描くようにします。その画面が鮮やかなカラーで見えてくるものであれば、そのイメージは実現の可能性があると思えます。そのイメージと同時に、もう実現してしまつたのだという強力な言葉による呼びかけも忘れないで下さい。このイメージ法をどんどん利用して、充実した素晴らしい毎日を過ごしましょう。私の好きな言葉のなかに信念という言葉があります。信念をもつということはどういう状態のことなのでしょう。

これは恐怖心を起こさない状態つまり自己中心の状態から非個人的な状態になることを意味しています。恐怖心を起こさせないようにするには、私達はあらゆる物事を理解し、信頼する必要がある。一般の人達は、死というものに対して異常なまでの恐怖心をもっています。これは人間が死んだらその後はどうなるかを理解していかないからです。

宇宙の意識は恐怖を知りません。宇宙の意識はすべての物事を理解し、知りつくしています。宇宙の意識は信念を生み出しています。宇宙の意識は私達の肉体の中にも存在していますので、私達の内奥には信念があります。

信念の強い人は恐怖心を起こしません。信念の強い人は、先を急ごうとはしません。ゆったりと大きくかまえ、どんな事があっても失望しません。逆にますます信念を高め目標に向かって堂々と前進してゆきます。失望したりするマイナス想念が起こつてきたら、その時が自分の一番大切な時で、ここが前進するか後退するか別の道だと自分自身に言い聞かせ焦らず、氣持をリラックスさせることが大切です。私達のもっている信念というのが、ほんものかどうかということも毎日の様々な実践によって試されているのであります。

これからは信念という炎を毎日の実践によつてますます高く、ますます赤く燃やし続け、みなさんと共に頑張つてゆきたいと思えます。



アダムスキー哲学と私の歩み

〈東京本部〉 遠藤 昭則

ご紹介にあずかりました遠藤です。このような場で講演をさせていただきましたことを、久保田先生はじめ皆様方に深く感謝させていただきます。

ここで自分をふりかえってみるとさまざまなことがあります。アダムスキー哲学を知ってから色々なことが起こりました。楽しいこともつらいことも色々ありました。

そこで、私がアダムスキー哲学を知る前と知ってからのことについてお話をさせていたただきたいと思えます。

私がアダムスキーを知った動機

私は小さい頃から宇宙のさまざまなことに興味を抱いていたことを覚えていません。父の持っていたドイツ製の天体望遠

鏡のレンズを組み立てて月の表面を家族みんなで見たときに、月に色々なクレターがあったりして、地球と同じような地形があり、山があり土地があって、月の建物とかいう話はまだ知りませんでした。初めてそのように見たときの感動は忘れることができません。

アダムスキー氏の本に初めて出会ったのは中学一年の時でした。家の近くにある本屋に行ってみると、あまり目立たないようなところに二冊のちよつとくたびれたカバーになっている本を見つけた。一冊には「空飛ぶ円盤同乗記」、そしてもう一冊には「空飛ぶ円盤の真相」とありました。この本屋には他の空飛ぶ円盤の本などは置いてありませんでしたので、特別に興味をひかれたことを覚えていません。そこでさつそくこの二冊を買って帰ることにしました。

私の家族はよく空飛ぶ円盤のことや宇宙のこと、そして夢のことなどについて話をしていました。そういうわけでは無いほどの異和感はこの二冊を買ってもありませんでした。ただ学校へその本を持っていったりすると、中学校の頃ですけども、なんとなく自分だけ異なった種類の本を持っているようで、うれしい気持ちになったものです。

しかしこの二冊の本は中学一年の私にはちょっと難しいものでありました。と

いうのは図解入りででいた金星のスカウト・シップや母船の構造、そして宇宙空間のことなど、そういうことだけについては解るのですが、それ以外の哲学的なことになるとまだよく解りませんでした。

それから中学、高校となるに従ってスカウト・シップ、金星のスカウト・シップのような乗り物を造りたいという夢はだんだんとふくらんでゆきました。高校生の頃はさまざまな本を調べてみました。結局UFOがどのような推進原理で飛んでいるのか解らないということにありとせりをとでも感じていました。今考えてみますとそのことばかりを考えていて、例えて言えば、この大地にしっかりと足をつけていないで落ち着かず、空飛ぶ円盤のことばかりを考えていた時代であったと思います。

そして大学に入学してからのことになりましたが、もう一つ考えていたことがありました。それは人間は死んだら生まれ変わらぬのだらうかということでした。中学生の頃に買ったアダムスキー氏の本をよく読んでいたら大分解ったことであるところと思えますが、UFOの推進原理のところばかりを読んでいたために、そういうことについては解るはずがありませんでした。

人間は死んだらどうなるのだらう、墓に入ると土となってしまふのだらうとか、まさか生まれ変わるはずがないとか色々考えてみました。そして自分はどこから生まれ変わってきたのだらうかなどこういうことを思いますと、たいいはい

落ち着いた何か白い色をバックにして色々な印象が湧き起こって来ました。ですから確信は持てないでいましたが、人間は生まれ変わるのだとは思っていません。ただ私は人間の形をした神というものを信じてはいませんでしたので、もしもそのような法則を働かせているものがあるとしたらそれは、「自然」という神であるらうということになんとか納得してました。

そしていよいよある時本屋で「空飛ぶ円盤とアダムスキー」という本を見つけてました。それを手にとって副題をみますと、「死と空間を超えて」とありましたが先程述べましたように、死というものに對しては随分と考えていた時でしたので、この本には何かあるのではないかと思つて、さつそく中を見てみました。他のUFO関係の本とは全然違つて、密度の随分強い印象を受けましたので、この本を買おうかどうかしようかちよつと迷つていたのですけれども、

「この本は私の今まで考えてきたことをとてもよく解決してくれる本である」という印象を強く受けました。GAPにまだ入っていませんでしたけれども、そういう印象を随分感じたことを覚えていました。

そして読んでゆくうちに、なるほどこれは私の疑問を解決してくれ、おまけに私を指導してくれる本であるということが解ってきました。今まで考えていた疑問点が随分そこに答として出ていました。もっとも納得のゆく、そしてもっとも簡単に解りやすい言葉がありました。

さらにその中で「生命の科学」講座によって腐りかけていた木を治そうとしてもどおり無事に治ったという記述がありますが、そこで深い感銘を受け、「生命の科学」という本を是非買ってみたいと思ひ、さっそく東京の本屋に行つて買いました。

そして少ししてGAPに入会しました。これは今から七年位前のことです。

しかし入会して初めのうちは、他にもよい本があるのでないかと色々迷っていました。そして色々と探してみました。困っている時、悩んでいる時にはどうしたらよいか他の人とうまくつき合つてゆくにはどうしたらよいか、自分を褒めてゆくにはどうしたらよいか教え上げればきりありませんが、そういう内容の本が随分と出ていました。私は欲が出てきてこれらの本を全部買おうと思つたのですけれども、どの本もその本を読んでいる時にはなるほどなと思うのですけれども、少したつと忘れてしまつたり、頭でだけ覚えていたりで結局自分のものとはなりませんでした。

そしてだんだんとそのような本がいやになつてきました。そういう本は私を喜ばせるだけのものではあつたのだからと思ひます。しかし「生命の科学」と「テレビパシー」の二冊の書物は違つていました。この二冊は人間の最も基本的な活動の源である生命力というものをいかにして使つていくかということに大きな注意が払われていました。そしてとても心強く感じました。

そういう訳でだんだんと一般に出まわ

っていた本がいやになつて、今度は自然というものを見るようになりました。

自然を色々見てみますと、その美知といひますかその素晴らしい本に書いてあるほど狭いものではないなと思ひました。そして無限であるようでありました。このときには本当に自然とは偉大なる教師であつたと思ひます。

大学に入つてすぐの頃でしたから、小さい頃から自然の様々なものが好きであつたせいもあつて、色々と調べる事ができました。そしてアダムスキー氏の言葉は大いに役に立ちました。それは今まで結果の世界だけしか見ていなかったものを、その原因の世界からも調べてゆくことができるようにしてくれたからです。そして人間にも自然がもつているような力があるのだと、おなかの底から力が湧いてくるようでありました。

想念観察の実習

さて、「テレビパシー」の本の中にでてる想念観察ですが、これを続けてきて約七年ぐらひはなります。方法は「テレビパシー」の本にあるように、一日を通じて感じた想念で個人的な性質を帯びているものをすべて一方におき、宇宙的な想念を他方に記録するという方法です。自分の想念の様子をノートに初めてつけた時、本当のことを申しますと何となくおもしろくありませんでした。というのは、これからそういうことをしていったら自分は暗い雰囲気をもつた人間になつてしまふのではないかと、自分の意志

のない、ただその想念だけを見ているような人間になつてしまふのではないかと色々と考えてきました。しかしよく考えてみますとそれは、今までマイソンドがわがもの顔に一人て歩いてきたのに、今度は意識という力を使いだしたためにマイソンドがおもしろくなくて、反発を起したのだとも思ひます。

始めて一、二年の頃は色々悩みました。どかそうとしても、どかそうとしても出てくる考えがあることに気がつき、その考えについては色々理論でもってどかそうとしました。例えば何か怒つた感じが出てくると、これはいけないんだとか、他の人の方が優れているから私はこういうことを考えるのだとか、その怒りに対する理論も色々としてきました。

そこで想念観察をやめると今度はうまくゆくのですが、その出てくる想念に対しては全然気を払わないようになつてしまいました。アダムスキー氏は想念観察の重要性を説いています。しかし想念観察をやるとそれにとらわれるようでもありました。そこでソレンマというのが起こつてきました。そしてしばらく想念観察をやめてゆつくりと考えてみることにしました。

あるときふと素晴らしい印象がやつてきたのもう一度アダムスキー氏の言っていることを調べてみようと思ひました。そこでもう一度調べてみました。想念観察をするときは、出てきた利己的な想念を一度引きとどめておいて、それについてあれこれとらわれなさいということはどうにも書いてありませんでした。で

すから利己的な想念が出てきても別に気にすることもなく、そのまま出てくるにまかせておくことにしようということにしてみました。つまり利己的な想念はそのまま利己的な想念なのだ認めることにして、自然に流れていくものを阻止しないようにしようとするにしました。このことは簡単なことではありません。自分ではただ出てくるにまかせていたつもりがいつのまにかそれについてあれこれと考えだしていたり、また出てきた想念が、自分はそれについてふれたくないものであつたりすると無理に押し戻してしまつたりして、自然に外へと出てゆく想念の流れを押しとどめ、いつまでもそれを保っているようでした。

でもなんとかして、心に出てくるそういう利己的な想念を無理に押しとどめたり、無理にどかそうとすることもしないで素直に「あつ、出てきたな」というように見ていました。まあ色々試行錯誤をしてみたのですけれども――。

それでもこのことをすることによつて逆に何か余裕というものが出てきました。今まで気になつていたこれらの利己的な想念は、自然に出てくるにまかせておいてよいのですから随分気が楽になつてきました。そのことに気を払ふ必要もなくなつた自分はこんな想念が出てきたんだと悲観することもなくなりました。

とにかく今の自分の状態に、さらに信念や宇宙的な想念、イメージなどを自分の心をさらに広げることができるようになつてきました。これは自分の現在もつている力を充分に知ることになる

ことであるとも思いません。

自分の想念内容を知ること

歌手の人達はまず、自分のもっている力をよく知ることから始めます。そしてその持っている力を十分に出してゆけるように練習をしてゆきます。その歌手の人達のなかには自分の音量、音域、音質など色々あると思いますが、それらをよく知らないで歌おうとするのなら、無理に歌おうとして声帯を痛めてしまったりいつまでたっても進歩しなかったり、本当に満足感というものが湧き起こってこなかったりで、歌手としては耐えられなくなつてゆくと思えます。そして自分より優れていると思う人を見ては、いつも嘆いてばかりいることと思えます。

想念のときもそうだと思います。自分の想念のさまざまな状態を素直に知って自分のもっているパワーを十分に使うべくことは、とても大切なことであると思えます。

私はこのことを知ってから、ふと考えました。

「それでは自分ほどのように生活してゆけばよいのだろうか」と。

すると、「生命の科学」の一節が思い浮かんできました。

「我々は何かの目的をもってここに生まれてきたはずです」

という一節です。この言葉ほど私を勇気づけてくれた言葉はありません。これは今でもそうです。人間は誰でも目的をもって生まれてきているはずで、目的

のない人間などいないことであると思えます。私は自分の目的がどのようなものであるかはわかりませんが、何をしたいのか、何をしてきたのか、そしてそれはどういう理由で、ということとは考えることができず。

想念はパワーですので、歌手が十分な力をだして歌えるように、現在もっているパワーを十分に使うこと。すなわち、自分にできることを、日常生活で十分に遂行してゆくことはとても充実感のあることであると思えます。これは行動力とともに、自分の今もっている力を、イメージを描いたり、想念を感受したりなどすることであるとも思えます。

このように人間は誰でもパワーをもっています。このパワーは食物、その他色々なところから与えられるものなのであると思えます。それでですから、想念観察をしていて解つたのですが、ほんの小さな宇宙的想念があらわれてきて、それに対して喜びのフィードバックをもっている、その想念は次にはさらに強力な想念となつてあらわれてきてくれるはずで。

自分に素直になること。これが結局現在の私の目標です。

私は以前、人と会って話をするのがどうも苦手だった時代がありました。まあ今でもそうですが——。しかしそれでは自分にウソをつかないで自分の思ったことをありのままに言うことはできませんでした。そこで実行ということが必要になりました。思ったことをありのままに言うことは、わがままにそのことを言う

こととは違います。

このようにして自分にウソをつかないということが解つてきたのですが、それは苦しい時には苦しいと言ひ、うれしい時にはうれしうと言ふことであり、我慢をしてまるで鉄の仮面をかぶつたようにしつとしていくのではなく、また、ただ、だまって傍観者のようにしていることもないと思えます。

アダムスキー氏は客観的に見ることを「テレパシー」の中で述べていますが、ただそれだけを述べているのではなく、人間として生きてゆくために、その自分のパワーをいかに使うかということを通じているのだと思えます。

最近、新聞やテレビなどで中学生の非行が増えてきているということを見たり聞いたりします。彼らは小学生の頃は何かの変化もないのですが、中学生になつてくると突然非行、そういうものに興味をもち始めてきます。そして色々なことをしてかすのです。彼らが何故突然そのようになるのかを考えてみました。人間は子供から大人になるに従つて身体の中の各機関が成長してゆきます。そして自然の活動、すなわち、意識的な部分を司どる中枢は誰でも同じように強化されてゆくと思えます。しかしマインドに関係した中枢には個人差があるのだと思えます。それでこの意識に関係する中枢と、マインドに関係する中枢との間のバランスが問題になつてくるのではないかと思えます。

各中枢がバランスよく完成されてゆくのであればよいのですが、非行に走る子

供の場合は、マインドの方が、今まで蓄えられてきた家の原因とか、いろいろあると思えますけれども、そういう原因によつて、その非行に走るものの方へと興味をひき起こしてゆくのであると思えます。

従つて意識の部分のパワーを使うということは、とても重要なことであると思えます。

環境から逃げ出さない

ところで私は就職をして五年になりました。一年目は「宇宙哲学」や、「生命の科学」に書いてある事柄等を人に話したくしようがありませんでした。ですからちょっと人と話をしていても、すぐにそのようなことに関する話になつてしまいました。しかし、まわりの人達はそのような話を聞いても、ただ驚くか何かぐらゐで、それ以上何の反応もありませんでした。これは、相手が本当にこの話を聞いてくれるのだろうかという疑問を常に持つていて話をしていた私の方にも責任があるのだとも思えます。

まあそういうわけで、このようなことは、あまり話してもしようがないなと考へていました。私は話をしたくしようがないのですが、忍耐強く、きつと話をしてくる時があると考えていました。

そうして三年位して、やっと職場の人達が宇宙的な話を私のところにしてきてくれるようになりました。私は、まわりの人達が必ず宇宙的な話をしてくれてくれる、そういう信念をもつていたことは確

かですが、これは三年たつてやつと達成されてきました。

ここで職場の人達と申しましたが、勘違いをなさらないようにして下さい。私は職場の人達はとも素晴らしい人達だと思つています。たしかに宇宙哲学を知らないがためにいやになつてしまうこともあります。しかし私にはかけがえのない人達であり、私が間違えば指摘してくれるよい人達であります。彼らは宇宙哲学については何も知りません。だからといって、彼らから遠ざかることは全くしたくはありません。彼らが知らないからこそ、私のような者がいて、それでも別にいいのではないかと思つてます。

まわりの環境は常に自分の思い通りにゆくものではないと思つてます。しかし、その環境に何らかの力を及ぼすことはできるはずで、楽しい世界を築こうとするのなら、我々は自分を楽しい方向に向けることをしてゆかなければならないのではないのでしょうか。それは、やっかいなことから逃げるのではなくて、そのやっかいなことを乗り越えてゆくことであると思つてます。

我々がどんなに苦しいときでも、いやになつたときでも、常にそばにいてくれ、絶対に諦めずに解決方法を提供してくれている力、それは宇宙の英知です。間違えても間違えてもへこたれず、目の前における障害物乗り越えてゆく力。それは誰ももっている生命の力です。一体我々はどれくらい、我々を生かしているこの英知ほどに忍耐強いものでしょうか。

何回失敗をしても、何回進歩の道から目をそむけようとも、常に我々にささやき、進歩の道に連れもどそうとするこの宇宙の英知ほどに忍耐強い人間が、一体どこにいてるのでしょうか。そしてこれこそが宇宙の英知とよばれている、あの偉大な力の所以ではないでしょうか。私は実行という段階になると、明日するから今日はいいや、というのをよく考へてしまうことがあります。「生命の科学」を初めて読んだときも、実行するときもそうでした。

私は今学校に勤めていますが、学校で生徒に計画をたてて勉強をするようにと言いますと、よく、明日から必ずするからと約束をします。しかし、明日からという生徒にかぎって今までと同じ、だからだとした生活を送ることが多いことに気がきました。明日からと言うまえば、今日から始めなければならぬのではないのでしょうか。

先ほど申しましたように、私もよく、「生命の科学」については、明日から実行しようと思つたりします。何故、今日良いことをしようと思えなかつたのかと考へてみますと、当時は次のように思つていました。

それは、私は今このような利己的なことをしている。だから宇宙的なことは明日にならなければいけないのではないのかと。

しかしこの考へ方は間違っていました。利己的なことをしていたのならなおさら宇宙的なことをした方がよいのではないのでしょうか。

内部のファイリングに従うこと

就職してからの話に戻りますが、私は職場に勤めて一年間くらいは何をどうしてよいか解りませんでした。そうして私を知っている過去に教わつた色々な人達の真似をして、その人になりきつたつもりで色々やってみました。

初めはうまくいっているようでしたがだんだんとトラブルが起きてきて、もう真似をしていることができなくなつてしましました。そしてとうとう真似をするをやめて、今度は、自分の本当に持っているものは何であるかということ、実際にそれだけについてやってみることにしました。そしてこれらの真似を取り去つたあとに残るものは何かということとは全く解りませんが、とにかく全力でどんな力があるのだろうかということをやってみました。

それからというものの今までの習慣をどかすようにして、自分のもっている身体の中、その力を十分に出してゆくようにと、このことを心がけてきています。これはたやすいことではなく、忍耐力もいるものです。大学の頃の人生についての色々な本は前にも申しましたように、もうありませんでしたけれども、それでもまだだんだんとそういう関係の本がたまたまできてきましたので、それらの本も使うときさきわりがあると思つてすてしまひこんでしまいました。

これらの本をしまひこむ時には抵抗もありましたが、しまつてみると何かほつ

として、心のゆとりというものができてきたようでありました。更めて何と著者の意見が頭の中につまっていたことかと思ひました。そして大学の頃から、自分の本當の心を探すんだといきまいていながら、そのような本の著者の意見で自分を本當の心から遠ざけていたことに気がきました。

この自分の本當の心からでる力、それはファイリングであると思ひます。そこであることを思ひ出しました。

去年の夏、磐梯山へ旅行に行ったときのことです。我々は到着した翌日に磐梯山に登ることになっていました。そしてその山に登る前の日の夜、ある友人が、「実は十日位前にこういう夢を見たんだ」と言うことで、話を始めました。それはある生徒が山登りをしていて、突然身体のある部分の支障ですけども、その機能が働かなくなつて事故を起こすというものでした。そこで私に、その者が大丈夫だろうかと聞いてきたのでした。私は困つてしまひました。この旅行は絶対うまくゆくという印象が湧き起こつてきていたので、それで明日の朝会つてみようということだったので寝ることにしました。翌朝ラジオ体操をしている時にその生徒と会つたのですが、特に変わった印象は感じられませんでした。ただ昨日軽く足を痛めたようなので、山登りではないコースにしてみたらと友人に言ひました。友人も納得してその生徒だけ山登りではないコースにして、無事その旅行は素晴らしいものとなつて終了しました。

まあここで終わればいいのですけれどあとで聞いた話なのですが、一箇所危険な所がありまして、そこで昨日よその学校の生徒がすべり落ちたそうでした。そんなに気にせずに山道を歩いてきた私達はとても驚きました。もしもあの時登らせていたら危なかったかもしれないなど。このことによつて、相手からくるほんの小さなフィードバック、それはとても重要なこともあるのだということをお教えされました。

私はこの印象というものについてですが、想念観察をしていて悩むことがもう一つあります。一体これは宇宙的なフィードバックなのだろうか、自分を動かしている英知からのフィードバックなのだろうか、それとも推測なのだろうか。

今考えればそれは、頭の中だけで色々と考えすぎたためなのだろうと思います。自然はもっと簡単なはずで、湧き起こるフィードバックはいつも考えこむためものではないはずで、もっとゆとりがあり、そして明らかにするべきはずのことであると思います。

とになっているようでした。

ですからこのようにならないためには先ほど申しましたように、自分は一体何をしようとしているかということをはっきりとさせ、そしてそのためにはこうするとよいというイメージを時々思い描いておくようにするなどして、自分の道をしっかりと歩いてゆくことが必要であると思いました。

心と意識との一体化

時間がなくなってきましたので、最後に私の心と意識ということについても少し話させて下さい。

私は現在勤めている学校でのクラシックギターの同好会の顧問をしています。クラシックギターで合奏をするものから、独奏とは違い、あまりそれについて書かれた本がないので苦労したりすることもありますが、しかしその反面、自分から考えてゆくことができるので楽しいことでもあります。どうすれば良い音が出るのか、無理なく十分に力をだしている音をだすためにはどうしたらよいかなど、色々と考えることがあります。

これは初めのうちはいわば真剣勝負でした。今、創立してから三年目になりました。今、初めは一步間違えたと変なふうになり、ギターを弾いていたために身に支障がでてきたなどということにもなりかねない、そういう状態でしたので、他に教えてくれる人もありませんでしたので色々と考えました。一つの疑問が出てくると、それに対し

てあれこれと色々な角度から考えてみます。指だけではなく身体各部の力の配分の関係、音色の関係なども色々あります。そしてその疑問に対しての解答はすぐに出ることもあれば、一週間ぐらいかかることもあり、またあるいは風呂に入っている時に思いうかんでくることもあります。

最近日本にきた、クラシックギターを音楽的に高めた第一人者と言われるスペイン人のアンドレス・セゴビアという人は次のようなことを述べています。「私はギターを弾いているときには先生であると同時に生徒でもあります。そして私の中の先生と生徒とは、強く永続的な友情で結ばれ、人生のもっとも不快な変転も、そのきずなをますます固いものにしたのです」

彼は若い頃、ギターがそれほど音楽的に認められていなかったのを見て驚き、さまざまな研究をすることによって、ギターを弾く指の敏速さ、その他などについて考え、それらをギターのテクニクとして仕上げてゆきました。それには彼の中の先生の部分と生徒の部分とのつながりが役に立ったのだと思います。先生の部分はこうすればよいということを描き、生徒の部分はそれに忠実に従ってやってみるのですが、まづいいところがあると先生の部分へと、もどって行って再び考えるという、意識と心の両方を使っている人であると思います。

さて、私にはまさかそのようなことができるはずがないと思っていたのですが、それが少しづつできてゆきました。一つ

の疑問がでるとそれについて研究してみるので、するとそれについてのさまざまな想念が湧き起こってきます。そしてそれらについて検討したり、実際にためしてみたりしてその解答を見つけてゆくのですが、想念はすぐに湧き起こってきてくれることもありませんが、なかなか解らないこともありませぬ。

今年の九月の中旬までに一曲仕上げようと七月から練習を始めていたのですが八月の後半になってその曲に対して行き詰まりを感じてしまいました。自分がイメージとしてもっているところまで仕上げたいのですが、そこまでゆけずにある一箇所でどまったりになってしまったのです。その時は本当に困りました。そしてあれやこれやと考えようとしてもどう考えてよいかも解らず、それでもちろん良い考えも浮かんできませんでした。しょうがないので休みをとって、九月の初めに再び始めてみました。すると少しは良くなっていくようでした。休みをとってリラックスしたのが良かったのかもしれませんが、これはいいぞと思いました。そしてそれからというもの、こうすればよいという想念も前のように出てくるようになり、また援助をしてくれる人も来てくれるようになりました。そしてなんとか思いどおりの仕上がりになりました。九月の中旬には仕上げる事ができました。この時は本当にこのことをやっていてよかったです。

このようにして思いついた色々な考え方などはノートに書きとめてあるのもありますが、それらをあとで見ると、

このときは意識と一体だったのかなあと
思うこともあります。

そしてこれらの方法は立派に通用する
ものでなくてはならないので、やはり色
々な人の意見をお聞きすることも勿論で
す。

こうして私の中にも意識と心という関
係があるのだということが解ってきはじ
めました。そうしてここまで来た私は、

宇宙哲学との出会いと 実践活動の今後

〈東京本部〉 志田真人

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、
日本GAP創立二十周年記念大会に多数
御来場下さいまして誠にありがとうございます。
たぐいまれ御紹介にあずかりまし
た東京本部の志田です。

本来ならば私はこうしたところから皆
様にお話しできる程の人間ではありません
が、本日は特別にお許しをいただき、ア
ダムスキー問題あるいは宇宙哲学といっ

私にも意識と一体であるときがあるのだ
と自信をもつていえるのであります。ど
のような人にもこのようなときはあるは
ずです。そして私はこのアダムスキー哲
学に出会って以来本当によかったと心か
ら言える次第です。

日本GAPの二十周年を心より御祝
いさせていただきます。どうもありがとう
ございました。

たものとの出会いから、今日に至るま
での過程、また今後の実践活動に關する事
柄につきましては私自身の体験や今年ビス
タの米國GAP本部で学んだことなどを
まじえながらしばらくの間お話ししたい
と思ひます。どうぞリラックスしてお聞
き下さい。

宇宙哲学との出会い

私とアダムスキー問題との本格的な出
会いは、私が日本GAPに参加した
一九七三年秋のことです。この時がア
ダムスキーによってわれわれにもたらされ
た宇宙哲学や生命の科学との実質的な意
味での出会いといえます。もっともU
FO問題との出会いは小学校五、六年の頃
のことで、当時私の父が「空飛ぶ円盤突
見配」や「精神感應」といった本を読んで
おり、私も子供心に興味をおぼえてちょ
くちよく読んでいました。もちろん当時

はアダムスキー問題の真相とか、スベ
ープログラムの一環としての生命の科学
や宇宙哲学であるといったことなど全く
わからず、単なる好奇心から読んでいた
だけでした。こうしたことから久保田八
郎先生のお名前はその頃から存じており
ましたが、その後十数年たって久保田会
長の主宰される日本GAPに参加するこ
とになりました。ことに何か特別な因縁と
いったものを感じざるを得ません。また
GAP入会の直接の動機は、ワイフの強
い入会希望が要因となっており、アダム
スキー問題の理解者が身近に多いとい
うことは私自身にとって非常なはげみとな
っています。

さて私は小さい頃、「人間は死ん
だらどうなる」とか「金星や火星には生
物はいないのだろうか」といった余り子
供らしくない疑問をずっと持っていました。
これはひとつには普賢が寺の住職を
やっていたことから死人だとか葬式とい
ったことになじみが深くなり、いやがう
えにも人間の死というものあるいは死後
のことについて考えさせられたこと、ま
た勉強ざらいでしたが、SF空想小説は
大変興味をもって読んでいたことから影
響を受けたためと思われる。そんな訳
です。最初父の机の上で「空飛ぶ円
盤突見配」を見つけて読んでいたときも別に
驚くことは何もありませんでした。それ
どころかその後、「テレビシー」や、
アダムスキーの著書ではありませんが、
たが、「宇宙船・宇宙人」といった本に
多く接したためいつしか他の星あるいは
惑星には我々と同じような人間がいて当

り前という一種の独断におちいるよう
になりました。従いまして日本GAPに参
加する頃には、「彼らは何故やって来る
のか」という疑問に変わっており、宇宙
船の目撃事件やあるいは宇宙人との遭遇
事件といったものには余り興味なくな
ってしまいました。どのくらい星や惑星が
この宇宙に存在するのか全く想像もつき
ませんが、その中の地球とかいうこの小
さな惑星上だけにわれわれのような生物
が住んでいるなどと考えるのはわれわれ
の好きな「常識」と照らし合わせてみて
もナンセンスとしか思えなくなりました。
従いましてわれわれと同じような
格好をした異星人が宇宙船に乗って地球
を訪問することはあって当たり前で別に驚
くべきことでも何でもないと思えるよう
になりました。ただそうなる、といった
いどのような目的でやってくるかが問題
でした。

ところが、この太陽系の他のいくつか
の惑星には偉大な発展をげた人類がい
て、危機にひんした地球に対して救援の
手をさしのべるために地球にやって来て
いること。またわれわれ地球人間にま
じって生活しひそかに援助していること、
さらに彼らがアダムスキーを通じてわれ
われもそうした哲学や生命の科学は、人
間の本来の生き方と未来の運命の真実と
を知るために大変重要であることを確信
するに至ってはじめて事の重大さに気づ
き驚愕したのです。更に驚くべきことに
アダムスキーの宇宙哲学や生命の科学に
關する著書を読むにつれ、これまで自分
が自信をもって学んで来た宗教上の教義



や地球上のあらゆる哲学に対する信頼感が露散してしまいました。ここに至って私は人間の本来の生き方と未来の運命の真実とを追究するために宇宙哲学や生命の科学、あるいはテレビパシーのなかに書かれていたことを少しづつでもいいから実践して行くことを決心したのです。

「アダムスキーはニセ者だ」とかインチキ呼ばわりしたり、彼のもたらした哲学に不信を抱く前に彼がわれわれに伝えてくれたことをまず実践してみることの重要性にわれわれは気づくべきです。

地球上での生き方を学ぶ

— インドネシアでの体験 —

ところで私は機会があれば出来るだけ多くの国で何年かずつ生活してみたいと常々考えて来ました。これはアダムスキーが「スペース・ブラザースはなぜ来るのか」の中で述べている次の言葉が基本になっています。

「一人の青年が私に語りました。「私は地球を出て金星または他の惑星へ行きたい」。そうですね。そう言う人が沢山います。しかし地球に住めないというようなことでどうして他の惑星に住めるでしょう。地球上で隣人と共に暮らせない人が他の惑星で暮らせる訳がありません。私は幸いなことに子供の頃日本中を転々としたためその土地土地で色々な人たちの生活というものを学ぶことが出来ました。従いまして今度は世界中を転々として色々な人々と接し、また共に生活しながらこのアダムスキーの言葉を実践してみたいと考えている訳です。ここに

いる皆様方の大部分が「他の惑星へ行きたい」とアダムスキーに語りかけたこの青年と同じ願望をお持ちではないかと思えます。私も同じです。しかし私はこの青年同様、まず地球上での生活を学ばねばならないことに気づいていませんでした。そうした折も折、仕事の都合でインドネシアに滞在することになりました。

一九七五年のことです。

私はいよいよ機会到来と内心大喜びでした。インドネシアについては予備知識も大してなく、変な先人頼も持っていないで来たのでアダムスキーの言葉を実践するには好適だと考えました。結果的にはこうして無事日本に戻って来ましたし、長男もインドネシアでさずかりました。ハタ目にはうまくやって来たと言えども知れませんが、実情は決してうまくやって来たとは言えないのです。物の考え方の相異からくる人間関係のトラブルがしょっちゅうあり、そのため人間不信におちいりそうになったこともありました。こうした物の考え方の相異や価値感の相異というのは彼らの考え方や行動の基盤が大部分宗教的なものに立脚しており、一方こちらがそうでないことから起こって来ました。私の方は出来るだけ宗教的なものや神秘的なものには近づかないで宇宙的な見地から考えたり行動しようとするのに対し、彼らはイスラム教という宗教をベースに考えたり行動するためなかなか一致点が見い出せず、結果的にはこちらが悩むということがかなりありました。「私たちは実際は政府よりもむしろ宗教によって圧迫を受けているの

です」とアダムスキーは言っていますが、実際宗教というものが人々を狭い殻の中に追いやっていっている事実をいたる所で見ました。

約五年インドネシアに滞在しましたが無事に任務を終えて帰国できたのも、また初めての子供を無事インドネシアで出産出来たのも生活のバックに宇宙哲学や「生命の科学」の教えがあったためであることは事実です。異国の地で私の生活の基盤となり、今なお私が宇宙哲学を實踐して行くうえでの基本としているのは、アダムスキーの著書「宇宙からの訪問者」の第十四章でマスターがアダムスキーに言った次の言葉です。

「一度正しい道を踏めば外れることはありません。人間は寛容の精神をもって働き、努力し、すべての事柄は決してわからないということを抱えず意識するのが根本的に重要です。進む道が正しいかどうかを決定するのに確実な指針がありません。それは全く簡単です。もし地球人の思想や行動の結果がまちがっているなら進む道は創造主の援助の光からそれていますが、行く道によき物事が起こるならあなたがた、子供、その子供たちの生活はよろこばしいものになるでしょう。病氣や闘争で乱れることもなく、祝福があなたがたの永遠の財産になるでしょう」

今年五月の東京月例会でもお話ししましたが、インドネシアに赴任して間もなくワイフが妊娠したことを知ったときに私は非常に恐怖心かられました。ろくに医療施設もないこんな国で果たして子供が生めるのだろうか、得体の知れない

病氣にでもなつて子供にまで影響したらどうしようなどと毎日心配してました。今だからこそこのようにムクムクふとってにこやかな顔をしています。当時は毎日胃がキリキリ痛んだ程心配しました。これはテープレコーダーに自分たちを強く勇気づける言葉を何回も繰り返し吹き込んで毎夜寝ながらそれを聞くという方法で心配や恐怖心を除去することに成功し、結果的には全くの安産で望んだ通りの健康な男の子を得ることが出来た訳です。余談ですが、テープレコーダーに実現させたい事柄を何回も繰り返し吹き込み、それを聞きながら一方では実現した状態を強烈なイメージで描く方法は実に効果的であることが私の体験から言えます。

インドネシアでの滞在を通じて、他人の憎悪、嫉妬、非難、貪欲、心配、恐怖といった想念には巻き込まれないようにすること、神秘主義的な事象、宗教的な教義にはそれらがどんなに魅力的であっても近づかないこと、地球上のいかなる同胞とも仲良くやっていくこととは口で言う程たやすいことではないこと、地球上のいかなる場所においても常に宇宙的な状態を保つことのむずかしさなどを学びました。

ピスタで知った自分の驕り

インドネシアから戻って来てまだ引越荷物も良く整理できていなかった今年の八月に、積年の夢であったピスタの米国GAP本部訪問が実現しました。これ

などもインドネシアにいたときから夫婦そろってイメージを描いて実現させた例と書きます。私はイメージの中でビスタの米国GAPの人たちと何回握手したか知れません。これまで話して来ましたが、うに私は「生命の科学」「テレバシー」などで学んだ事柄を実生活に活かすようにして今日まで自分なりに努力して来たと自負してました。ところが今夏ビスタを訪ねて米国GAPの人たちと接するうちにバケの皮が一枚一枚とはがれていくのに気づきました。

まず第一に、自分は宇宙的になろうと努力して来てもそれなりにいい線を描いていると思いがあってはいたが、もしかすると宇宙的でも何でもないのでないかという気がして来たのです。このことは、ステックリング氏が日米合同夕食会で次のように話されたときに強く感じました。

「愛の普遍的原理は生命の普遍的原理の最も偉大なもののひとつでありながら一般的にはひどく誤解されています。真に宇宙的な愛とは、動物、植物及び人間など生命のあらゆる形の間にある暖かい統一なフィードバックです。人間が真に宇宙的になろうとするなら自分たちのまわりに存在するあらゆる生命を調和結合させる真の愛の原理の利用法を学ぶ必要があります」

これと同様のことを一九七八年度日本GAP総会でホワイティング氏が述べています。すなわち、

「私たちは愛の原理こそ宇宙で最も強い力であることを決して忘れてはなりません。

せん。それは万物を互いに結びつける力です。あらゆる生命を生じさせ、再生させ、生き続けたいと願わせるあなたに吸引力です」

このステックリング氏とホワイティング氏の話の中味をもとに私自身を良く観察しますと、私は暖かい統一のフィードバックとか吸引力とかいった愛の原理を生活の中で活かしていないのではないかと感じ始めました。生命の普遍的原理を日常生活の中で活かして行かなければ何にもならないということはハッキリしています。このことはイングリッド夫人も、「日常生活の中で宇宙的な生き方をしなくては全く無意味です」と、再三強調していたことからも明白です。

第二に、「そうだ、これは良いことだからやってみよう」といった何か良いフィードバックが起きて、「メンドウだからやめよう」とか「アホらしい」といった怠惰心や、「こんなことをしたら人に笑われる」とか「誰もやっていないから」といった伝統的、因習的な物の考え方に左右されて良いフィードバックを無視しすぎるということ。こうしたフィードバックを大切にして行動していくことはテレバシー能力向上には欠かせないことですから、その意味からも私はテレバシックではないということになります。これは、イングリッド夫人から、「あなたはわかっていてやらないという点でナマケ者です」と指摘され、ハツと気づいたのです。

すなわち宇宙的な生き方をしよう、またテレバシー能力を向上させよう、そして

て人間本来の生き方に少しでも近づこうと自分なりに努力し、アダムスキーの著書を読んだりして研さんを積んできてもそれらの基本原理を活かしてはなかったり、あるいは無視したりしては、ただ英知なき知識が身についたということだけで全く意味がないことをあらためて知らされた訳です。このことは私にとっても大変なショックではありましたが、それだけにビスタ訪問の真の目的を果たしたと感じています。ビスタ訪問の前はもっと目新しいティーチングを受けるつもりでいたのですが、いみじくも本質的なことを突かれ、結局はすばらしい収穫を得ることができた訳です。

これは米国GAPの人々の前にいると思いがつた気持、傲慢な気持、あるいは不自信といったものが消え失せ、自分自身でも不思議な程素直で謙虚な気持ちになることから、普段はセンスマインドでフタをして見ないようにしているものが見えるようになるからでしょう。今夏のビスタ訪問は短期間ではありましたが、あらゆる意味で全くすばらしい旅でした。イングリッド夫人が「夕食会のときに感じた印象では出席者の半数以上がビスタにとどまりたいと思っていましたよ」と言っておられました。機会があれば、短期間でもビスタを訪ねられれば必ず新たに得ることがあると確信します。

SIMPLICITY (シンプル)

ビスタではわれわれの潜在が短かつたため重要なテーマにつき、それぞれ内

容をコンデンスしたかたちで話してくれましたが、その中でもステックリング氏がみずから非常に重要なこととして、「SIMPLICITY」というテーマで話をしてくれましたので、この内容を要約してこれから皆様にお伝えしたいと思います。このSIMPLICITYといふのは、質朴、実直、質素、飾りのないことなどといった意味をもったものですが、ピタリする日本語は思い浮かびません。

「われわれは、SIMPLICITYという重要なことを見つけています。われわれの世界では、通常SIMPLE MANというのは無視され、われわれはSIMPLE MANというのは幼稚で馬鹿だと教えられてきました。一方で高度な技術者や科学者は非常に知的な人々だと教えられてきました。SIMPLE MANはフィードバックで自然とコミュニケーションできますが、われわれはそのような人間は馬鹿者だと見なすようになりました。しかし金星のように高度に発達した惑星ではSIMPLICITYがまず重要だと教えられています。すなわち自然とコミュニケーションすることは、創造物の目的を理解できることに他ならないからです。われわれはSIMPLICITYの基本原則を学んで来たのですが、科学的な社会をつくる上ですべては忘れ去られてしまいました。しかしもしわれわれが平和で発達した社会に住みたいと願うなら、自然の簡単な法則を無視してはいけません。

今日高度に教育を受けた人々はコミュニ

ニケートの手段としてのテレパシー能力を失ってしまいました。というのは、それが素朴さや正直さや自然の心といったものを要求し、また彼らのまわりに存在する物事について先入観、独断あるいは個人的な意見といったものを持たぬよう要求しているからです。彼らは新しい物事を古い概念で見えており、その結果、自分たちの知覚をせばめています。

リラックスしたり、感覚的であったり、感受性の一定の状態に拘束されないといった単純な能力は、一般的には現実逃避を試みる人々にとつてのみ都合の良いことと見なされて来ましたが、本当はこれこそが真のテレパシー能力を得るための唯一の方法なのです」

この中でステックリング氏はテレパシーの重要性を何度も強調すると同時に、テレパシー能力を高めるためにはまず、SIMPLEでなければならぬと語気を強めて話してくれました。これに関連してホワイティング氏が、「テレパシーを利用してときには完全にリラックスする必要はある」ことをつけ加えてくれました。

ビスタでのティーチングの語が生まれたのでここでイングリッド夫人からお聞きした話の内容についても若干触れたいと思います。何分大半が個人的なことですのでお話しできるのはポイントだけとなりますが、お許しただきたいと思えます。

「地球というのはポジティブな惑星であるためにバランスをとるため女性が六割男性が四割の割合で存在しています。し

かも男性がポジティブで女性がネガティブであるため、この地球では、男性が宇宙的に生きることは女性の場合よりむずかしく、逆に女性は、宇宙的なフィーリングを男性よりも、より多く受けやすい状態にあります。従つて、夫婦間などでは妻が自分の受けた宇宙的なフィーリングをパートナーである夫に反射することにより、相手を宇宙的な状態にさせ、それにより自分も宇宙的になります」

「親は子供の過去を眺みとつて、それを子供に気づかせるようにしなくてはならず、また親は、子供から学ぶ必要があります」

「宗教、伝統、因習といったものからフリーになって、自由な物の考え方ができるようにする必要があります」
以上のような内容ですが、とにかくイングリッド夫人の前には、何から何までお見通しといった感じを受け、子供のようにならざるを得なくなりませす。

今後の活動のポイント

このように宇宙哲学や「生命の科学」に接して以来、試行錯誤を続けながら色々学んで来たわけですが、今後の最大のポイントは、日常生活の中で愛の普遍的原理やテレパシクな印象を生かして行くことにあります。少なくとも私が接した米田GAPのかたがたはこうしたことをまわがいがなく日常生活の中で活かしており、それによつて日々向上していることは明白です。そこで、
まず第一に、自分の精神を高揚させる

時間を確実に毎日何時間かとること。これはホワイティング氏のアドヴァイスです。

第二に、わき起こってくるフィーリングを無視したり、否定したりする要因となる伝統的なものの考え方や因習といったものをとり除き、それらの原因となっている習慣細胞を破壊すること。いろいろわき起こってくる印象のどれが正しいものかを知る方法についてイングリッド夫人は、それらの印象にまず従つてみることでと述べていました。そして大切なことは、その結果まちがっていたことがわかってても罪悪感を起こしてはいけないとのことでした。

第三に、出来るだけ自然に接し、生命のあらゆる形の間に存在するあたたかい統一的なフィーリングを感じ、そうしたフィーリングを日常生活の中にとり入れるようにすることです。

こうしてビスタ訪問後私は今一度原点にたちかえつて宇宙哲学や「生命の科学」を生活の中で活かしていくことを決めた次第です。

ビスタからの手紙

最近になってビスタよりすばらしい内容の手紙を受け取りましたのでここにその一部を紹介させていただきます。

「テレパシーは、われわれがそのことについて知っていないにかかわらず、まわがいがなく存在します。テレパシーについて学ぶことだけがわれわれの人生に恩恵を与えます。」

すばらしい生き方について口で言うことはたやすいのですが、実際にそれを実践させるとなると各々それぞれ立場や条件が少しづつちがうために強固な信念を必要とします。しかしわれわれはフィーリングでその両者にうまく適合する方法を学ぶことができます。

長い間このプログラムにたずさわつてきて、われわれは多くの異なる国々の人々と接する機会を持ちました。それら多くの人々は何かより良いものを求めており、そのことが彼らにより良き理解をさがし求めるようながしているのです。しばしば彼らは自分たちの求めていたものを見い出しますが、いざ実践することになるとうまく行きません。行動によつて裏付けられなければ言葉自体は大した意味を持っていません。キリストは「私の言葉ではなく、私の行為によつてあなたかたは私を理解するだろう」と言っています。アダムスキー氏と共に働いてみて私は

彼が多くの著書に書いた通り、彼の多くの生涯を通じ、あるいは生命の連続を通じてより良く生きたということを確認をもって伝えることができます。いかなる人間も一人では人格の完成をなし得ません。このことは、人類が本来ひとつの家族であつてお互いに助け合うように創造されていることを意味しています。残念なことに、われわれは本来の目的を忘れてしまい、そして今日人間はバラバラになつたものを結合させようと努力しながら、しかしそれぞれに孤立立っています。協力し合つてはじめてそうした仕事がない

しとげられるのです。
 アダムスキー氏はユニティ、すなわち
 一体化のために非常に努力をしました。
 なぜならユニティというのはすべての物
 事の根本となるからです。彼は常に「一
 人よりも二人がよい」と言っていました
 が確かに真実です。

宇宙的な愛こそがわれわれに真の理解

アダムスキー問題の本質

〈日本GAP会長〉 久保田 八郎

本日は多数ご来場いただきまして有難
 うございました。平素は多大なご支援に
 あずかりまして厚く御礼を申し上げます
 第でございます。

おかげさまで本日、日本GAPの創立
 二十周年記念の総会をここで盛大に開催
 できました。心から嬉しく思いますと
 もに、厚く感謝する次第でございます。
 また、ただいままでは俊英五氏によ
 ります素晴らしい宇宙哲学の実験談を



と、寛容と忍耐をもたらします

以上本日お話ししたことで皆様にとっ
 て目新しいことは何もないと思います。
 とにかく重要なことは、「日常生活の中
 で宇宙的な生き方をする」ということに
 集約されるのではないかと考える次第で
 す。

御静聴ありがとうございました。

お聴きしまして非常によい参考になり感
 銘を深めた次第でございます。出演され
 ました皆様方は実際に日常生活で実行し
 ておられる方ばかりでして、単なる言葉
 の羅列ではないわけで、これが本当だと
 思います。

大國政府の隠蔽策

ご承知のように私はずい分長いあいだ
 アダムスキー問題の研究を行ってまいり
 ましたし、その間さまざまな出来事もあり
 つてまいりましたのですが、アダムスキ
 ーに関する限り、あまりにも深遠な哲学
 と、それから、スケールの雄大な宇宙的
 な記述にますます注目するばかりでして、
 これでは世人の関心の的にならないのも
 無理はないわいと、こう思う次第であり
 ます。

現在この太陽系の地球以外の惑星には
 人間はいないという考えが一般ではまだ

圧倒的に強いのですけれども、これはニ
 ユースレター71号の巻頭言に書きました
 ように——あの巻頭言はいつも私が書いて
 いるんですが——、大國政府は真相を
 隠したがりますので、実際にはすごい事
 実が判明しておるにもかかわらず、全く
 逆な事を公表して大衆を盲目にしておく
 という一種の欺瞞策が講じられていると
 考えられるわけです。しかも世界の現状
 を見渡しますと、かえってそのほうが賢
 明ではないかという気がいたします。
 もしアメリカなりソ連なりが別な惑星
 の人類の存在説を唱えようものならば、
 これはもう大騒ぎになるでしょう。なぜ
 なら人間は未知の物事に対して恐怖心を
 起こしやすいからです。

一九三七年と申しますと私が小学校の
 たしか六年生の頃だったと思えますが、
 アメリカでオーソン・ウェルズという空
 想科学ドラマの演出家が「宇宙戦争」と
 という題のドラマをラジオで放送したんで
 す。そして蛸のような姿をした火星人が
 地球へ来襲してきたというような仮空の
 物語を流したのですが、これを聴きまし
 た一般市民が本物のニュースと勘違いし、
 大混乱が発生して避難騒ぎや、ついには
 発狂者まで出たというようなことがあつ
 ちです。

これからみましても人間のマインド（
 心）というものがいかにいい加減なもの
 であるかということがわかると思えます。
 あれから四十四年しか経過していませ
 ん。四十四年間のことは大体、私、世の
 中に何があつたかを知っておりますが、
 地球人の精神の状態は全く進歩していな

いと思えます。ですから別な惑星の人類
 の存在について米ソあたりが声明を発表
 した場合、どえらい混乱が発生すること
 は限に見えてわかっておりますね。した
 がって米ソとしてはまだ真相を隠蔽して
 おくほうが良策だといえるでしょう。

これは個人でもプライベートな問題を
 そうだれしもやたらと話しはしないも
 んでして、率直に申しますと、私もアダム
 スキー問題のすべてを皆様方に完全にし
 やべってしまったということじゃないん
 でして、実はまだ隠していることが沢山
 あるんです。そこで、それなら今夜のパ
 ーティーで、久保田にうんと飲ませて酔
 っぱらわせて、しゃべらせてやろうとい
 うことになるかもしれません、それは
 だめなんです。私は今夜はビールをコッ
 プに三杯しか飲みませんからね（一同笑）
 ま、これは冗談です。今日は二十周年記
 念の盛大なパーティーですから、大いに飲
 ませていただきます——飲めない酒
 をです（一同笑）——、そして皆
 様方と一夜愉快にすごしたいと思いま
 すので、その点はよろしくおつきあいのほ
 どをお願いいたします。

極移動が起こっている。

さて、アダムスキーの宇宙的な体験は
 有名な二種類の書物でむかし公表されま
 した。これは原題を直訳しますと「空飛
 ぶ円盤は着陸した」というのが一つで、
 これはいわゆる「実見記」といわれてい
 るものです。それから「宇宙船の内部」
 という題の書物として後に出たのが一つ。

これはいわゆる「同乗記」といわれているものです。これらは現在読んでみましても、全く驚異的な内容なんでしょうけれども、そのなかで見逃し得ない重大な情報があり、さりげなく洩らされているんです。さりげなく、ですね。

この二つの書物を合わせたものは「宇宙からの訪問者」という題で、まだユニバース出版社から出ていると思いますが、その第二部の「宇宙船の内部」の二百七十六頁にオーソン氏の言葉としてこういうことが述べられています。

「地球の傾きがいまでも次第に起こっているというのを知れば、あなたの関心をひき起こすかもしれません。これはいつでも起こりうることなのですが、もし地球がそのサイクルを終えようとして、完全に傾くならば、いま海底にある土地の多くは隆起するでしょう」

そこでアダムスキーが大いに驚いたとみえまして、

「たしかに激烈な傾きは地球上に大変動をもたらすんでしょね？」と尋ねましたところ

「必ず起こります」と、相手は答えた、とあります。

これは非常に重大な個所なんです、このことは地球つまり地球の自転軸の傾きを意味しています。

地球というのはご存知のように球体です。丸いイモの真ん中にクシを一本突き刺して、それを中心にくるくるコマのように回っているわけですし、そして自転しながら更に太陽のまわりを公転しているわけですが、この体験記が発表されま

した昭和三十年の初期の頃は、地球——地球の自転軸を地軸といいますが——の傾きというような説は一般世間では全く相手にされないで、当時、この問題を科学者（複数）が笑いとばしていたのを私は覚えております。

ところがですね、この地軸の傾きというのはいまもいらない事実であって、確実に、わずかながらも少しずつ発生しております、そのために世界に異常気象が発生しているとか、その他異常現象が発生しているのだからという説を明確に打ち出した研究者（複数）が、すでに現れているんです。

聞くところによりますと、日本のあるトップクラスの大学の学者がひそかにこれを研究しているそうです。

アメリカのジョン・ホワイトという人もその一人です、その研究者の書いた「ポール・シフト」と題する論説が、最近「地球の最期を予測する」という題で日本語訳が出ました。三笠書房という出版社から出たんです。もうすでにご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、

Pole Shift（極の移動）ですね。

極といいますがこれは北極南極のあの極、シフトは移動ですから、「極の移動」です。

これによりますと、七名ほどのポール・シフトの大研究者がすでに出ておりまして、その各研究者の論説をその書物に掲げた上で、結論として、遠からずこのポール・シフトが発生して、地球上にカタストロフィー、つまり大破局をもたらすだろうと、こういうふうを示唆しているんです。いい本が出たもんですね。本

当に素晴らしい本です。

この書物は科学的に書かれた、なかなか興味深い内容です。過去にシベリアで冷凍状態で発見されたマンモスですね——象をもっと大きくしたような巨大な動物ですが——、そのマンモスの遺体が直立した姿勢で発見されました。

なにかの病気で死んでから冷凍状態になったのなら横倒しになっているはずですが、みなそうじゃないんです。直立して立ち上がったままの状態で見発見されているんです。

これはある日突然に、アッというまに大変動が発生して、マンモスが生きたまま水漬けにされたんじゃないかという推測から、これが極移動によるものではないかという研究が進展してきたらしいんです。

あるいは古代の失われた大陸の例のムーとかアトランティスですね、こういうのも、本当は極移動による沈没ではなかったかというふうなことが述べてありまして、今世紀末の、一九九九年の八月か十月でしたか、大変な事が起こるといっているのは、あれは本当は極移動のことを言っているんじゃないかという推論まで出ております。

そういうようないわゆる予言ですが、予言というものは全然無視できないものもありまして、たとえば先程申しましたように、「宇宙船の内部」でオーソン氏でしたか、地球の聖書には未来に関する予言が沢山あるのだけれども、地球人はそれに全然眼を向けられない、なぜもっとそういうことを調べないのかというふうな

ことを言っております。

だから、聖書中の予言というのはどういふものか私はよく知りませんが、相当に多くの予言が含まれているようですから、これもまあ、無視できないものがあるでしょう。

で、その「地球の最期を予測する」という書物の中には、イマニエル・ヴェリコフスキーという有名な研究者が昔いたんですが、金星が地球に異常接近してきたために、過去に極異動が起こったことがあるという、ちょっと納得しがたいような説ですけども、そういうことが述べてあります。

とにかく現在、地球全体に頻発しております大地震ですが、昨日もカリフォルニアの北部でマグニチュード六点いくらでしたか大地震があったと今朝の新聞に出ていたんですが、そういう地震とかあるいは異常気象は、この極異動の前兆ではないかというふう言っているんです。

これは大体にアダムスキーの「宇宙船の内部」でアダムスキーが聞いた話とある程度一致するわけです。その他、ガスベルト説などもあるんですが、そのガスベルトというものがあるとすれば、それはやはり極移動に関連してそれが爆発するとかなんかが起こるんじゃないかとも考えられます。

科学者のなかには、世界的な異常気象はアメリカのセントヘレンズ山の大爆発による噴煙が原因じゃないかという学者まであります。そこまでは素人考えでもちょっと考えられないんですが、しかしそういうふうには、異常気象というものが

大変な関心の的になつてゐるということ
は間違いないです。なぜかといま
すと、この異常現象によつて、世界的に農
作物が大変な被害を受けてゐるわけ
で、たとえば、ソ連は穀物が不足して深刻な
状態になつてゐるということが最近も新
聞に出ておりましたね。

しかも世界の人口は増加する一方です
から、こうなれば当然、食糧の奪い合い
になりますし、奪い合いということにな
れば、恐るべき大戦争が発生するであろ
うし、そして大惨事に至るだろうとい
うことは、充分考えられるわけです。

大戦争が発生するか？

このようなカタストロフィー（大破局）
を避けるにはどうすればよいかとい
うこととありますが、地球のひっくり返り
は逃れられないとしても、これを事前に
観測して、世界中が一致協力して観測網
をして、早くからそれを知らせ合は
よといふわけですから、世界連邦み
たいなものをつくつて、各国が仲良く観測
網をしけばいいんじゃないかといふよ
うなことが、その書物の中に出ていま
すが、それは、そう簡単にはゆかないで
しよう。

アダムスキーの「宇宙船の内部」の
アダムスキーとオーソン氏との極移動に
関する会話の部分でも、オーソン氏が
次のように話しておられます。

「もし人間が大変動を起こさないよ
うにしようと思えば、他人を自分自身と
みなし、他人を自分の反映と考へる必要があ
ります」

この哲学的な意味は、私にも正直な
ところ、あまりよくわかりませんが、察す
るにこれは人間が互いに反目し合うこと
なく、調和して生きなさいという意味で
ありましようから、そうすれば戦争も選
べられましよう、核爆発による極移動の
とき大変動も起こさずにすむといふこと
になるわけです。

ちなみに、突然の極移動は、核爆発の
大爆発などが引き金になるともいわれ
ておられますから、そのような巨大な爆発を
起こすような戦争は、まずやらないほう
がよいということになります。

ところが、最近の情勢から判断して
みると、どうも第三次大戦が切迫して
いるんじゃないか、といふふうに考へられ
るんです。これは単なる推測にすぎませ
んが——推測なるがゆゑに間違つてい
ればいいんですがね。戦争などはだれも
が望みませんから、むしろ、この推測は
間違つてゐるほうがいいんですが——
どう考へても世界の状況は、戦争から遠
ざかるどころか、ますます戦争のほうに
接近してゐるといふふうに考へられる
んです。

この考へは私の考へですが、これは最
近、アメリカの大統領が交替したから、
急にそういう考へが起こつたといふこと
じゃないんです。ずっと以前から私が一
種のフィリングとして感じていたんで
す。そうしましたら、アメリカのタカ派
の大統領になつたもんですから、こりや
ますます危いわいと思つたやうになつた
んです。

ただし恐怖心を植えつけるためにこん
な話をするんじゃないのでして、こうい
うときにどうすればよいかといふことを
これからお話しするわけですから、ひと
つ安心してお聴き頂きたいと思ひます。

こういう場合に「仕方がないんだ」と
言つて手をこまぬいて戦争屋の仕業を傍
観してゐるだけだつたら、これはもうみ
んなが地獄の火の中に投げ込まれるだけ
ですから、なんとかしなくちゃいけない
ですね。

どうすれば救われるか

どうすれば大災害から逃れられるか、
といふことですが、ここにアダムスキー
の偉大な宇宙哲学の存在価値といふもの
があるんです。

「宇宙からの訪問者」の百七十四頁の最
後の所に、ファアコンと名付けられたス
ペース・ビーブルの一人が、こういうこ
とを言つておられます。

「人間は生き方を変えようとしな
い限り救われるものではないのです」と。これ
は素晴らしい言葉です。

「無限なる者の法則をまじめに追求し
ようとする地球の少数の人々は、他人を導
くように努力する必要があります」

このあとが問題です。
「そうすれば他の世界の私たちもその人
々を助けるつもりです」と、こう言つて
います。

要するに他人を助けようとする人は、
ある人々によつて助けられるといふこと
なんです。もうすでに助けられてゐる人

もあると思ひますよ。何人かの人は——

じゃ「生き方を変える」とはどういう
ことかといふことですが、これはもうア
ダムスキーの哲学書の「生命の科学」や
「テレパシー」などに、イヤといふほど
書いてありますから、それをごらんにな
ればよろしいわけです。その「テレパシ
ー」の四十九頁にありますが一部分です
が、これがまず最高次の法則ではないかと思
うんです。こうなつてゐるんです。

「他の惑星に住む進化した人類は、自分
の前に他人が立つ場合、自分が「生ける
神」の面前にゐるのだといふふうに意識
してゐるのです」

これはもう宇宙的な生き方の最高の法
則でしょうね。こういうふうな意識をも
つて生きる人は、必ず救われるのであ
つて、破壊することは決してないしや
う。ここで救われるといふのは必ずしも肉
体的な救済ばかりではなく、肉体は失つ
ても転生、つまり生まれかわりによつて
更に高次の惑星へ移動することも意味す
るわけです。

だから救われるといふのは、肉体を持
つたままで、どこか安全な場所へ行く
といふこともあるかもしれませんが、そ
ればかりじゃなくて、安全な場所へ行つ
ても食べる物もない、人間が人間を殺し
合うような飢餓地獄の状態になつた所
で生き延びてもしよがないうから、そ
の場合にはあっさり波に巻かれて肉体は元
へ戻して、そして自分の実体だけを、素
晴らしい家庭に生まれ変わるほうをは
るかに良いかもしれませぬ。これも一種の

救いだと言えます。

いま「神」という言葉がありました。これは宗教的な響きを帯びていますけれども、私たちの哲学は宗教ではありません。守護霊というようなものも全然必要ないんです。

何を私たちは拠り所にすればよいかと、いいますと、自分自身の内部にある絶対的なパワー（力）、このことは分子生物学を少しかじってみればわかるんです。

そういうものが必ずあるということは、そのパワーを便宜上「神」という言葉であらわしてありますが、これはだれの内部にもありますから、私たちは、それに「気付いて」、それと共に生きる」というふうに決意すればよいだけのことです。

それで、マインド（心）は気付かなくても、そのパワーは人体その他の万物を自動的に生かしておりますが、もつとよいことは、マインドがそれに気付いて、その内部のパワーから、いろいろな印象などをキャッチするようになれば、ここでテレパシクな能力が開発できるということになります。そして本人は安全な方向へ導かれるでしょう。

あるいは第三次大戦が仮に発生して、日本がひどい状態になりまして、攻撃を受けなくても大戦争が起こればあらゆる食料、燃料などの輸入が止まりますから、日本は資源の輸入国で止まらずに、直接攻撃を受けなくても大混乱が発生するでしょう。おそらく全国のスーパーマーケットの食べ物が一日で空っ

ぽになるというようなことが起こるかも知れません。そういうことは絶対には得ないとは断言できません。終戦直後のあの大混乱を回想してみますとね。

とにかく、そういう状態になったり、あるいは大地震が起こったりしても、「どこへ行けば安全に生き延びられるか」ということは、自分以外の他の何か自分に伝えてくれるんじやなくて自分の中に内在する「宇宙の英知」がアダムスキーは「宇宙の意識」と言っています。マインドにささやきかけてくれるのでありますから、そのささやきの声を聴き取るように自分の感受力を宇宙的な方向に高めることが先決問題になってきます。

ところが、大抵の宗教とか哲学とか道徳とかは、自分以外の何かによがれとか、あるいは折れとか、こういうふうなことがかり言いました、人間というものを非常に無力なものとしてしまっているのです。自分の宗教のほうへ来い、これを拝め、お賽銭を出せ、あるいはこれだけの寄付をせよ、そうすれば救われるお札をあげようというふうなこともやっているところがあります。

しかし人間というのは、そうまで無力な存在ではありません。一個人というのは、その歴史に、全く何も信じない、精神的な、あるいは形而上的な事を全く信じない「オレにとって信じられるのは金の力と自分自身だけなんだ」というようなことを言うニヒリスティックな人でも、結構生きています。

これは、その人間のマインドがどの程

度であるにしても、とにかく無条件に本人を生かそうとする内部のパワーが存在しているからです。だから悪党でも一応生きることができるわけです。善人だけが健全に生きられて、悪人は生きられないというふうなものじゃないですね。メシだけ食わしておけばどんな悪人でも健康を保って生きられるのは、やはり内部に絶対公平な宇宙の英知ともいえるべきパワーがあるからでして、これに気が付かないということはないんです。

ですから人間や万物を生かす英知あるパワーは絶対的に公平です。人間を差別しない。この法則に私たちも気付いて他人を差別しないで、だれに対しても公平に援助の手を差し延べる、あるいは親切な態度で尽くすということをするれば、なんらかの方法でそれは報われる、救われる、ということになるのが宇宙の法則であって、この法則はまず絶対だと思えます。

ところが人間が勝手に作り出した法則も沢山ありますので注意を要するんですが、そういうのを因習とか、伝統とかいうわけです。私たちはその因習や伝統にがんじがらめに縛られておまして、なかなか動きがとれないですね。生活上の物事にけじめをつける必要はありませんが、無意味な伝統的行事にとらわれず、自然に即した生活ができなくなってきたとして、結局、宇宙的な生き方とは縁遠くなってくるわけです。

こうした因習や伝統というものは、個人のエゴを高めるために生じるわけですから、あまりはまり込むと、結局自分が

エゴの強い人間に振り回されるように低い次元に降りてしまうことになるわけです。

こういうことは私がこの前ピスタ（注）米カリフォルニア州南部の町。米GAP本部の所在地）へ研修旅行に行きまして、イヤというほど教えられて「もっと自然に即したおらかな伸びやかな生活をせよ。いったいに日本人はあまりにも格式ばり儀式ばっている」というようなことを言われまして、なるほどそうだなと思つたわけです。

この数年來、私の近親者が次々と死にまして——老人ばかりですが——、そのために田舎や地方へ行つて葬式に出たり法事をやったり、私も葬式を主催したこともありますが、とにかく田舎のことですから、大変に格式ばつた儀式ばつたことをやるんです。それでないと思いません、田舎は——。こんなことで明け暮れていたんじやどうしようもないと思つて、ほうほうの体で逃げ帰つたんです。まあ、やはりそういうふうな因習や伝統が非常に強いわけですね。

以上「アダムスキー問題の本質」と題して若干述べましたが、これをもつと詳細にお話ししますと、何日あつても足りないほどの長話になりましたので、大体要点だけにとどめまして、自然の現象の変化が度繰り返しますと、自然の現象の変化が発生するに伴つて食糧事情が次第に悪くなり、そのために戦争が発生するであろうというところ。それから友里人がそういうことをひそかに観察しているというところ。それに対処して、私たちはどうい

生き方をすべきかということ、アダムスキーが声を大にして脱こうとしたんだと思います。これがアダムスキー問題の本質だろうと思います。

宇宙的な生き方とは

では宇宙的な生き方とは何かということ、もうちょっと具体的に申し上げます。

(1) 因習や伝統にとられない、自然に即した自由な生き方をする。ただしここで誤解が生じやすいのですが、無責任な野放図な生活ではなくて、家庭や職場において、まず責任を完遂しなくちゃいけないということです。なかなかむずかしいんですがね。

(2) 生活を簡素化させること。さつきも志田氏のお話でシンプリシティーという言葉が 나왔ましたが、あれが簡素化です。

具体的に言えば、身辺にあまりに多くの生活用品やレジャー用の道具などをごたごた置かないことです。そういう物の山の中に埋もれてしまうと、そういう物から発する波動によって自分が、がんじがらめに縛られてしまつて容易に抜け出せなくなりまふ。ですから、いつでもどこへでも移動できるような身軽な環境にしておくことが大切だと思います。これは実際に何か大変動が起こつた場合に、すぐよそへ移動できる良さもあります。ふだんからあまりごたごたしたモノ(物質)にとられないというような簡素な生活です(注||これは人間そのものの飾らない簡素化をも意味する)。

(3) 他人に対しては公平な親切な態度で接すること。気まぐれな親切にならないということ。ときたま電車の中で老人を見ては、さあどうぞどうぞいって席を譲つたりしますけれども、それ以外の時はあんまりやらないというんじや、ちょっと具合が悪いです。あくまでも公平にやるということです。

これらを土台としてアダムスキー哲学を絶えず研究し、実践することになります。

さきほどの遠藤氏の話にもありましたように、思い立つたらすぐにやらないとだめです。あとからやろうというようなことではだめでして、これは外国語の学習で最もはつきり言えるんです。外国語の勉強で参考書を開いて「この部分は明日覚えよう」「この単語はあとからゆっくり覚えよう」というふうにやっていたら、これは絶対だめです。私の経験からしても、参考書を開いてどんどん出てくる単語なり英文なりを、その場で覚えてゆくというふうにやらないと、外国語は決して上達するもんじやないんです。

それと同じでして、宇宙哲学も思い立つたらその場でやろう、そして自分自身をある日突然ガラッと変えてしまおうというふうな大決心、大転換をする必要があると思ひますね。

こういうことを口で言うのは大変やさしいんですが、実際に実行するのはなかなかむづかしいことです。ですが、やさしい事や、だれでもやれる事をやっていたんじや価値がないですからね。人がや

らないような事をやるというところに価値があるわけです。同じ泥棒をやるにしても大泥棒をやる。人がびっくりするような事をやるというのは、それなりの価値があるかもしれません。

結局、人間というのは本質的に旅人です。一カ所に永久に定住したものはないので。転生によって転々と地球上のいろんな国を生まれかわつては旅をして歩く。それから今度は惑星間を旅をして歩く。更に太陽系間を旅をして歩く。あるいは銀河系間を旅をして歩くというふうな転生によって移動するものが人間であるということですから、結局私たちは生涯においてある物事を絶対視して、しがみつかなくちやいけな、執着しなくちやいけなということは何もないんです。最後には自分の肉体系をも捨てて行くかなくちやならない。生まれたときと同じでして、この世で自分の所有物は何一つありやしないんだということを考えますと、非常に身軽なスカツとした気分になります。懐中空っぽになり一銭もない状態でも、まずあわてることはないでしょう。私は実際そういう状態になつたことが何度かあります。人間は本質的に旅人であるということですね、これが一つの重要な考え方であらうと思ひます。

それから人間の運命というものはなかなかわからないもんでして——おおまかにはわかつておりますが——、私が二十歳代の前半頃は戦後のあの大混乱期で、何をしてよいかさっぱりわからず、業蕩たる生活をすこしていたんですが、後年になってこういう活動をするようになる

であらうとは、その頃はまだ全然考えなかつたんです。こういう活動をするようになったという事は、ずっと前から、遠い過去から、決まっていたとは思ひません。

とにかく名もなき私みたいな人間の一生涯でも非常に不思議なものがあつて、波瀾万丈とまではゆかないかもしれませんが、ずいぶんいろんな事がありましたので、一日一日を本当に真剣に生きなくちやダメだということを感じて感じます。

戦後三十五年間、私はほとんど進歩しなかつたと思ひますが、とにかく年月の経過の早いには全く驚きます。三十五年があつたという間に過ぎて、昨日私は軍隊から帰つて今日はここへやつて来たというふうな、早く言えば、そういう感じがします。ですから一日一日一刻をゆるがせにできないということが自分の体験からして言えると思ひます。

時間がまいましたので、これで終わらせて頂きます。どうも有難うございました。



総会を終えて



素晴らしい総会

東京 原 弘子

過日東條会館にて開催されました日本GAP二十周年の記念すべき総会に参加させて頂きその感激もいまだ心に身体に余韻を残しております。

そしてその素晴らしい思い出を、いっそう深く心に残しておきたいとペンを取りました。

日頃早起きには弱い私もこの日ばかりは目覚しと共に飛び起きて会場へと駆けつけました。それでも着いた時は十時一分を過ぎており講演はもう始まっておりました。

今度の総会で御講演頂くGAPの方々には月例会等でお会いした折いつも高度の波動をフィリングで感じとっていた方々なので、この方々が日頃どのようにアダムスキー哲学を実践して、どのような想を抱いておられるか私は強い興味と期待をもって待っておりましただけに、各氏のお話は全身を耳にして聞きいりました。素晴らしい感動でした。流石に日本GAPのトップクラスの方々だと思います。

どなたのお話も実践あってこそ、人々の心をつくものだと思います。そして講演の素晴らしいは勿論のことながら、私にはその方々から放たれる優しさと人間

的な深い温かさを感じとって何やら胸がいっぱいになりました。

この感動は聞き入ったGAPの皆様の中に打ちよせて、その夜の記念パーティーでは会員が一つの花となって咲きほころび素晴らしい舞踊会となりました。お互いが自分であり、相手であり、一つであり、差別のない、あの一体感、あの時誰もがそう感じとっていたのではないのでしょうか。

大阪から見えられたOさん(女性の方)はこうおっしゃっておられました。

「遠い昔に私達はいまと同じようにこうして一緒に愉しく踊っている光景が私には見えてくるのよ」と。Oさんはある程度の透視能力も持っておられるようで円満で優しい人柄のとても素敵なお方です。私には透視的な能力はありませんが、それでもあの時は、どなたもが遠い昔からの仲間であり、ひとり、ひとりが懐かしく、いとおいしく感じられてどうしようもない感激でいっぱいになりました。この素晴らしい総会を契機にこれから、いっそうGAPの方々との心の触れ合いは深まり、そして私達はより高い想を抱きつつ未来(宇宙)へ生きる人間像を造りあげていく決意を固めることしよう。

ほんとうに素晴らしい総会でした。久保田先生をはじめ御講演下さいました諸氏に心から感謝を致します。また当日色々とお礼申し上げます。

最後に当日久保田先生が講演をなさいました中でメモをしておきました次の事

項をこれからの実践目標として頑張っていきたいと思えます。

- 因習にとらわれない。
- 生活を簡素化する。
- 他人には公平に親切にする。
- 思いついたらすすぐにやる。
- 自分自身をガラリと変えてしまう位の信念をもってやる。

総会の大成功を喜ぶ

仙台市 笠原弘可

総会の大成功をお喜び申し上げます。私の微力を加えていただいたことは大変な光栄であり、心から感謝しております。本当に良きレッスンになりました。

かなりずっけた話をしましたが、明るさ、楽しさの想念を強調した話なので多少笑いを入れようと思ったのです。そういつた話しかできない、というのが本音かもしれません。

帰宅して翌日職場に勤めましたが、どうにも奇妙な感じがしてならないのです。空中に浮いているというか、ここに体がないような感覚でした。

記念パーティーはまさに大パーティーで、これがGAPのパーティーかと思うほど盛大で楽しいものでした。先生のマラカスが最高でした。両手を高々と上げて熱演する先生の姿は多分一生忘れられないでしょう。(後略)

知性豊かな

ハイセンスの人々

旭川市 石川公一

あの素晴らしい総会の余韻がますます音盤を増してくる音楽のように響いてくるのを感じます。本当に日本GAPの皆さんは知性豊かなハイセンスな人たちの集団であると思えます。

とくに講演をさせていただいた代表の方々に脱帽せずにはいられません。あれほどの話を出来るのは、やはりアダムスキー氏の教えを実践しているがゆえにのことです。いっしょに今年度の総会に出席した川上さん、吉田さんは旭川支部でも大いに活躍して下さっている方々ですが、二人とも私同様最高級の歓びに満ちていると思えます。

久保田先生がおっしゃっていましたように、アダムスキー氏の教えの最良の実践方法は、その場その場で学びとってゆくことであると痛切に感じます。それは私自身のレッスンを通じて言えることなのです。今までは大変効果の悪い不良方法を用いていたようです。

あの夕食パーティーの後、ホテルに帰ってから早速レッスン方法を変えてみました。その結果は驚くほどに成功です。それはまるで受験勉強を楽しく味わっている学生のようにです。その後喫茶店にいても職場においても何故か自信があふれ出てくるのです。それは決して自信過剰のような悪い意味ではなく、むしろ宇宙航路(人生)を進む小さな船か飛行機のようなものです。多少職場では気を使うこともありますが、別に動揺したりすることもなく、たえず堂々としていられるのです。

それから仙台支部の笠原さんが言われ

ていた「想念通過法」というのは、エゴ的想念に支配されたり悩まされたりしない大変効果的な方法であると思います。今まではエゴ的な想念をただ否定ばかりしていたのですが、さっぱり向上しませんでした。しかし「想念通過法」を実践してみたところ、第一目で効果抜群で他人の個人的な意見や批判などに影響されなくなり、自分のエゴ的想念も少なくなってきました（この調子で長く続けると良いのですが――）。そればかりか微笑みさえ浮かべるようになったのです。

また静岡支部の野口さんが言われていた「ありがとうございます」という感謝の念は、物質主義者におちいることがない近道であるように思われます。

私は毎日、愛用の車に「パンビ」という名前を付けて、通勤はもとより日常のほとんどの行動を共にしています。それはまるで生きています。普通人の多くは車は単なる機械であるという認識に等しいでしょうが（GAPの方々は除いて）、私にとっては「パンビ」という名前のおり縁の森をかけてゆくあの仔鹿のパンビそのものです。朝は「おはよう」夜は「おやすみ」と必ず挨拶をするのですが、その返ってくる印象はとても可愛らしい動作や鳴き声となって（想念波動となって）伝わってくるのです。これまでに運転中、危いところを何度か助けられたこともありましたが、やはりドライブは車と常に一体であることが望ましいと思います。また車は新車を購入して自分と同じ周波数に合致させることが大切であるように思います。

今年一年私は昨年よりもずっと中味の濃い年月であったと確信しています。これもアダムスキー氏を紹介して下さった久保田先生のお蔭です。どうもありがとうございます。

地上最高のフイリング

福知山市 仲間秀樹

本年度の総会が大成に終わり、おめでとうございました。たいへん有意義な一日となりました。

実践をされている方々の御講演は言葉にそのウラ付けがあることを強く感じ、実行に移すことの意味を教えて下さいました。夜のパーティーもたいへん楽しくて、この地球上で最高のフイリングをかもし出したパーティーであったと思えました。まったく自分が二つの世界にいるような感じがいたしました。

本当にありがとうございます。先生がジョージ・アダムスキー氏の伝えられたスペースプログラムの続行に専念されて二十二年目になる今日まで持たれた信念を、私も同様さらに強い信念を持って、アダムスキー哲学の実践を生活の中へ応用させるよう努力したいと思えます。たいへんありがとうございます。

忘れられない日

秋田県 佐々木三羊子

創立二十周年記念GAP総会、大変御苦勞様でした。今年の総会には忘れられない日になりそうです。今年の総会

ほどにGAPの会員の方々の暖かさや強さと頼もしさを感じたことはありませんでした。とても感謝いたします。

講演をされた方々のお話の内容はとても素晴らしいものでした。皆様一生懸命にアダムスキー哲学を実行しておられるようですね。松山支部代表の伊藤さんが言っておられました「伝統と因習」の問題は、この地球上で生きてゆくためには絶えず直面しなければならぬ大変な問題と云ってよいと思えます。伊藤さんの強い信念に心を打たれました。

遠藤さんの、浮き出た一つの問題に対して納得のゆくまで考えつづける前向き姿勢はとても素晴らしいものだと思います。そのような素晴らしい方々の前で自分は何と貧しい心状態なのだろうと思わないわけにはゆきませんでした。

私は総会後のパーティーを予約していたのですが、「このような状態で出席してよいのだろうか」「先生にはどのようなお話したらよいのだろうか」「楽しんでる雰囲気の水を差してしまうのではないか」といろいろ考えました。

ですが私たちを応援してくださいました先生に一言お詫びを申し上げなければと思ひ、出席させていただきました。

でもパーティーに参加させていただいてほんとうに良かったと思ひました。あんなに楽しかったパーティーは初めてです。そして先生の力強い励ましのお言葉にその瞬間、私の目が覚めたような気がしました。

東京からの帰りの電車中、来る時とは全然別な自分に気づいています。東京の

会員の渡辺さんが、つらいと感じている時、その時がほんとうは一番チャンスの時なのだ教えて下さいました。その山を乗り越えてごらん下さい。そうしたらそれはもう苦しいものではない。そして一歩前進できるのです。そしてその状態は決して長くつづきはしないと言ってくださいました。

十一月九日、この一日で私は多くの方々より素晴らしい沢山のものを得たような気がしています。私には忘れられない日になりそうです。これもひとえに先生の御蔭です。「自分は絶対に良くなるんだ」という想念を体全体に刻みつけてがらばってゆきたいと思ひます。

心から反省させられた総会

東京 山木益巳

日本GAP創立二十周年記念の総会と立食パーティーが大成のうちに終了しましたことを心からお喜び申し上げます。支部の代表の方々による講演はまさに宇宙の彼方から響いてくるかのようでした。「今まで自分は何をしてきたのだろうか?」「今までの自分が今の私の心境です。アダムスキー哲学を真に実践していたら、自分の人生に一大変化があらわれるのは明白です。それなのに今までの自分はアダムスキー哲学を何も実践していません。たではないか? あらうは水増ししていたのではないか? と大いに反省もし啓発もされました。

哲学を頭の中につめ込むだけで、他人に対する調和性を持たずに非常識な行為

をするならば、それは言行不一致にすぎません。まずなによりも自分の周囲を心あたたまるフイーリングで満たすことができなければならぬと痛感させられました。次号のニューズレターを楽しみにしております。支部代表の方々と久保田先生の講演記録がとても楽しみです。

さて立食パーティーの何と楽しかったことでしょうか。先生が赤いマラカスを振り、山口氏がタンバリンをたたき、楽団の方と一緒にハッスルし、大いに踊りまくった、あのさわやかさは、たとえようもありませんでした。その後の二次会三次会がとっても楽しかったのはいうまでもありません。やはり大いに人生をエンジョイすることに尽きると思います。ブラザーズも我々のパーティーを「楽しくやっとなるわい」と見ていたことでしょう。

本当に素晴らしい総会とパーティーを企画して下さい、ありがとうございました。今後とも末永く御指導下さい。

感動の一日をすこす

大阪 出田妙子

総会後のパーティーの写真に写っている先生はじめ皆様の楽しそうな顔を見ていると、先日のパーティー、二次会と、いろいろな場面が思い起こされます。大勢の聴講者の前で堂々と講演をされた方々は、ご自分の日常の体験をふまえて話しておられるだけに、聞く私もとても感動いたしました。先生の二十年間のご努力が決して無駄にならず、こうし

て育っているということが本場にすばらしいと思います。これからも皆が共に協力しあって大きく育つよう、いつも厳しく、そして大きな愛で私達を導いて下さるようお願いいたします。

私にとりましても今年の総会は昨年と違ったレッスンを受けました。学ばねばならないことがまだまだたくさんあって一つずつ大切に、しっかりと受けとめて進んでゆきたいと思えます。

池田玲子さんからアダムスキーの教えをお聞きしてから丁度三年経ちました。石の上にも三年と言われますが、迷った道を踏みはずしそうになったりと、危なっかしい三年ではありましたが、それでも何とか無縁とならずに今いられるのが何にもまして嬉しい気が致します。これからはまた苦しい時や迷う時この三年の日々が私を支えてくれるように思います。

創立二十周年より学ぶ

栃木市 橋本 明

今年の総会内輪ではあるが、同年代の方々が沢山講演されると聞き、期待して出かけて行った。自分の持っている幾つかの疑問に対する回答が与えられるだろうと思ったからである。

そして各氏の講演を聞いてみると、毎日の生活の中でどうまでアダムスキー哲学を実践しているのかと驚き、自分の実践に対する甘さを感じずにはいられなかつた。

総会後のパーティーにも参加させてい

ただいたが、ここでも反省させられることが多々あった。多くの会員の方々はパーティーをほんとうに楽しんでいるが、私は傍観者になっている。なぜみんなと一緒に楽しめないのだろうか。みんなと一緒に踊ってみたいという印象が起ころても素直にその印象に従わず、消極的になっていたのだ。よく考えてみると、楽しみ方がわからないとか、話題をあまり持っていないとかで、みんなにとけ込めないのだとわかった。

どうしてこうなってしまったかを考えてみると、日常生活で各種行事参加等に消極的だったことが話題の不足をまねき、人生の楽しみ方をへたにしたのではないかと思われる。それでもパーティーの最後のころになると、みんなと踊り、汗をかきほろんだ。次第に二十周年記念総会を契機に自分を積極的人間にかえていこうという強い印象が起ころってきた。

- ・人生を楽しむ事には積極的に参加し話題を豊富にすること。
- ・積極的な印象がきたら、それをすぐに否定せず、素直に従って、信念をもってそれを実現させること。
- ・明日からと言わず、印象を受けた時から実行すること。
- ・私は足もとを固めないでむずかしいことを考えていたようだ。学ぶところ多きこの総会を開催された久保田先生はじめ俊英五氏、司会者の方々、全国の会員の方々にお礼を申し上げます。

会員のすべてが身内

高槻市 渡辺優美子

先日は大変楽しく素晴らしい総会に参加させていただき、本場にありがとうございました。私は司会のアシスタントという大役からいろいろ教えられることも多く、学ぶこともたくさんありました。私の仕事は十分とは思えなかったのが残念な気もしましたが良い経験となり、今後の何かに反映するワン・レッスンだと思っております。

私の日々の信念のよろさを思い出す時、久保田先生の歩んで来られたように頑張らねばと思っております。

あとのパーティーも今回初参加させていただけましたけど、本場に素敵でした。会員の全ての方々が身内という感じがするのです。とてもjoyjoy、全世界の人々がこうであればと、ふと思いました。また来年も参加させていただく予定です。ほんとうにありがとうございました。

とっても楽しかった！

尼崎市 渡辺寛子

総会とパーティーが大成功に終わり、おめでとうございます。

何て書けばいいのか、わからないけれど、とにかく、とっても楽しくて、たくさんの人達と話すことが出来て、もう感謝しきれないくらいです。本場にありがとうございました。お礼まで。

x x x

以上の他に多数の方から礼状や感想手配等を頂きましたが、紙面の都合により省略させていただきました(編者)。

質疑応答

宇宙と人間の真相(2)

担当 米GAP本部フレッド・ステックリング

この記事は一九八〇年七月に編者が研修でビスタの米GAP本部に滞在中に行った質疑応答の全訳である。

問9 転生について。人間は過去世の記憶を持って居る筈ですが、肉体が死んで焼かれた後に、どのようにして記憶を持ち運ぶのですか。

答 ます第一に「転生(生まれ変わり)」とは何かということ定義しましょう。

人間は実際には生まれ変わるのではなく、転生というものはありません。転生というのは「ふたたびやってくる」ことや「ふたたび帰ってくる」ことを意味します。しかも人間は意識的な存在であり、魂そのものです。人間とは肉体を活性化させている英知なのです。

この英知は科学で「純粹エネルギー」と呼ばれています。したがって人間の魂すなわち真自我は純粹エネルギーです。科学によればエネルギーは不滅ということとです。そこでおわかりのように転生というものは実際に存在しないのです。あるいは生命の連続です。(訳注IIこれは転生を否定したのではなく、むしろ強調したのである)。

人間はただ一つだけの生命を持っています。多くの生命を持っているではありません。そして、たしかに人間は異なる肉体(複製)を通じて自己をあらわしますが、これは私たちが一軒のアパート

から別なアパートへ移転するのと同じこととです。アパートが狭すぎたり家賃が高額になれば出て行ったりしますが、あれと同じです。しかし家の中に住む我々はどこへ移住しようともどのような肉体を持つともやはり同じ個人です。

人間の魂すなわち真自我はあらゆる出来事やあらゆる体験を記録しますが、これはビデオカメラで記録するビデオテープによく似ています。私たちが眼覚めて眼を開いた瞬間に、ビデオカメラの作動と同じように、周囲のあらゆる音声や画像を記録し始めるのです。

ところで、その記録の中で特に重要な部分または著しい部分は自分の意識の中に深く刻み込まれて宇宙的な記憶として保たれます。日常のきまりきった雑事がその記憶を与えてくれるのはありません。たとえば、私たちは朝眼覚めて朝食をとります。地下鉄に乗り仕事に行き、八時間働いてから帰宅し、夕食をとって寝ます。少しはテレビも見ます。こうした生活が年中続くわけです。人によってこんな生活を二十年も三十年も続けられます。

そこでその人たちに会って、昨年の今日起こった出来事を覚えているかと尋ね

ても、相手は覚えていないでしょう。それどころか先月の今日起こった出来事を覚えているかと尋ねても相手は記憶していません。これは相手は完全に不活発で、その生活が完全に単調であるために、日常生活で起こった出来事を覚えることができないのです。こんな調子ですから肉体を完全に取り換えてから、過去の出来事を記憶できるわけがありません。

そこで、記憶を保つ方法——というものがあるとすれば——は、あらゆる物事を、より大きな意識または知覚力と関係させることにあるのです。言い換えれば私たちが何をなさうとも、自分自身を少しでもその物事の中に「押し込む」のです。そして生活や周囲の人々に対して少しでも大きな関心を示す必要があります。何かの目立つような事を少しやればよいのです。単調な日常の存在にとどまることなく、意識が「行け」という衝動を起させるような場所へ行ったり旅をしたりますのです。

多くの人は外国へ行ったり未知の場所へ行ったりしたいという印象を何年ものあいだ絶えず持ち続けます。何かの理由で外国や別な大陸へ行きたいという衝動が起こるならば、それは内部の意識がそのような衝動を与えるからで、それによって記憶を呼び覚ますとするのです。というのは本人が過去世においてその国に住んでいたかもしれないからです。したがって自分が行きたい国へ行ってみるとは非常に重要です。

しかし人間は弁解しがたります。人間

は大体に怠け者で、旅行に出かけることを望みませんし、お金を使いたがりません。むしろ家にいたいのです。その結果、こうした「外へ旅に出ない」という魂から来るフリーリングは死んでしまします。これは「人間が望まない事柄は自然が持ち去る」という法則によるのです。しかも自然はしばしば人間が拒まなければ人間の心に印象を与えているにすぎません。ですから、もし人間が自然から来る印象に対して反応を示さないとすれば、自然は一体何のために人間のマインド(心)を作ったのでしょうか。

ところで、生活を通じて人間はあらゆる出来事を記録します。当然のことながら、積極的な生活をすこして、人間や人間が抱える諸問題、社会の諸問題などに大いなる関心をもち、その解答や解決を正直にまじめに求めてきた人は旅行を好み、他国へ出かけて安価な休暇を楽しんで、人間というものを研究し、異国の生活様式を学び、友人を作ったり人々と交流したりします。

こうした物事のすべては日常の雑事とは異なる目立つ行為ですから、本人の記憶の中に深く記録されるのです。記憶や大いなる関心を保つためには、より大きな知覚力を必要とします。私たちが自身に関心を持つと同じように他人に対して関心を持つと持つほどますます体験を積んでいることになりました。

たとえば私たちが休暇でハワイへ行くとします。そのとき、もし心に悩み事があれば、本人は非常に心が狭くなり、機内の乗客たちのことは眼に入らず、飛行

機が飛んでいることや、窓の外に浮かぶ雲、青い海の美しさ、飛行中のあらゆる体験などを知覚しなくなりません。また、ハワイの島に關しては言うまでもなく、島でのあらゆる体験は、自分中心になつてゐる本人を完全に避けてしまひます。

したがつて人間は強い記憶を保つことなしに旅行することはできません。これは本人がしばらくのあいだでも自分自身を解放しようとしなからず、悩みを解放するには自分自身を解放し、自分が体験している休暇の一時一時を吸収することが大切です。

この場合は休暇のあらゆる瞬間をたゞ楽しむばかりです。そうすればそれは自分の意識の中に深く刻まれて、そのときに本人はこうした記憶を保つことになつてゐるのです。したがつて私たちは関心を示すことが必要です。関心が強くなればなるほどその記憶は大となつて、その結果、一生涯から他の生涯へ持ち運ぶことができるのです。だからこれは生命の連続です。ときには転生と呼ばれますがね。

さて、転生からの魂、すなわち新しい肉体の中にある「我」は、自分の正体を新しい肉体のチャンド（心）に印象づけようと絶えず努力しています。言い換えれば、人間は肉体を取り替えたあとに今も生きており、新しい肉体の中に入つてしまつたのだというわけですね。

その新しい肉体は幼時や十代の段階を通じて成長してきましたが、この段階で記憶がよみがえつてくる良い機会がありますし、地球では発達が遅いのですが、少なくとも理解は向上します。この肉体

の魂はマインドに対して、自分がだれであるか、どこから来たか、この生涯の目的は何か、自分の宿命はどんなものか、などを絶えずマインドに印象づけようとしてゐるのです。ところがマインドの意見や侵略的な性質のために、そして内部の魂の声を聴き取る力がなかつたりするために、地球上の大抵の人は迷つてゐます。金星の人々はこの地球を「迷える魂の惑星」と呼んでゐます。というわけは、地球上の九十九パーセントは実際に道を歩きまわつていながらも迷つてゐるからです。しかしここで「迷つてゐる」というのは、自分の本当の正体を見失つてゐるという意味です。人々は自分がだれであるかを知りません。自分の正体について忘れてゐます。その結果、人々にとつて転生、眼覚め、生命の連続などは存在しないのも同様です。

人間は自分の過去を記憶しない限り価値はありません。人間は記憶を保つ必要があるのです。これはアダムスキー氏が「レバシー」「生命の科学」と題した講座（日本語版は文久書林刊）を通じて可能となります。この講座によりスピービービルとアダムスキー氏は人間のマインドを再覚醒させるプログラムを開始しました。この目的は、人間の心が何により出来てゐるか、個人の意見とはどんなものか、この意見をどんなふうにしてコントロールできるか、どのような方法でマインドを訓練して、マインドという一家族を秩序立てることが可能になるか、というような事柄を人間に教えることにあります。

以上のようなことが今日人間のコントロールされないマインドに発生しているのです。私たちは視覚、聴覚、嗅覚、味覚などの感覚を持つてゐますが、これらは人間に対して役立つどころか、生命界を害してゐます。その結果、互いに争ひ反論し合つてゐるのです。特に内奥の魂から印象が来るとき、マインドは完全に他の事に熱中してゐますから、このフリーリングを信じようとしなからず、明確な番組（印象）を受信することができま

以上のテイピング（教え）を確実に実行して向上すれば、魂は肉体と、マインドと呼ばれる経路を通じて正しく表現できるのである。言い換へますと、あなたがテレビ受像機を持つていれば、これは人間のマインドにきわめて容易にたどることが出来ます。受像機は肉体で、チャンネルのセレクター（つまみ）は各感覚器官です。しかし受像機とチャンネル・セレクターは実際には知的物体ではありません。それは死んだ物体であつて、部屋の片隅に置いてあります。もし知的な番組が電波でやつて来なかつたり、受像機に画像や音声を生かさなかつたりすれば、受像機に生命はありません。電波が来なければ受像機に電氣を通じてやつても画像や音声は出てきません。

そこで、画像や音声を運ぶ電波を人間の魂または英知としてたとへることが出来ます。この場合、テレビ受像機は肉体であり、チャンネル・セレクターはマインドです。いまテレビ受像機が正しい作動状態になれば私たちは修理人と呼ばれます。この修理人は大きな本を持つており、受像機の修理の仕事を始めます。彼はあらゆる部品を慎重に調べてチャンネル・セレクターを調整し、どのチャンネルを出しても鮮明な画像が見えるようにします。仕事が終わると、私たちは鮮明な画像と音声による番組をはつきりと出すことができます。

アダムスキー氏はこの例におけるテレビ受像機の修理人にほかなりません。私たちのテレビ受像機（肉体）と、チャンネル・セレクター（マインド）を正しく

せん。したがって本人は迷える魂ということになります。なぜなら本人が用いている器具すなわち肉体とマインドは混乱し、故障しているからで、これは大修理する必要がある。

私たちは今このような特殊な問題について語り合っていますので、非常に非常に重要な印象が私のマインドへやってきました。以上の問題は、生命についてより大きな理解を求めている人々のすべてに理解されねばなりません。これは「熟達」と呼ばれています。

私たちは、人間というものは老いれば老いほど成熟してゆき、若い人ほど愚かであるという古代の誤った概念を持っています。その結果、年をとった人は指導者と呼ばれ、若い人は弟子と呼ばれますが、これは完全な間違いです。進歩というのは魂の進歩であって肉体ではありません。九十歳にもなりながら全くの白痴であるような多くの人が歩きまわっています。一方、二十歳の人も多く歩きまわっていますが、彼らは老人たちよりもむしろ一指導者の話を聴こうという意欲に燃えています。魂は内部にあるものから、熟達というのは個人の魂の発達を意味します。一個人が熟達の段階に達したとき、肉体を取り換えて新生児の肉体へ移動します。するとその幼児はすでに指導者なのです。本人はさまざまな要素を完全にコントロールできませんし、賢明であると思われている、または指導者と呼ばれて豊富な知識を持っていると思われている老人たちよりも、千倍もの進歩をとげていることがあります。

私たちが、大いなる進歩をとげた、そして自分の本当の正体を示すことのできるような人を探し求める場合、「この人は若すぎるので指導者としては不向きだ」と言っているではありません。また「この人は女だから指導者にはなれない」と言っているではありません。男性女性の如何を問わず多少とも与えるべきものを持っていることを忘れてはいけません。

しかし意識は男性でも女性でもありません。意識は創造主で、純粋な英知、純粋なエネルギーであって、それは男の肉体を活性化させているのと同じように女の肉体をも活性化させているのです。生命に關する熟達者には男でも女でも女でもなれるのです。日本GAPの女性会員の方々に對して良い知らせがあります。それは、地球では女性のほうがネガティブな面を持つために男性よりも進歩しているという事実です。女のほうが宇宙の意識に対してより以上に受容的なのです。女は男よりも多くのフィードバックや予感を応用します。一方、男は女よりもはるかに頑固でコントロールされません。そのため良きセンスの持ち方と良き行動の仕方を教えてくれる良き女性を導く必要があります。男は、こうしたことを慎重に考えることが大切です。

(訳注)以上の長い回答をステックリング氏は全く濃みなしに一気に話し終えた。問10 私自身はこの質問に対する解答をすでに知っていますが、もう一度尋ねることになりました。

地球へつれて来られたのですか。現文明以前の大昔に恐竜のような巨大な動物がいましたが、これも別な惑星から運ばれたのですか、それとも地球上で自然に発生したのですか。

答 そうですね、地球が居住に適するようになったあとで地球は植民地化されましたから、動物のなかには別な惑星(複数)からつれて来られたものもあるという事実を私は否定しません。

(訳注)日本語の名詞には複数の概念がないので、いちいちカッコをつけて複数と明記するのが普通だが、これは煩瑣に耐えぬので、今後、複数の名詞の下には横文字の「s」を付けることにするから、その意味だと了解されたい)

そして人間も別な惑星から地球へつれて来られたのです。つまり、この太陽系と別な太陽系の異なる場所から十二種の種族が来たのが始まりです。それらの種族のなかにはベット(愛玩動物)をつれて来たものもあり、もとの惑星で役立った好みの動物をつれて来たものもあると私は確信しています。

しかし忘れてならないのは、地球自体は私たちが知っているほとんどの動物を創り出す能力を持っているということです。

地球は銀河のガスから生まれました。このガスが固体化して惑星地球となったのです。このことは宇宙のいかなる惑星でも同様で、数十億光年彼方の太陽系でも同じです。そうすると、同じ生命体が他のどこにも存在することになります。言い換えれば、独特な地球を作り上げて

いる材料は、大宇宙の中では独特ではないのです。それは宇宙全体に遍満しています。

一惑星が創造されて冷えると、蒸発が起り、雨が降り始め、海に水が満ち始めて、ガスや惑星の物質内に含まれていた植物の種子や動物のタネが発育して生命が出現します。地球が冷えた後、最初にまず人間用の植物が全惑星を覆いますが、この植物は多くの有毒ガスを放ちますが、これは食用にするために必要な過程なのです。すると恐竜のような動物が地球上に出現します。これは地球上で発生したのであって、他の惑星からつれて来られたものではありません。地上の温度が今よりもずっと高温であった頃の、生成の初期の段階に地球で生じたのです。たぶん現在よりも華氏で十ないし十五度高かったと思います。ガスはきわめて有毒性で、まだ人間の居住は不可能でした。

この恐竜は大変に巨大なものになりましたが、地上の植物も同じく巨大であったのです。ここには一つの目的がありました。恐竜がこの巨大植物を食べて、消化により植物を変質させ、化学的な変化によって地球をもっと快適な場所にしようというわけでした。しかし植物を食いつくすと恐竜は死滅しました。彼らは大量の食物を必要とするので、それが得られなくなると死に絶えるのです。

しかし地理学的なパターンは今もなお存在しています。地上にはトカゲやその他多くの爬虫類や昆虫がいるからです。爬虫類は特に地球上の各地にいますし、

砂漠地帯の爬虫類に關連してクロコダイル(アジア、アフリカ産のワニ)やアリゲーター(アメリカワニ)などもいます。これらには正確な地理学的なパターンがあり、恐竜の形をしたものもあります。違うのは非常に小さいという点で、これは巨大なサイズはもはや必要としないからです。

地球は私たちが知っているあらゆる動物やあらゆる生命体を創り出してきました。他の惑星でも同様です。唯一の相違点は、地球は人間を絶対に創造しなかつたということです。私が持っている知識によりますと、人間は地球上で創造されたのではなく、地球へつれて来られたのです。地球は人間を創造する力を持たなかつたからです。地球人はこのことを知りません。したがって、人間はサルから進化したものだというダーウィンの説は真実ではありません。サルはいつまでもサルで、人間はいつまでも人間なのです。

問11 ムー大陸とアトランティス大陸について説明して下さい。どのようにして破壊したのですか。それとも自然に海中に沈んだのですか。

答 まず、大陸が突然出現したり消滅したりする理由について理解することにしましょう。惑星が創造される時、ガスは最初時計回り方向に動き、次に逆回転して固体化します。ガスのなかには他の岩石に凝固するものもあります。このようにしていまハチの巣状の惑星ができたとします。

いまナイフでその惑星を半分に割った

としますと、その内部はスイスチーズのかたまりみたくに見えるでしょう。大きな空洞があつて、その中は凝固しなかつたガスで満ちています。初期の頃は惑星の内部にまだガスが沢山ありました。それで巨大なガスの泡がアトランティス大陸をムー大陸と同じ海面上に押し上げて、大きな島を形成したわけです。当時、海底は肥沃な土でしたから、この島は植民化されました。島中に火山があつて、すごく美観を呈していました。こうした大陸には人間が住み、数万年間も居住したのです。

惑星が極移動の過程に入る場合、これは島宇宙の一部として回転する結果として生じる現象なのです。私たちの太陽系は島宇宙(銀河系)の一部として回転しています。これは約三万年——そうです、二万二千年から三万年のあいだです。でもって一周期を終了します。この回転周期を正確に測定することは不可能です。科学者がまだ測定器を開発しないからです。しかし大体に二万二千年から三万年のあいだと考えられています。

私たちの太陽系が島宇宙の一周を終えたとき、太陽の磁極が逆転し、これは全惑星群の極移動をひき起こして、更に磁場の変化も生じます。こうした変化により惑星はくらくつき始め、時がたつにつれてくらくつきがひどくなります。言い換えれば、このくらくつきが二十五度ないし三十度もひどくなる時、惑星はもはやこのくらくつき運動を支え切れず、もとの位置に戻るか、またはひっくり返ります。

惑星がひっくり返ると、地球上にはも

のすごい変化が生じます。赤道地帯や極地帯が移動するからです。今まで存在していた大陸は沈下し、昔のムー大陸が浮上して、極の氷は溶け、海水が増加するでしょう。表面ばかりでなく地球の内部にも激変が生じるでしょう。

この大変動の発生中に地下のガスチェンバーも移動するでしょう。特に莫大な圧力下にあつたガスは一チェンバーから別なチェンバーへ移動して、すごい圧力をかけます。このことがアトランティスやムー大陸にも起こつたのです。ガスチェンバーや巨大なガスベルト(訳注)本誌70号の18頁と23頁の記事を参照)が、地球の極移動後に巨大な圧力をかけられるため、ガスは逃げねばなりません。そうすると大陸に存在する、私たちが火山と呼んでいる「安全弁」は急速に生き返ります。

十や十五どころではなく、おそらく百はあつたと思われるムーやアトランティスの火山は溶岩やガスを噴出しましたが、これは地下のガスベルトから逃げて来たガスなのです。このとき当時の科学者や警官は次の段階でどうなるかをよく知っていました。つまり安全弁の役目を果たす火山のすべてが同時に爆発すると、いつかは地下のガスチェンバーは空洞になるのです。空洞になると内圧はなくなり、大層は広範囲に陥没します。

警告に注意していた人々はこれらの大陸から脱出しました。太平洋にあつたムー大陸の住民は北アメリカへ移住しましたが、これが現在のアメリカインディアンです。一方、アトランティス大陸の住民

はエジプトへのがれて、後にエジプト文明を築きました。

しかし西大陸の住民の八十パーセントは警告を無視したために、大陸沈没と同時に死んでいます。西大陸は数百年経過して沈んだのであつて、あらゆる悲劇は数百年間に発生したのです。そこで、なぜ住民は科学者の警告に従つて脱出したのかということになりましたが、この理由は簡単です。

この西大陸とも初めは住民たちが宇宙的な素晴らしい生活をすごしたのですけれども、後にはきたない人間になりました。彼らは個人の財産の所有権を主張し、この財産を残して身一つで脱出することをいやがつたわけです。このことは現代でも同様です。人々は火山地帯や地震の多い地域の周辺に農地や家を持つています。そしてそんな場所に住むのは危険だと科学者から絶えず警告を受けているにもかかわらず、捨てようとはしません。地震が発生して数百万の人が死んだとしても、なぜこんな無責任な事をするのかと人間は神や天を非難しますが、実際は神は関係ありません。これは聴く耳を持たない人間の愚かさによるものです。だからこの地球上では大抵の人が自然の大破局で死ぬのです。

(以下次号)

久保田八郎訳





「アメリカ南米宇宙考」 古学の旅」を回想して (2)

〈到着順に掲載〉

郷愁と憧れの南米へ

千葉県 鈴木一宏

南米。それは私にとって郷愁とも憧れともいえる所である。今度の旅行で訪れることができたのは非常な幸運であつたと思う。昨年にひき続き二度目の海外旅行なので、落ちついてたこともあるが、旅行団の雰囲気も昨年とまるで違っていた。そして一人一人強い意気込みを感じることができた。

さて、十四・十五の両日はアダムスキー氏関係の遺跡見学と本部訪問である。昨年は霧で悩まされたパロマーガーデンズやパロマー山は、カラッと晴れて、天文台のドームが映えて美しかった。だがデザートセンターの曇りかたこと、石を踏みしめながら、もくもくとコンタクト地点まで歩きつづ、二千年前に思いをはせてみる。今より豊かな土地で、人々は全く自由だったろう。インディアンの井戸を見ていると当時の光景が脳裏に浮かんで来そうだ。

本部の方々と夕食会は更に素晴らしい。常に意識的な高度な人々と同席するだけで、こちらのマインドが平靜になつてくる。謙虚で、しかも心からこの会を楽しんでいる。本部の人達から見れば、私など子供の様に見えるだろう。

この両日で旅行の目的のほとんどは達成されたと思える。特に、夕食会時にイングリッド夫人よりアドバイスをいただいたことは、私にとっても彼女(近藤さん)にとっても最大の喜びであった。そして昨年同様、ここを立ち去り難かつたことはいうまでもない。

十六日からは南米へ。ペルーのリマ市は砂漠の中の都市ではこりつぽくて、冬のためどんよりしている。クスコ市は街の建物が周囲の山と同色で非常にマッチしており、静かな所であるが、私の肌には余り合わない所。むしろポリビアのラパス市の方が良かった。これは人種的要素もあるだろう。

十七日にサクサワマンとタンボマチャイ、十八日、マチュピチュ、二十一日はティワナコなどの遺跡見学を行ったわけだが、どれも興味尽きない所であった。サクサワマンの遺跡中で、かつて金がはめ込まれていたという蛇形に彫った巨石では、多少磁気的異常が認められたのは面白かった。マチュピチュは、「よくこんな所に」と思えるほど断崖絶壁の上にあるが、下方の眺めが非常に爽快であつて、自分のマインドもこの様に静鎮しなければならぬと思つた。ここで私は好きなケーナを吹くことができて、感慨無量であつた。又、ティワナコの太陽の門は実際にはそれほど大きい物でなく、

意外であつたけれども、遺跡周囲の風景に私は魅了されてしまった。高原に点在する民家を見ていると、言ひ様のない哀愁を感じてくる。過去世でこの様な所に住んでいたのではないかと思えてくる。この感じは生涯忘れられないだろう。

十八日のクスコ→マチュピチュ、十九日のクスコ→プノ間と、アンデスの山間部を抜け、インディオの部落やリマの群れを見ながら行く列車の旅は、日本では絶対に味わえない旅となつた。エキゾチシズム満点であり、親しみさえ感じず、貧しい生活ながら、それなりに精いっぱい生きていくインディオの人達を車中から見ていると、物質文明に浸っている人々の方が幸せなのか考えさせられてしまふ。

二十日はチチカカ湖を水中翼船で通つた。海みたいな湖で、潮の臭いがする。J・チャーチワード氏のいう通り、約一万二千年前、ここは太平洋とアマゾン海を結ぶ運河の名残りであるのだろう。プノのホテルから見たチチカカ湖の夜明けは実に素晴らしい。「来て良かった」と思わず声を出すほどであつた。

ところで、南米へ来たもう一つの目的である民族音楽(フォルクローレ)が聞けたことは、私にとってこの上ない喜びであつた。クスコでは十七日に短時間であつたが民族舞踊を心ゆくまで満喫でき、翌十八日と二十一日のラパスでフォルクローレに陶醉した。こうなると奏者と自分が一つになつた様で、もうどうしようもなくなる。

南米最後の二十三日は、この旅行のハ

イライト、ナスカの地上絵見学である。余りにも壮大でかえつてピンとこないほどだ。光線の具合で確認の難しい絵もある。しかしそれ以外に、パン・アメリカンハイウェイを通る心ないドライバーによって荒らされた絵があつたり、山側に雨が降るらしく、水が流れた跡があつてそれで壊されている所もあるため、いつまで地上絵が見られるのか心配になる。

二十四日。再びロスアンゼルスに戻って見慣れた風景に安心しながら市内見学後、サンタモニカの海岸へ。ラパスにもつと滞在したかたという思いもこの海岸を見ていると消えてしまふそうだ。砂が白くてきれいだし、広々としている。少々冷たい海に入って彼女と二人で泳いだことも良き思い出となつた。

現地の人々は皆親切であつた。リマの街頭で地図を売っていた父娘。パンを買おうとしたが現地の通貨を持っていないで困惑していた処、お金はいらないから持つていっていいと言ひ、貴重品を盗まれたなようにと忠告してくれた雑貨屋のおばさん等。物の考え、肌や瞳の色など違つていても皆同じ人間であり、それ相応に生活している。ただ言葉だけが障害なのだ。そして他人への親切、思いやりこそ「愛」の第一歩であり、これを実践してゆかなければならないと感じた次第です。

さて、最後に、旅行中に色々とお世話になつたメンバーの方や、私の良き理解者であり小まめに手助けをしてくれた将来の妻(近藤さん)、そして、この旅行を計画し大変な御苦勞をされた久保田先生と田中さんにお礼申し上げます。本

当に素晴らしい旅行をどうもありがとうございました。

初めての海外旅行に感動

静岡県 高梨和明

私達夫婦はなんと幸福者なのだろう!! 昨年の結婚披露宴に久保田先生に主賓として御出席をお願いしたことが素晴らしい旅行の「ブレイク」でした。

それ以来、すべてがうまく動いていると信じながら、そして感じながら旅行の準備も驚くほどハッピーにいったのです。「あまり思い過ぎると実現しない」というのは心配をするためもあるのでしょうか。私達夫婦はむしろすつかり「大船に乗った気分」になっていたので、「貴重な大旅行」が成就するのは当然だったのでしよう。もちろん自分達の力だけでなく、多くの方々の御協力があったのですが——。「心にイメージを描く方法」によるものと思います。

出発前日のホリデイイン成田の夜には懐かしい方々や初対面ながら意気投合した方々と懇談をしました。

成田空港の結団式では志田さん夫妻と宇貴ちゃん、鈴木さんと近藤さん、それに私達夫婦も先生から参加された皆様を紹介されましたが、先生のお優しさに感激いたしました。皆様から祝福を受けた時、モノスゴイ祝福の波動だったので驚いてしまいました。暖い想いをありがとうございます。

生まれて初めての海外旅行。747の機長がかつこよくロスアンジェルス

候はくもりだと日本語と英語でアナウンスした。雲の切れ間から眼前に茶色の街が見えた。しっかりと都市計画による碁盤目状の道路。雲の海をつきつて着陸した時、後部の席の方から拍手が湧いた。この地が私の憧れのアメリカだ。

パロマーガードンズの道は、山奥に行くにしたがい、緑が多くなっていった。アダムスキー氏ゆかりのレストラン付近は主道から少し登ったゆるやかな斜面にあった。行楽客が来ているが、この辺は大変落ち着いた雰囲気である。この場所と感じた。いつまでも、散歩したり、たのしみたりしたかったが、許された時間にはあまりにも短かく、出来るだけ多くの写真をとるのがせいっぱいであった。何度もふり返る場所のひとつであった。

曲がりくねった道を登りつめると忽然とかの有名なドームが見えた。パロマー天文台はあまり期待していなかったが、行って見て驚いた。観光地であるはずだが、日本のように「世界第二の天文台」などの大宣伝は少しもしていないのだろうか。大きな看板は皆無、ケバケバしいみやげ物屋もない。そればかりが、この白い天文台も非常に美しく、すっきりしたデザインで、その背景は見たこともない青い空、緑も生き生きとしていて、何より空気が純で、何度も深呼吸したくなる。

ビスタの清潔な街のレストランでの日米合同夕食会は私にしては一瞬のうちに終わったかと思えない。本部の方々の夕食会ということで初心者として夢中だったのだ。

翌日、残念ながら本部の見学はなかったが家の前では、先生の説明の後、各自思い思いに写真撮影をしたりしていた。アリス・ウェルズ夫人のことで日本人ならくつとくるところだが私は高く落ちついた気持ちになった。アリス夫人の美しき転生を祈った。久保田先生を囲んで少数の方が写真を書いていた。それに気づいた人がだんだん寄ってくる。先生がフレッド・ステックリング氏を手まねきした。するとさつきからうらやましそうに見ていた人々も思わずがまんしきれず、おふたりのそばで写ろうとすこいいきおいで走り寄る。この正直さに皆で愉快に笑った。

待望のデザートセンターは意外と交通便のよいところで、道路からも歩いていける。想像したよりこじんまりした場所だった。ここに昔偉大なるインディアンが住んでいたことやアダムスキー氏とオースン氏の会見が行われた場所、最重大な場所かと思うと興奮をおさえようとしたり、波動に親しもうとしたり、写真撮影にも忙しい時間であった。もつとゆつくりと親してみたい。

旅行が終わって日々が過ぎることにアダムスキー氏ゆかりの地の思い出がますますクローズアップしてくる。そしてこの旅の重要性がもつとわかってくるような気がしてくる。

妻の美幸も旅行中、GAPの多くの方々と親しく接することができて、幸福と感じているようです。私より多くの友人ができた妻はGAPについては初心者ですが、この旅行によって無限の希望と自

信をつけた。久保田先生ありがとうございました。田中氏ありがとうございました。旅行中お世話になった皆様ありがとうございました。

高貴な本部の方々と共に

名古屋 武田充弘

旅行中、最もお元気そう、素晴らしい海外旅行を企画して下さいました久保田先生、いかがお過ごしでしょうか。

先生の御立派な親しみのあります人柄にも触れることができて、また参加されました方々からも御親切にして頂き最高の団体で、素晴らしい旅でした。

異国を感じさせず故郷に帰ってきたと言わうほうがびつかりのアメリカでは、高貴で素晴らしい精神が高揚せずにはいられない本部の方々とお会いすることができて、本当によかったと思います。

日米GAP合同夕食会ではステックリング氏やホワイティング氏によって行われました質疑応答で、運命について私も同じような疑問がありましたから大変参考になりました。またお別れするときイングリッド夫人に握手していただき、さらに激励までしていただきまして全身が感謝の気持ちでいっぱいでした。

マチユビチュの大遺跡、雄大な自然に圧倒され、山口さん、菊地さん、清水さんと楽しく過ごしました山岳列車、壮大でも野口さんからお聞きしました事によりまして一層感動したナスカの地上絵——。(後略)

(以下次号)

主要訪問地紹介

■ロサンゼルス 米カリフォルニア州の州都で人口 300 万。アメリカ第 2 の大都市で美しい町です。気候が温暖で住みやすく、日系人も沢山いて、リトル・トーキョーという日本人町もあります。東洋方面からの表玄関といえる航空路線の重要基点です。

■パロマー天文台 ロサンゼルス南東 150km のパロマー山頂、標高 2,000m の台地に 1948 年 6 月に建設された、当時世界最大の 200 インチ反射望遠鏡を設置した天文台。紺碧の空に高さ 60m の純白の大ドームが美しく浮き上がっています。ドーム内で望遠鏡を参観します。

■パロマーガーデンズ 1950 年代頃にアダムスキーが俗界を離れて門弟たちと共に約 10 年間住んだ場所、パロマー山の山頂付近にあり、現在はキャンプグラウンドになっていますが、高弟のアリス・ウェルズ夫人が経営したレストラン跡やアダムスキーが自ら建てた木造の木小屋は記念物として保存してあります。

■アメリカ GAP 本部 カリフォルニア州南部のピスタ市にあるアメリカ GAP 本部（正式にはジョージ・アダムスキー財団）は、かつてジョージ・アダムスキーが住んでいた場所で、現在も建物は残っており、高弟のマーサ・ウルリッチさん、フレッド・ステックリング夫妻、スティーブ・ホワイティング氏らが活動の本拠としています。アダムスキーの寝室や遺品類も保存されています。ピスタ市には 2 泊して 2 日目は本部で質疑応答会を行い、夜は日米合同の大夕食会を立食形式で開催します。

■デザートセンター カリフォルニア州南部のモハービ大砂漠の一部で、1952 年 11 月 20 日、アダムスキーが 6 名の目撃者と共に、着陸した円盤から降り立った金星人と会見した場所として有名になりました。詳細はア氏の著書「空飛ぶ円盤は着陸した」に述べてあります。

■グランドキャニオン アリゾナ州北部にある雄大な大峡谷で、長さ約 350km、幅約 20km のカコウ岩、ケツ岩、石灰岩などの岩層が奇怪な形をなしてつらなり、大景観を呈しています。近くのフラグスタッフ市へ 1 泊して、峡谷の南側リムから遊覧電車で見学します。このあとロサンゼルスに 1 泊の予定です。（希望者のみの旅行で、追加料金を要します）

■メキシコ市 「太陽と情熱の国」メキシコの首都で人口では世界有数の大都市です。かつてはアステカ帝国の首都でしたが、16 世紀にスペイン人コルテスに征服されてからスペイン風の植民都市に変ぼうしました。往時の栄光とインディオの土俗的雰囲気とが混交して独特なエキゾティシズム（異国情緒）に満ちています。ここに 3 泊して市内及びローカル色豊かな近郊を見学し、陽気なマリアッチの民族音楽に陶酔しながら夕食会を開きます。

■テオティワカンの大遺跡 メキシコ市の北東 50km にある古代の大宗教都市。謎の民族により 2,000 年前頃太陽と月の二大ピラミッドが建設され、その間を「死者の大通り」が貫き、多数の神殿跡も残っています。「太陽のピラミッド」は高さ 60m の壮大なものです。

■パレンケの遺跡 マヤ古典期の至宝ともいうべき「碑銘の神殿」ピラミッド、「宮殿」「太陽の神殿」その他の素晴らしい遺跡が残っていますが、特に「碑銘の神殿」ピラミッドの地下には名高い浮彫を施した石棺があります。ジャングル中の幻想の世界といえるでしょう。

■ウシュマルの遺跡 美しい町メリダに 1 泊後、南方 80 km の所に位置する古典期末期のブーク様式のウシュマルへ行きます。特に「魔法使いのピラミッド」の偉容、優美な「尼僧院」「総督の館」の大建造物その他に圧倒されます。

■テチェイツアの遺跡 メリダから 120 km の広漠たる大草原中に残るマヤ後古典期文化の最大の遺跡で、カステーリョ（城）と呼ばれる壮麗な大ピラミッド、「戦士の神殿」ピラミッド、「球戯場」天文台といわれる「カラコル」、いけにえが投げ込まれた「聖なる泉」その他が見学者を魅了します。

★以上、メキシコ、ユカタン半島の古代マヤの各遺跡を一度見たら最後、その妖しい神秘的な魅力にとりつかれて何度も行きたくくなります。ここにはムー大陸の宇宙思想を源泉とする宇宙的な雰囲気がかたよっているのです。アダムスキーもかつてユカタン半島の宇宙関係遺跡探検を計画したことがあります。

■カンクン ユカタン半島北端のカリブ海に面した美しい海岸町で、ここに 2 泊してゆっくり休養します。青緑色の澄んだ海、信じられぬほどキメのこまかい純白の砂浜、灼熱の太陽——。日本人がほとんど行かない、俗化されぬこの素晴らしい保養地で 1 日、心ゆくまで海水浴を楽しんでください。

■ディズニールランド あまりにも有名なこの巨大な施設はカリフォルニア州アナハイムにあり、ロサンゼルスへ帰って見学します。特に夜の「光の大パレード」が圧巻で、これも見ます。詳細はニューズレター第 70 号 16-17 頁を参照してください。（希望者のみの旅行で追加料金を要します）

★今度の旅行は全体的にゆったりとした愉快的な旅です。思いきり異国の風物に堪能し、いつまでも胸に残る懐かしい思い出に満ちた日々となるように久保田も田中も精一杯の努力をしますから、日本人団体の海外旅行としては最高に素晴らしい「宇宙への旅路」となるでしょう。





第3回日本GAP海外研修旅行



アメリカメキシコ宇宙考古学の旅

■日本GAPは海外研修として1979年より毎夏海外旅行を実施し、いずれも大成功裡に帰国しましたが、1981年8月も下記の詳細でアメリカ西部とメキシコの古代マヤの遺跡見学の旅を行うことになりました。■例年と異なって今回はアダムスキーゆかりの地たるカリフォルニア州ピスタに2泊して半日は米GAP本部で質疑応答会を開き、パロマー天文台はもちろん、アリゾナ州の世界的大景勝地グランドキャニオンを見学し、メキシコではメキシコ市に3泊するほか有名な古代マヤの遺跡4カ所を視察したあと、ユカタン半島北端の美しい海岸町カンクンのエメラルドグリーン色に輝くカリブ海で海水浴に打ち興じてロサンゼルスへ帰り、最後は夢の国ディズニーランドで終日楽しむというリラックした素晴らしい旅が実現します。■名コンビの久保田八郎と旅のベテラン田中正が豊富な経験を生かして企画した手作りの旅行は日本GAP独特なもので費用・内容とも他社の追従を許しません。多数ご参加の上、生涯忘れ得ぬ思い出を残して下さい。

ロアダムスキーの大地と雄大な米西部へ！
謎の古代マヤの遺跡と美しいカリブ海へ！



- 定員 65名
- 期間 昭和56年8月15日→29日
- 費用 ¥558,000(航空運賃、朝食付ホテル代、団体バス運賃、その他の費用を含む。★24回払い可能(毎月約¥26,000払い))
- 主要見学地 右頁を参照
- 案内書 〒133 東京都江戸川区本一色町365-818 日本GAP (140円切手同封のこと)
- 旅行長 日本GAP会長 久保田八郎
- 添乗員 ワールドセプトラベル社 田中正
- 企画 日本GAP
- 主催 トラベル日本
- 協力 アメリカGAP本部
- 取扱代理店 ワールドセプトラベル株式会社

※この旅行は日本GAP会員を主体にしたものですが、会員でない方も参加できます。知人等にお誘い合わせの上、多数ご参加下さい。

日本GAP

年月日	日	場所	時間	交通機関	備 考
1981年8月15日	土	成田発	午後	航空機	一泊、ロサンゼルスへ 滞後市内見学 夜は祝祭会場パーティ(会員自己負担) (ロサンゼルス泊)
8月16日	日	ロサンゼルス発	午後	専用バス	パロマーガーデンズ、パロマー天文台 ピスタ遺跡ホテルへ (ピスタ泊)
8月17日	月	ピスタ発	午後		午前：自由行動 午後：赤石大平家にて旅行参加者との質疑応答会 夜：日本会館夕食会(立食形式) (ピスタ泊)
8月18日	火	ピスタ発	午後	専用バス	アダムスキーと会津屋との会館地グランドセンターを視察 (ロサンゼルス泊)
8月19日	水	ロサンゼルス発	午後		終日自由行動 (希望者はアリゾナ州の雄大な大峡谷グランドキャニオンへ小旅行) (ロサンゼルス泊)
8月20日	木	ロサンゼルス発	午後	航空機	メキシコシティへ滞後市内見学 夜はレストランにてマリッチの祝祭会場を賑わがら夕食 (メキシコシティ泊)
8月21日	金	メキシコシティ滞			終日：チオティワカンの社大を視察 (メキシコシティ泊)
8月22日	土	メキシコシティ滞			終日自由行動 (希望者は国立人類学博物館や中世部のマヤピラミッドツアーがあります) (メキシコシティ泊)
8月23日	日	メキシコシティ発	午後	航空機	ピリマール・マヤ遺跡やマヤ文明遺跡の中でも最も重要な遺跡であるピラミッドの遺跡を見学 (ピリマールマヤ泊)
8月24日	月	ピリマールマヤ発	午後	航空機	マヤとトルテカの融合文明、チチュン・イツァの遺跡を見学 (メリダ泊)
8月25日	火	メリダ発	午後	専用バス又は航空機	マヤ古文明遺跡の雄大な文化の谷を伝えるウシュマルの遺跡を見学 (カンクン泊)
8月26日	水	カンクン滞			終日自由行動(美しいカリブ海の保養地カンクンで海水浴して下さい)夜は、有名なパーティ会場を賑わがら夕食 (カンクン泊)
8月27日	木	カンクン発	午後	航空機	ロサンゼルス滞後自由行動 希望者はディズニーランドへ (ロサンゼルス泊)
8月28日	金	ロサンゼルス発	午後	航空機	一泊帰国途中 (機内泊)
8月29日	土	成田発	夕方	航空機	成田空港発、自由解散



アダムスキー氏は人類の偉大な教師

長野市 大久保武彦

私は今年(一九八〇年)の六月にGAPに加入させて頂いたのですが、機関誌を眺ませて頂き、大変感懐している所です。アダムスキー氏の体験は百パーセント真実であり、その哲学は地球上のあらゆる哲学を凌駕し、またあらゆる哲学の基本的原理をなすものです。

アダムスキー氏は人類の偉大な教師であり導き手であったといえるでしょう。そしてGAP活動は混乱の泥沼にある地球上で最も価値のある信頼のおける「光の道」であると思えます。GAPを通じてこそ宇宙への真実の道を進めるのだと確信しております。

一会員

久保田先生は毎日目のまわるほどの忙しさだと思えます。ところで私は十月十五日の夜に急病に罹り苦しんでおりましたが、先生が病氣で倒れました時、ブラザーズにテレパシーを送って救っていただいたことを思い出して、せつない身ながら必死の思いで十六日の朝からブラザーズに救いを求めたのであります。

そうしましたところ、十六日の午後には危険な状態を脱し、体調も平常近くにもどり、夕方からはくつたりと眠ることができました。私の場

合は先生のようにはっきりとブラザーズの存在を自覚できず、せんでした。私の体が急速に健康な状態にもどったことを考えますと、間違いなくブラザーズの援助があったものと確信しております。つきましてはブラザーズに感謝したいのですが、あいにく彼等の住所を知りませんので久保田先生を通じて謝意をあらわしたいと思えます。本当にありがとうございました。簡単ではありますが御報告まで申し上げます。先生に倒れてはGAPも空中分解しかねませんちよっとした時間にも体を休めるようおねがいします。

先日の月例会では私の質問に答えて下さって本当に有難うございます。アダムスキーを疑ったわけではございませんが、J研究所から発行される月誌を眺み、B氏の惑星人類についての意見を不思議に思っていたのです。これと真実が確かめられ安心できます。

アダムスキーの偉大さを再認識

千葉市 吉沢聡雄

今年GAPに加えていただいた事、有難く思っています。5年前同業誌を眺んだ時は(残念ながら久保田先生の訳ではありませんでした)会員になろうなどと思ってもみませんでした。この夏偶然に「生命の科学」

を見つけ、アダムスキーの偉大さを再認識した所です。初めはすこい本を見つけたと有頂天でいたのですが、何回も読み返すにつれて、自分の未熟さを痛感しています。

宇宙哲学はもちろんですが、私としては社会の構造や科学の進みなどにも大いに興味があります。貨幣制度がある限り、円盤機関や全ての真実が受け入れられるのは難しいのではなにかと思っています。こんなことを考えよりアダムスキー哲学による心身の訓練の方が先ですが、失礼にあたる事があるかもしれませんが、自分なりに努力するつもりです。よろしく御指導お願いいたします。

九月六日の東京月例会にぜひ分しばらぐりに出席し、先生の元気な様子に出会い安心しました。

信念と忍耐と愛

千葉市 中里信彦

一時はそうとうまいりました。フレッド・ステックリング氏が総会の質疑応答の中で(編注)一九七七年十一月、東京における日本GAP総会)、個性マヒの肉体をもった人について答えていらした時に、引越せばいいのだと、おっしゃらされたのを聞いて、私も自覚自得とはいえないの不自由さを日頃から感じていたのを、全ての身辺整理をして、先生にも迷惑のならないようにGAPを脱会して、引越そうとした

のですが、「生きるように」という声があるのです。しかし今までこんなに努力したし、自分ではとにかく一生懸命やっただけだ。なのにまだに不自由のまま。この先も何年も我慢するのには耐えられない。やは可憐いどおりにしようとしたのですが、何度か「生きるように」と「生きるように」という声があるのです。それでも私はこんなつまらない生活を続けるよりも多少でもいいから、もう少しましな肉体に引越したいと思っただけです。ガタのきた家を建て直すよりもずっと簡単だし決して悪いことではないと思っただけなんです。それでもいざんとしてその声は「生きるように」「生きるように」「生きるように」と語り続けるので私はそれなら生きる方法を教えて下さい。どんな方法でもいいからそれを私にわかるように教えて下さいと心の中で叫んだのです。

それから何日かして、しばらく続続むことにしました。続々進むうちに以前からわからなかったことがわかるようになってきました。仕事の性質上、想念観察などをやっているひまなどないと思っていたのですが、通勤時間や昼休み、仕事から帰って来て眠るまでの時間を利用してもかなり効果があることを見つけました。

それから約一カ月後、宇宙の意識が私自身の内奥にあるのだという事が心の底から感じられるようになったのです。その事は今まで何回も聞きましたし何回も読みましたので、わかっているつもりでした。しかし心底こんなふう感じたのは全く初めての経験でした。万物(人間・自然・宇宙)が一体であり分離できるものは何一つとしてないのだ。ただ自我だけがそれらを分離しているのだ。そして安らかな気持ち。豊かでも何一つ不自由のない気がしばらくの間続きました。しかし私にはやらなければならない事が多くあります。まず第一に自我の抑制です。とにかく楽しい物事を得る前にこの事が不可欠であるという事です。以前と違った事が一つあります。それは何度失敗しても失望しなくなることです。過失をおかして失望するのとは違い、それはそれこそ雲泥の差があります。たとえ一分前に失敗したことも失望せずに「なにこそ、今度こそは」と思うのと「ああ俺はなんてまねげなんだ。今度もやっぱり駄目だったか」などがっかりして、しょぼくれている時とはなんと違うことかと思うのです。この間、二日続けて起きた地震の最初の日は親類の家の二階で叔父と二人で眠っていたのですが、揺れはじめに目が覚めて、どうなるのかなと思っただけ。「大丈夫」という声があったので私は全く安心して、まだ揺れているうちに又深い眠りに入っていました。

二日目の二度目の揺れの時には多少不安になり、胸がドキドキしたのですが、心を警戒の状態にするのではなく、「大丈夫」という印象があったので、すくなく落ちつきましたが、それから二度程揺れる度に目を覚ましたのですが、恐怖も不安も起きませ

んでした。私は何が起ころうとも袖
村に死なないし、かすり傷もおわな
いと強く思いました。

話は変わりますが、九月六日の東
京月例会の時にも少しあったので
が、先生がよく思わせぶりな言い方
をするのを不満に思っていたのです
。そこまで言うのならどうして最後
まで話さないのだろうか。しかし私
の知りたと思う欲求どおりにその
ままだんどん喋っていたら私は何も
知らずに混乱し、混乱しているとい
う事にも気づかずに離反していたか
も知れません。

私は円盤に興味があり多少アダム
スキーに関心のある人に生命の法則
の一つを教えたのですが、その結果
は裏目に出ました。その家庭全体に
まで良くない影響を及ぼしてしまし
た。またその真の意味を理解して
いなかったのです。ですから私は今
正しい方向に引き戻さなければなら
ないと考えています。この方法なら
正しいだろうと安易に喋ったその結
果です。

だから理解ある人は忍耐力を持っ
て、皆がある水準に達するまでやた
らに喋るわけにはいかないのだとい
うことです。今は私の喋る事柄が家
族や親類の一部の人達にもかんりの
影響力を持つのではないかという事
を感じ始めています。なぜなら最初
全く関心を示さなかった妹が今度G
APの会員になりましたし、私もよ
く論争を起こしていた母さえも「テ
レバシー」や「生命の科学」を読む
ようになったからです。親類の何人
かはアダムスキーの著書類を読んで
みたいといひますし、そのうちの一人
はGAPの月例会に出席して一度

話を聞いてみたいとも言っています。
だからこちら(私)も信念と忍耐
と愛をもってその人達に接してい
なくてはならないのだと思うので
決してやさしいことではありませ
んが、久保田先生のご健康とGAP
の発展とを願いつつこれで失礼しま
す。

なつかしい久保田兄へ

鹿児島県界島 十彦 麟

南米グラランド・トウアの詳報満載
のニュースレター71号を送って
いただき、ありがとうございます。今日
やっと読了しました。

何十年も書き込んでこられた大兄
の雄大な筆力によって現地の情景が
活写され、オーケストラのような社
大感を感じました。

熊本育年氏のように正式(或いは
政府間契約)ルートでは(私のボ
リビア移住は)行かないと思いま
すが、私たちが五年後の(ボリビア)
移住をめざして今から準備をすすめ
ます(中略)。

御文中、短前録音とかタンギング
とかの音楽用語には目を白黒させま
した。音楽史の講義はどこでお受け
になったのか、思えば大兄のBG
(バックグラウンド)に殆ど無知で
ある私です。

(編注)むかし編者は一般教養課程
の「芸術」という四単位の科目のうち
「二単位の西洋音楽史の素暗らしい
講義を有名な音楽評論家の村田武雄
先生より受けました。残り二単位の
西洋美術史は当時有名な美術評論家
の守屋謙二先生より受け、中世英文
学は世界的な学者、厨川文夫先生、
国文学史は折口信夫先生から教わる

等、先生方には全く思われていまし
た。特に、亡くなられた厨川先生は
終生忘れぬ恩師です)

GAPの教え子さんたち、みなさ
ん清新澄明という感じがすね。広義
の校長先生としての感じがします。
Princetonの訳語としては主宰の
方がよいように思いますが、世間に
合わせればやはり松下さんのように
(会長) なりますか。(中略)

とにかくご健闘を切に祈り上げま
す。私はあの世に行ったら少しは休
めると思ってたのしみにしていま
した。アダムスキー氏はちがうこと
をおっしゃったのです。不勉強で
した。この五、六年、私も家族も円
盤に遭遇しません。プラザーズにみ
すてられたのでしょうか。

自信をとりもどしたわたし

三重県 池谷由里子

九月二十七日付の先生からの返信
事、どうもありがとうございます。
もうとても感激しました。お手紙が
届く前に先生に手紙を出したことが
すこく恥ずかしくなっていました。も
とでよくアダムスキー哲学を理解し
ていれば、どんなことでも耐えられ
ることなのに、と思っていたのです。
そして先生からのお手紙が届いて、
その中に「勇気をもって生きて下さ
い。世の中には何も心配すること
は、実際にはないのです」と書かれてあ
るようになってきました。本当にどう
もありがとうございます。本当にどう
もありがとうございます。私が手
紙を出したのは五月の初め頃で、先
生がご病氣とも知らなくて、それか
ら号外が届いてから、ご病氣のこと
ご旅行のことをお話ししたかったの

ですが、どのような手紙を書いたら
よいかわからなくて。

あの頃は毎日が悲しくて。それで
もアダムスキー哲学を心にとどめて
おこうとしたのですけれど、七月末
に会社をやめて、それからずっと家
にいます。やめた頃はもう何も
する気もなくて、ただ家の中でじっ
としていました。

それから八月の初め頃にニュース
レター70号が届き、元気が出てきて、
ニュースレターに各地支部報のこ
とが書かれてあったので、いろんな
方から送って頂きました。それを読
んでいてたくさんの方のことを考え
られました。たくさんありすぎて何
を言ったらよいかわからないので
すけれど、だんだんとアダムスキー
哲学が理解できるようになりました。
す。だから会える時、エゴの心で見
るのではなく私の心の中にある宇宙
の意識でもって見れば本当に差別な
どないのだから、だれをも愛し、信
じていこうと思ったり、あきらめ
のような想念はもたないで、いつも
明るい想念を、すべてがよくしてい
るイメージを描いていこうと思うよ
うになったり。急にいろんな想いが
寄せてきて、私の世界が明るく広
がっていきように感じるようになりました。
本当にたくさんあって、すべ
てをお話しすることができないくら
いなのです。でも、今想うのは、ア
ダムスキー哲学を知って本当にわか
らないうことです。そのことを想
うだけで、また涙が出てきそうにな
ります。もう三カ月も家にいますが、
もうすく働きに行きます。まだ決ま
ったわけではありませんが、でも
積極的な想念は起こさないで、今まで

判断していたことは忘れ去って、が
んばります。「私にはできる」と
いう強い信念を持って——(中略)。
それから今日はどうしてもお話し
したいことがあるのです。そのこと
を思うときでもなにか手が震えてく
るのです。きのう十月二十四日の夜、
八、九時頃、私は眠ってテレビを見
ていたのです。そうしたら急にドド
ド……という音がというか(編者
注)世界各地の地震を予知した事実
が詳述してありました)。

文通のお願い
GAP会員の方と文通を希望しま
す。どこにお住まいの方でも結構で
す。よろしく。

〒七七七-〇一 徳島市川内町町野島
留場千砂子
編者(他に多数の投稿がありました。深
謝します)。

「テレバシー」解説講義の
筆記録第2部完成—出版
1980年度 東京月例会における久保田先生の名講
義の完全トランスクリプト。ぜひ1冊をお手許に
おそなえ下さい。(第1部在庫若千¥300千200)
第2部/B5判/活字タイプ印刷/¥500千200
注文は下配へ直接どうぞ。
〒986-16 宮城県柴田郡柴田町大字本船迫字内
沼田96-2 安藤澄雄 振替仙台30019

日本GAP各地 行事報告と予告

80年10月以降分

▼高次元の波動に響いて 第三回 熊本支部大会

十月十九日午後一時、二年八カ月ぶりに東京より久保田先生をお迎えして、第三回熊本支部大会が開催され、四十余名の会員が出席され、盛大な大会となった。会場は熊本市内中心部の「市みゆき会館」。久保田先生の講演は、「アダムス



キー問題の本質」という普通はなかなか聴けない重要な内容だった。スライド公開はアメリカGAP本部研修の旅「愛と太陽の大地」。このスライド四百枚におよぶ大作は今後公開されないという。最後の質疑応答では歴史の背後の意外な真実が先生の口からもれた。その後、場所をうつして夕食会がもたれ、二十数名の方が出席された。

今回の大会の特徴は、大会の役員が揃って十分な準備が出来たこと。それに、九州以外から八名もの会員がみえたこと。また、久保田先生が熊本で二泊されて時間が十分にとれて、前日十八日の歓迎会が持たれ、大会翌日の二十日は、阿蘇山へのドライブに先生をご招待出来たことである。皆様どうも有難うございました。

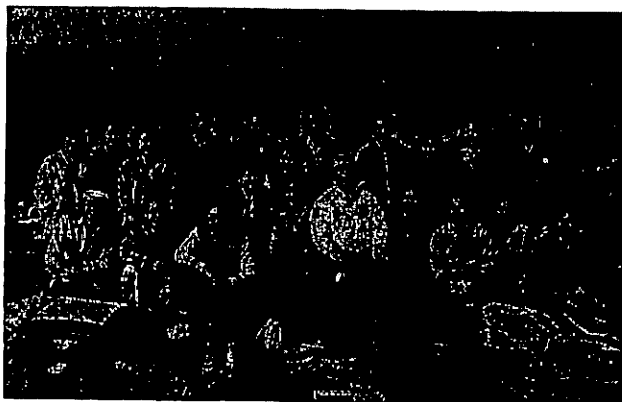
（津野田配）

▼山形支部のイモ煮会

十月二十六日、山形・仙台両支部合同のイモ煮会が山形市内の馬見ヶ崎河原で開催された。総勢二十二名。なかには南森、横須賀、栃木、東京から参加された方もあり、賑やかな一日となった。

イモ煮会というのは江戸時代から続いた有名な伝統的行事で、河原に石でカマドを築き、ナベをかけてサトイモ、コンニャク、ネギ、牛肉、キノコなどを入れ、醤油または味噌で味をつけて賞味する素晴らしい野外パーティーである。

この日編者も招待を受けて山形へ飛んだが、前日のどしどし降りの雨はやみ、奇跡的に晴れ間も出て、愉快きわまりない



午後をすごした。皆様方に厚く感謝する次第。

▼群馬支部が発足

群馬県大泉町の熱心な会員・服部久氏のご尽力によりめでたく群馬支部が発足し、一月より太田市民会館で月例研究会が開催された。地元の会員諸氏は別掲月例会案内を参照の上多数参加されたい。

▼おめでた二件

千葉県習志野市の会員・植木淳一氏は去る十一月一日、植草尚代さんと結婚さ

れ、ハワイへハネムーンに旅立たれた。ご多幸をお祈りする次第。

かねて噂のあった群馬県館林市の会員熊倉清貴氏もついに十二月七日、椎名幸子さんとゴールインされ、館林市農協大ホールで二百名を超える盛大な披露宴が挙行されてGAPからも編者共十三名がご招待を受け、編者は一席祝辞をお贈りした。お幸せに。

▼80年度 日本GAP総会

大成功裡に終了した。詳細は別掲記事と写真を参照されたい。

▼大阪支部のクリスマス

大阪支部は十二月二十一日に月例会終了後、はなやかに装飾を施した別会場に参加者三十五名によるクリスマスパーティーを開催。女性会員手作りのオードブルや飲物で愉快地踊り歌い、ゲームに打ち興じ、福引もあり、歓談の花が咲いて素晴らしいパーティーを楽しみ八時に閉会した。岐阜支部から数名参加された。皆様に深く感謝したい。

▼東京本部の新年会

一月十日東京文化会館における東京月例会は（約百名出席）山中正氏の珍しいテレビン体験や久保田会長の講演等で盛況裡に閉会后、六時半から上野駅そばの竹弥にて恒例の新年会を約六十名で開催。福引も行われて終始爆笑と歓声が渦巻き、九時頃愉快に終了した。このあと二次会三次会が別な場所で行われて尽きせぬ名残を惜しんだ。

〈予告〉地方支部大会

	松山支部大会	静岡支部大会	大阪支部大会	仙台・山形合同支部大会	札幌・旭川合同支部大会
日時	3月22日(日) 午後1:00→5:30	5月4日(月・振替休日) 午後1:00→5:30	5月17日(日) 午後1:00→5:00	5月24日(日) 午前10:00→16:20	6月7日(日) 午前10:00→4:00
会場	松山全日空ホテル 4階「弥生の間」の(西)。 松山市一番町3丁目2-1 ☎(0899)33-5511	静岡交通ビル4Fホール 静岡市黒金町55(静岡駅南口) ☎(0542)83-9234	大阪府立労働センター5F 視聴覚室。大阪府東区京橋 3丁目。☎(06)942-0001 地下鉄・谷町線天満橋駅下車、松阪屋西へ200m。 京阪電車も可。	仙台市市民会館2F 第3 会議室。仙台市桜ヶ丘公園 4番地。☎(0222)62-4721 仙台駅前よりグリーンバス 「八幡町」行きに乗り、市 民会館前で下車。タクシー なら5分、¥350。	札幌市豊平館(重要文化財) 2F18号室。札幌市中央区 南11条西4丁目、中島公園 内。☎(011)511-0985 札幌駅から地下鉄南北線 「中島公園」駅下車。
会費	¥2000	¥2000	¥1500	¥2000	¥1500
プログラム	(司会 国重和彦) 1:00 支部代表挨拶 (伊藤達夫) 1:05 講演「アダムスキ ー問題について」 (久保田八郎) 2:10 休憩・全員自己紹 介 2:25 質疑応答(久保田 3:25まで。 3:40 映画「アメリカ南米 宇宙考古学の旅」 5:15 記念撮影	1:00 支部代表挨拶 (野口敏治) 1:10 講演「アダムスキ ー問題について」 (久保田八郎) 2:30 休憩・記念撮影 2:45 映画「アメリカ南米 宇宙考古学の旅」 4:15 休憩 4:30 全員自己紹介。 質疑応答 (久保田八郎)	1:00 支部代表挨拶 (平塚和義) 1:05 講演「アダムスキ ー問題について」 (久保田八郎) 2:00 休憩・記念撮影 2:30 質疑応答と意見発 表 5:00 閉会 今回は久保田会長を中心に 徹底した話し合いの会にす る予定。 多数ご参加下さい。	10:00 講演・会員数 12:00 休憩・昼食 1:00 講演「アダムスキ ー問題について」 (久保田八郎) 2:30 休憩・記念撮影 3:00 質疑応答 (久保田八郎) 5:00 閉会 今回は久保田先生を囲んで 徹底した話し合いの場を設 けます。ふるって発言して 下さい。	10:00 支部代表挨拶 (伊藤・石川) 10:15 映画「アメリカ南米 宇宙考古学の旅」 12:00 昼食・休憩 13:00 講演「アダムスキ ー問題の真実」 14:20 休憩・全員記念撮 影 14:40 質疑応答 16:00 終了
夕食会	大会終了後6:00から8: 00まで同ホテル4階「弥生 の間」の(東)で希望者のみ により開催(立食)。 会費は¥3500程度。	大会終了後6:30から8: 30まで静岡駅南口の東海軒 会館6階ホールで希望者の みにより開催。 会費¥4000	大会終了後6:30から8: 00まで希望者のみの夕食会 会場は未定。 会費¥4000。	大会終了後6:00から8: 00まで。 会費¥3500程度。 (会場未定)	大会終了後、希望者だけで 豊平館内で夕食会を開催。 会費¥3000程度。
宿舎	全日空ホテルのシングル15 部屋とツイン5部屋予約済 S1泊¥5500 T1泊¥9000	静岡第1ホテルをお世話し ます。 1泊¥4400(税込み)	新阪急ホテル(旧大阪駅の すぐ近く)をお世話します。 1泊¥6640	仙台ロイヤル、ワシントン、 チサン、サンルート等をお 世話します。 1泊¥4000程度。	ビジネスホテルが多数あり ます。 1泊¥3500程度。
夕食会と宿舎の申込	夕食会出席及び宿舎希望者 は、ハガキに宿泊日と「夕 食会参加」と記して2月末 までに下記へお申込み下さ い。 〒794 愛媛県今治市黄金町 1-4-4 伊藤達夫 ☎(0898)22-3060	夕食会出席と宿舎希望者は ハガキに宿泊日と「夕食会 参加希望」と記して4月20 日までに下記へご連絡下さ い。 〒422 静岡市西島304-9、 野口敏治 ☎(0542)86-7729	大会、夕食会出席、宿舎の 申込はハガキで下記へ4月 末日までにお申込下さい。 〒661 兵庫県尼崎市水堂町、 3-16-8 平塚和義 ☎(06)436-3478	大会、夕食会出席、宿舎の 申込はハガキで4月末日ま で下記へ。 〒982 仙台市東十番町1番 地、国鉄アパート1-18、 笠原弘可 ☎(0222)95-0725	夕食会出席と宿舎をご希望 の方は宿泊日を記して3月 下旬から4月5日頃までに 下記へお申込み下さい。 〒071-13 北海道旭川市水 広6条4丁目1158-65、 石川公一 ☎(0166)51-5699
備考	3月の松山支部月例会は大会のため中止。	5月は支部大会のため静岡支部月例会は中止。	5月の大阪支部月例会は大会のため中止。	5月の仙台支部月例会は大会のため中止。	旭川支部報「スペース・プロムナード」を創刊。¥200 〒170 石川公一宛ご注文を。

・東京月例会と新年会・



「アメリカカリブ海 宇宙考古学の旅」

来たる八月十五日より十五日間、日本GAPは第三回の海外研修としてアメリカとメキシコをまわる素晴らしい旅を実施することになった。今回はゆつたりとしたデラックス旅行になるので多数会員のご参加を期待したい。詳細は別掲広告をご参照の上、参加希望者は百四十円切手を同封して案内書を日本GAP宛請求されたい。

▼本年度日本GAP総会

本年度の総会は十月十日(祭日、二日連休の初日)に東京都新橋のヤクルトホールで午前十時より午後五時まで盛大に挙行することが決定した。今回は三年前に来日した米GAP本部のステイプ・ホワイトニング氏を再度招待して総会当日大講演会を開催し、夕方六時より別会場にて氏を中心に立食形式による大パーティーを開く予定。詳細は次号に発表。

日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第1土曜日 午後2:00→6:00	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。国電「上野駅」の「公園口」下車、改札口の真向かいスグ。会館正面に向かって左側の入口から入り、奥のエレベーターから4階へ行く。	¥300	2:00→3:00会員による体験講演、 3:00→3:30久保田会長の宇宙哲学講義と近況報告、テレバシー練習、休憩。 4:30→6:00自己紹介、意見発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※5月は支部大会のため月例会は中止	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」☎(388)7351。 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	300	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」(文芸春秋)を持参。東京例会における久保田会長の講演テープを公開。テレバシー練習・研究発表・座談会
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟駅前「青年の家」☎0252-44-6766 連絡先=足立亘宏 ☎0252-62-0968	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田会長の宇宙哲学講義録音テープを公開。テレバシー練習、座談会。
熊本支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	熊本市桜町「熊本市民会館」会議室。 ☎(55)5235 連絡先=津野田俊行 〒860 熊本市3-12-45 常通寺内 ☎0963-52-3381	200	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」(文芸春秋)を持参。久保田会長の東京例会における「宇宙哲学」講義録音テープ公開。座談と研究発表。テレバシー練習。
岐阜支部	毎月第2日曜日 午後1:30→4:30	岐阜市神田町「商工会議所」☎64-2131 国鉄または名鉄「岐阜駅」下車、徒歩10分、バスか市電で「柳ヶ瀬」下車、近鉄百貨店を北へすぐ近く。 連絡先=間嶋泰行 ☎0582-71-0069 林 国宜 ☎0586-45-6468	300	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」「宇宙哲学」を持参。久保田会長の講演録音テープ公開。研究発表、座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20 ※5月は支部大会のため月例会は中止	仙台市「市民会館」会議室(西公園内) 連絡先=笠原弘可 ☎0222-95-0725	200	東京本部門月例会における久保田会長の講義録音テープ公開、テレバシー練習、座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	山形市民会館。小会議室。山形市香澄町山形駅より徒歩5分。☎0236-42-3121 連絡先=山口 緑 山形市東原町4-17-18朝日荘23号 ☎0236-44-0670(勤務先・12:00より夜9:00まで)	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開、テレバシー練習、研究発表、座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	中央区北一条西一丁目「札幌市民会館」会議室。☎011-241-9171 連絡先=伊藤重信 ☎011-251-4331	300	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」と官製ハガキを持参。読書会、テレバシー練習、自己紹介。
静岡支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※5月は支部大会のため月例会は中止	3月まで県婦人会館。 4月からプラザ静岡ビル8階(静岡駅北口すぐ)静岡市御幸町9-1	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田会長の講演録音テープ公開。テレバシー練習、研究発表。
旭川支部	毎月第3土曜日 午後5:00→8:00	旭川市四条通り10丁目右1号「北海道新聞旭川支社」会議室。電話0166-23-2111 連絡先=石川公一 ☎0166-51-5699	500	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。テレバシー練習、研究発表。
松山支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30 ※3月は支部大会のため月例会は中止	松山市民会館会議室 連絡先=伊藤達夫 ☎0898-22-3060 (電話は夜間のみ8:00以降)	200	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープ公開。質疑応答、座談会。
群馬支部	毎月第2日曜日 午後2:00→6:00	群馬県太田市「太田市民会館」第6会議室。 連絡先=服部 久 群馬県大泉町下小泉1939-24 いずみ案内 ☎0276-63-2163・2771	200	東京本部門月例会における久保田会長の講義録音テープ公開、座談会等。

★本誌バックナンバー(旧号)★

米GAP本部公開の唯一の日本支部たる日本GAPがアダムスキー問題に関して正確詳細なインフォメーションを伝える本誌は貴重な資料として後世に残るものです。

No.68 主要記事「UFO問題の真相(最終回)」Gアダムスキー／〈アメリカ中米宇宙考古学の旅〉紀行「転生と追憶の砂漠へ」久保田八郎／「回想のアメリカ中米旅行」——思い出を語る人々／「質疑応答(1)」ステイブ・ホワイティング／その他

No.69 主要記事「アダムスキー問題と宇宙開発」キース・フリットクロフト／「ヨーロッパのUFO事情、ベルギーGAPの活動とアダムスキーの思い出」メイ・フリットクロフト／「総会を終えて」久保田八郎／「オーラと過去の透視」／「質疑応答」(2)ステイブ・ホワイティング(3)／その他

No.70 主要記事「創造主のハート」Gアダムスキー／「愛と太陽の大地」久保田八郎／「コンピューターによるUFO写真の真偽判定は正しいか」田畑宏／「質疑応答」S.ホワイティング／〈写真〉「東京上空のUFO」その他

No.71 主要記事「アリス・ウェルズ女史、逝去」F.ステックリング／〈アメリカ南米宇宙考古学の旅〉紀行「大アンデスと太陽の帝国へ」久保田八郎／「質疑応答」宇宙と人間の真相」F.ステックリング&S.ホワイティング／その他

各 ¥500 円200 — 日本GAP —

「宇宙哲学」講演録音テープ

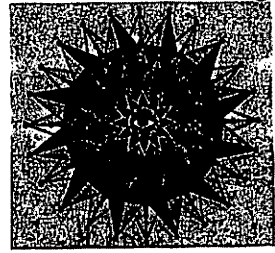
今年度東京月例会における久保田先生の毎月の講演を録音した貴重なテープ。理解を深め思想の統一を図る上で重要な資料となるものです。先生の雄大な弁舌をぜひお聴き下さい。

テープ1本(90分) ¥1000 円200

このテープの注文に限り××月分と記して必ず下記へご注文下さい(56年1月より毎月録音)。GAP本部では扱いません。

〒430 静岡県浜松市寺島町221

小島國弘(静岡支部所属。自宅TEL.0534-52-8502)



①オーソン肖像写真
②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、スペース・ブラザーズとの一体化を図る上で重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

① ¥500 円120 ② ¥200 円60 一括注文の場合 円120

編集後記

★年頭には多数の会員の方から年賀状を頂き厚く御礼を申し上げます。また多大の維持寄金をたまわりまして衷心より感謝いたします。事情によりご芳名は掲載しませんが記録は保存してあります。

★本号は昨年秋の創立二十周年記念日本GAP総会特集号とし、編者と俊英五氏による講演全文及び写真、教氏による手記等を掲載しましたので本号に限り総頁を48頁としました。次号からは40頁にもどしますからご了承下さい。本号は迫力ある記事で充実して読みごたえがあると存じます。

★重要な記事「宇宙と人間の真相」は紙数の都合により本号で完結せず、残りは次号まわしとなりました。忍耐強くお待ち下さい。★こうした、待ち遠しい、状況を少しでも改善するために、本年より本誌の発行を季刊とし、一月末、四月末、七月末、十月末の年四回発行とします。これにより不定期間から定期間に変更いたしますからご留意下さい。

★本年五月と六月は地方支部大会が集中的に開催されて活気を呈します。編者の講演題目は同じでも話の内容は地方ごとに異なりますから、ふるってご参加下さい。

★八月の第三回海外研修旅行も着々と準備をすすめて万全の態勢をしておりますので、参加希望者は早目にお申し込み下さい。大戦争が始まりそうなので旅行は実現しないだろうと予測する向きもあるようですが、編者はこれに対して否定的です。必ず実現すると信じていますし、ワイルドセブントラベル社のテレバシスト田中正氏も必ず実現するとの東京月例会の席上で断言されました。

★秋の十月十日(祭日・連休の初日)には恒例の本年度総会を実施しますが、今度はアメリカGAP本部よりステイブ・ホワイティング氏を再度招待して大講演会とパーティーを開催します。詳細は次号に掲載しますからご期待下さい。

★従来、東京月例会における編者の「生命の科学」「テレバシ」等の解説録音テープを浜村建郎氏が製作頒布してこられました。が、事情により浜松市の小島國弘氏と交替されました。今後は小島氏宛へご注文下さい。

★全国各地方支部の月例会ではなるべく編者の東京月例会における講演録音テープを会場で流して出席者に聴かせることが望ましく、コピーテープの入手に万全を期せられるようお願いいたします。これは理解を深める上で極めて重要な資料です。なお本年度の東京月例会における編者の講演は毎回「宇宙哲学」と題する幅広い内容が展開する解説講義になります。

★かねてからユニバース出版社よりアダムスキーの体験記「宇宙からの訪問者」が出版されてきましたが、今度ハードカバー付きの保存用豪華版が二月に刊行されます。定価は二〇〇〇円程度というのですが詳細は同社へ二照会下さい。二千部発行の限定版です。その他絶版になっているアダムスキーの著書類をなんとかして日本GAPより出版するべく画策中です。(K)

お知らせ

多分本誌は一部頒価を五〇〇円としてきましたが、昨今の諸物価高騰その他により五〇〇円の値を維持することは困難になりましたので、申し訳ないことながら、本号より一部頒価を七〇〇円としますのであしからずご了承下さいようお願いいたします。したがって一回分金費は七〇〇円プラス送料二〇〇円で計九〇〇円となり、年金費は四回分で三六〇〇円となります。すでに旧金費金額で前納済の方は据置きとし、差額は頂けません。

日本GAP機関誌・季刊
GAPニューズレター 72号
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒113 東京都江戸川区本一色町361-818
電話(651)0958
振替東京430912(久保田八郎名義)
一九八一年一月二十五日発行
頒価七〇〇円・送料200円